CA ARCserve® Backup for Windows

Dashboard ユーザ ガイド

r12.5

本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム（以下「本書」と総称）は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報でかつ財産的価値のある情報で、アメリカ合衆国及び日本国の著作権法並びに国際条約により保護されています。

上記にかかわらず、ライセンスを受けたユーザは、社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成でき、またバックアップおよび災害復旧目的に限り合理的な範囲内で関連するソフトウェアのコピーを一部作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。 ユーザの認可を受け、プロダクトのライセンス条項を遵守する、従業員、法律顧問、および代理人のみがかかるコピーを利用することを許可されます。

本書のコピーを印刷し、関連するソフトウェアのコピーを作成する上記の権利は、プロダクトに適用されるライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。 いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーを CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

該当するライセンス契約書に記載されている場合を除き、準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。 また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等いかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害について明示に通告されていた場合も同様とします。

本書及び本書に記載されたプロダクトは、該当するエンドユーザ ライセンス契約書に従い使用されるものです。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

Copyright © 2009 CA. All rights reserved.

CA 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA の製品は以下のとおりです。

- BrightStor® ARCserve® Backup for Laptops and Desktops
- BrightStor® CA-Dynam®/TLMS Tape Management
- BrightStor® CA-Vtape™ Virtual Tape System
- BrightStor® Enterprise Backup
- BrightStor® High Availability
- BrightStor® Storage Resource Manager
- CA Antivirus
- CA ARCserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines

- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Disk to Disk to Tape Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA Dynam®/B Backup for z/VM
- CA VM:Tape for z/VM
- CA XOsoft™ Assured Recovery™
- CA XOsoft™
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

CA への連絡先

テクニカル サポートへのお問い合わせ

本製品を便利にお使いいただくために、CA では Home Office、Small Business、および Enterprise CA の各製品で必要な情報にアクセスするためのサイト（http://www.ca.com/jp/support/）を提供しています。

目次

第 1 章: Dashboard について 11

概要 11
Dashboard の機能 13
Dashboard の GUI 14
表示オプション 15
Dashboard レポートのカスタマイズ 18
グローバル オプション 18
電子メール レポートの設定 20
レポート特有のオプション 27
SRM プローブ設定 29

第 2 章: Dashboard の使用 31

CA ARCserve Backup Dashboard の使用 31
Dashboard グループ 33
Dashboard グループの追加 35
Dashboard グループの変更 36
Dashboard グループの削除 37
ノード層 38
ノード情報 38
エージェントの更新警告 39

第 3 章: Dashboard レポート 41

CA ARCserve Backup Dashboard レポートの種類 41
バックアップ環境タイプのレポート 42
SRM タイプのレポート 42
ドリルダウン レポート 43
エージェント分布レポート 44
レポートの利点 44
レポート ビュー 45
ドリルダウン レポート 46
バックアップ データの場所レポート 48
レポートの利点 48
レポート ビュー 49
ドリルダウン レポート 50

バックアップ サーバ負荷分散レポート 51
レポートの利点 51
レポート ビュー 51
CPU レポート 54
レポートの利点 54
レポート ビュー 55
ドリルダウン レポート 56
メディアのデータ分布レポート 57
レポートの利点 57
レポート ビュー 58
ドリルダウン レポート 59
デデュプリケーション効果推定レポート 60
レポートの利点 60
レポート ビュー 61
デデュプリケーション ステータス レポート 62
レポートの利点 62
レポート ビュー 63
ドリルダウン レポート 64
ディスク レポート 65
レポートの利点 65
レポート ビュー 65
ドリルダウン レポート 67
ジョブ バックアップ ステータス レポート 68
レポートの利点 68
レポート ビュー 69
ドリルダウン レポート 71
ライセンス レポート 73
レポートの利点 74
レポート ビュー 74
メディア検証レポート 75
レポートの利点 75
レポート ビュー 76
ドリルダウン レポート 77
メモリ レポート 78
レポートの利点 78
レポート ビュー 79
ドリルダウン レポート 80
NIC レポート 81
レポートの利点 81
レポート ビュー 82

ドリルダウン レポート 83
ノード バックアップ ステータス レポート 84
レポートの利点 84
レポート ビュー 84
ドリルダウン レポート 87
ノード惨事復旧ステータス レポート 88
レポートの利点 89
レポート ビュー 90
ドリルダウン レポート 91
ノード暗号化ステータス レポート 93
レポートの利点 93
レポート ビュー 94
ドリルダウン レポート 95
ノード復旧ポイント レポート 98
レポートの利点 98
レポート ビュー 99
ドリルダウン レポート 100
ノード サマリ レポート 101
レポートの利点 101
レポート ビュー 102
ノード層レポート 103
レポートの利点 103
レポート ビュー 104
ドリルダウン レポート 105
最近のバックアップに失敗したノード レポート 106
レポートの利点 106
レポート ビュー 106
ドリルダウン レポート 107
OS レポート 109
レポートの利点 109
レポート ビュー 110
RPO（Recovery Point Objective、目標復旧ポイント）レポート 111
レポートの利点 112
レポート ビュー 113
ドリルダウン レポート 114
SCSI/ファイバ カード レポート 115
レポートの利点 115
レポート ビュー 116
ドリルダウン レポート 117
テープ暗号化ステータス レポート 118

レポートの利点 118
レポート ビュー 119
ドリルダウン レポート 119
バックアップに失敗したノード レポート 122
レポートの利点 122
レポート ビュー 123
ドリルダウン レポート 124
バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポート 125
レポートの利点 125
レポート ビュー 126
仮想マシン復旧ポイント レポート 127
レポートの利点 127
レポート ビュー 128
ドリルダウン レポート 129
仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート 130
レポートの利点 130
レポート ビュー 131
ドリルダウン レポート 132
ボリューム レポート 133
レポートの利点 133
レポート ビュー 133
ドリルダウン レポート 135

第 4 章: トラブルシューティング 137

索引 145

第 1 章: Dashboard について

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

概要(11 ページ)
Dashboard の機能(13 ページ)
Dashboard の GUI(14 ページ)
表示オプション(15 ページ)
Dashboard レポートのカスタマイズ(18 ページ)

概要

CA ARCserve Backup Dashboard は、バックアップ インフラストラクチャおよびストレージ リソース管理(SRM)環境のスナップショット概要を提供するユーザ インターフェース ツールです。 この Dashboard ビューにより、関連情報を迅速かつ容易にモニタすることができ、バックアップおよび SRM 環境のパフォーマンスと運用の管理に役立ちます。 CA ARCserve Backup Dashboard は指定した CA ARCserve Backup ドメイン、サーバ、ノード、およびジョブのステータス全体を表示するスナップショットを提供します。

さらに、より詳細な情報を表示するレポートへドリルダウンする高度な機能を持つレポートもあります。 そのようなレポートでは、任意のステータス カテゴリをクリックし、サマリ情報の表示から、そのカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。

CA ARCserve Backup マネージャ コンソールのナビゲーション バーにある[モニタとレポート]メニューから、または[クイック スタート]メニューから CA ARCserve Backup Dashboard にアクセスすることができます。

注: Dashboard へは、CA ARCserve Backup 管理者、Monitor Operator、および Report Operator の役割を割り当てたユーザ プロファイルでのみアクセスできます。 ユーザ プロファイルの詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

CA ARCserve Backup Dashboard に表示されるレポートは以下のとおりです。

注: アスタリスク記号 * は SRM タイプのレポートであることを表しています。

- エージェント分布レポート
- バックアップ データの場所レポート
- バックアップ サーバ負荷分散レポート
- CPU レポート *
- メディアのデータ分布レポート
- デデュプリケーション効果推定レポート
- デデュプリケーション ステータス レポート
- ディスク レポート *
- ジョブ バックアップ ステータス レポート
- ライセンス レポート
- メディア検証レポート
- メモリ レポート *
- NIC レポート *
- ノード バックアップ ステータス レポート
- ノード惨事復旧ステータス レポート
- ノード暗号化ステータス レポート
- ノード復旧ポイント レポート
- ノード サマリ レポート *
- ノード層レポート
- 最近のバックアップに失敗したノード レポート
- OS レポート *
- RPO (Recovery Point Objective、目標復旧ポイント)レポート
- SCSI/ファイバ カード レポート *
- テープ暗号化ステータス レポート
- バックアップに失敗したノード レポート
- バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポート
- 仮想マシン復旧ポイント レポート
- 仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート
- ボリューム レポート *

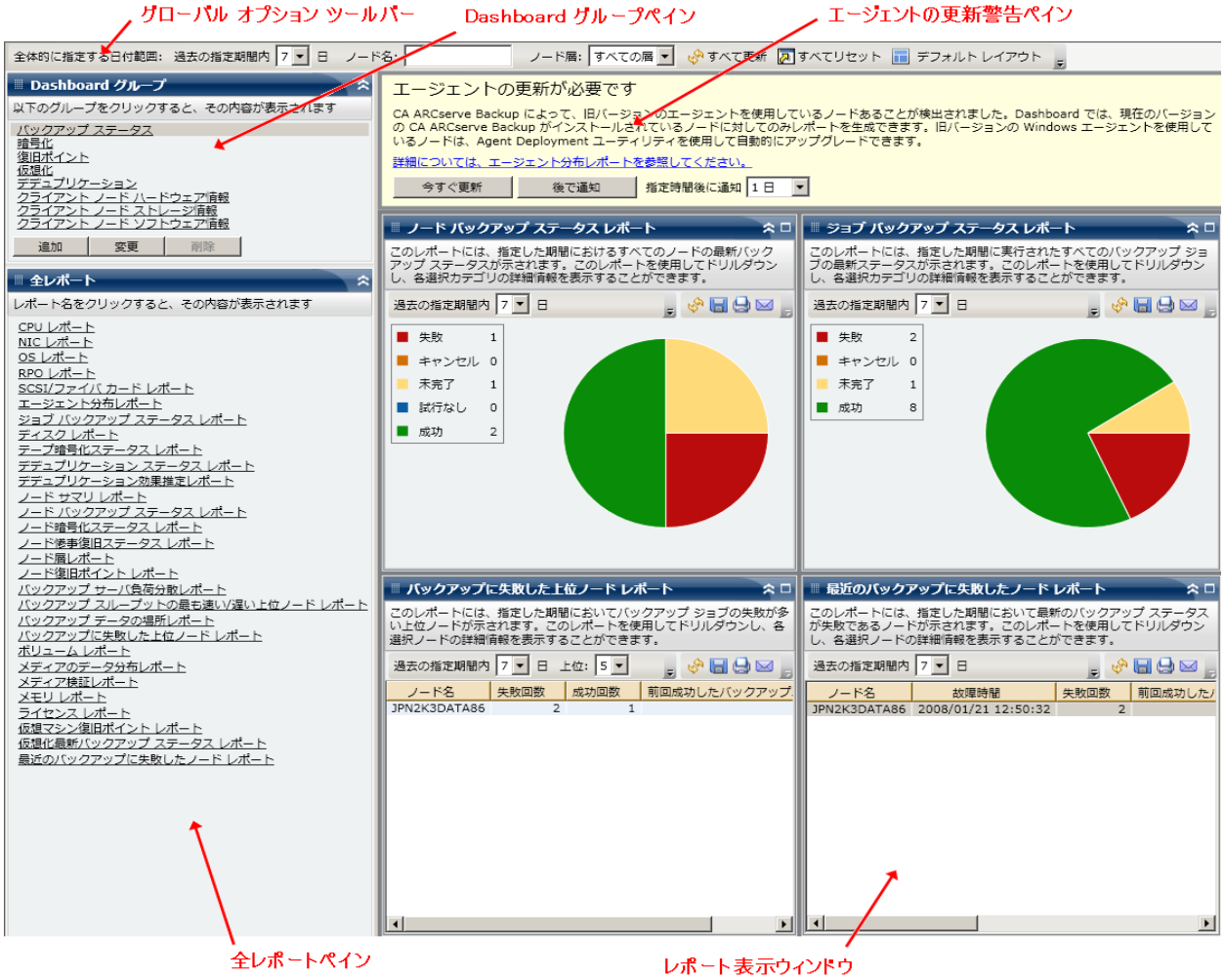
Dashboard の機能

Dashboard には、以下のような機能があります。

- バックアップ インフラストラクチャと SRM (Storage Resource Management) 環境の中央のスナップショット概要を提供します。
- ジョブ、ノード、テープ、暗号化、エージェント マシンのリソースなどに焦点を合わせた 29 種類の個別レポートがあります。
- 個々のニーズと設定に合わせて CA ARCserve Backup Dashboard の外観をカスタマイズします。
- レポートによっては拡張機能があり、さらに詳細で的を絞った情報を表示するレポートにドリルダウンできます。
- 指定したパラメータに基づいてレポートに表示するデータを制限するためのフィルタ機能があります。
- カスタマイズされたレポートのコレクション (グループ) があります。この機能を選択すると、個々のニーズや指定に基づいてあらかじめ設定されたグループとして指定されたレポートが表示されます。
- レポートに表示するデータを手動または自動で更新します。
- レポート用に収集したデータを各種の形式 (印刷、スプレッドシートで使用するために CSV 形式で保存、または電子メール) でエクスポートします。
- 指定した受信者に電子メールを使用してレポートを送信するためのカスタマイズされたスケジュールを作成します。
- SRM 形式のレポート用の SRM 関係のデータを収集するためのプローブを実行します。

Dashboard の GUI

Dashboard の GUI は、左側の 2 つのレポート内容ペインと、右側の 1 つのレポート表示ウィンドウから構成されています。



Dashboard グループ

このペインには、Dashboard グループの一覧が表示されます。 Dashboard グループとは、1 つ以上の Dashboard レポートをまとめたものです。（グループに含めることができるレポートの最大数は 4 つです）。 デフォルトでは、複数の事前設定されたグループが自動的に含められています。 必要に応じて、グループを作成、変更、または削除できます。 詳細については、「Dashboard グループ」(33 ページ)を参照してください。

全レポート

このペインには、利用可能なすべてのレポートの一覧が表示されます（アルファベット順）。

レポート表示ウィンドウ

このウィンドウには、選択したレポートが表示されます。 対象のレポートを［全レポート］ペインのリストから個別に選択して表示するか、または事前に定義した Dashboard グループを［Dashboard グループ］ペインのリストから選択して表示します。

グローバル オプション ツールバー

このツールバーから、指定したアクションをすべてのレポートに適用できます。 詳細については、「グローバル オプション（18 ページ）」を参照してください。

エージェントの更新警告

Dashboard の起動時に、バックアップ環境内に r12.5 より前のバージョンの CA ARCserve Backup エージェントが含まれていることが検出された場合に、この警告メッセージがポップアップ表示されます。 詳細については、「エージェントの更新警告（39 ページ）」を参照してください。

表示オプション

Dashboard では、グラフィカル情報を表示する方法を選択できます。 これらのグラフィカル コントロールによって、円グラフまたは棒グラフのどちらで情報を表示するかなどのオプションを選択できます。また、表示されているレポートを展開または折りたたむかどうか、表示されているデータを更新するかどうか、および収集されたデータの使用方法も選択できます。

円グラフ表示

円グラフは、連続した扇形に分割された円形のグラフで、各扇形はモニタされているすべてのカテゴリの相対的な割合を表します。 扇形を合わせて、モニタされている情報の全体である 100% を表します。 円グラフの長所はシンプルなことです。 円グラフによって、特定の期間における総計情報を把握できます。 一方、短所は、値が似ているときにわずかな違いを見分けることが非常に困難な場合があることです。

棒グラフ表示

棒グラフは個別の量を強調するのに使用されます。 棒の長さが長いほど、値も大きくなります。 棒グラフはカテゴリ内またはカテゴリ間での比較に有用です。 一部のレポートでは、棒グラフによって特定の期間における情報を日単位で把握でき、傾向やパターンを洗い出すのに役立ちます。 円グラフからセグメントを比較するのは難しい場合がありますが、棒グラフでは、そのようなセグメントが棒で表されてより簡単に比較することができます。

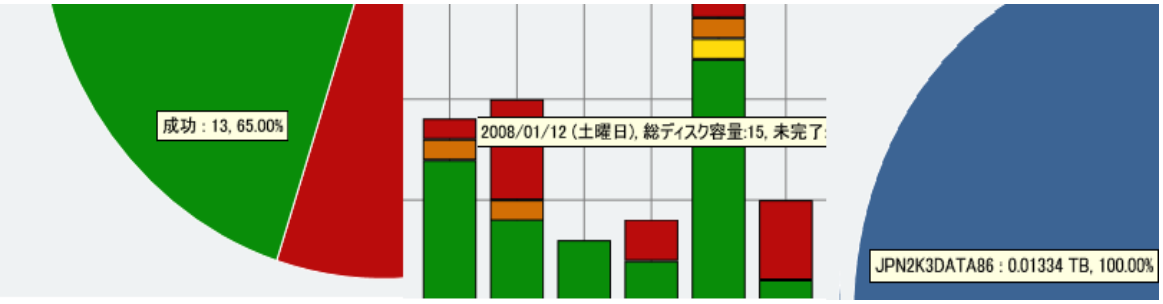
テーブル ビュー

表形式のチャートは、レポート情報を表形式で表示するために使用します。 列見出しは、レポートによって異なります。また、特定のレポート内でも、選択したレポート カテゴリによって異なります。 テーブル ビューでは、個々の列見出しに基づいてレポート情報をソートできます。

カーソル操作

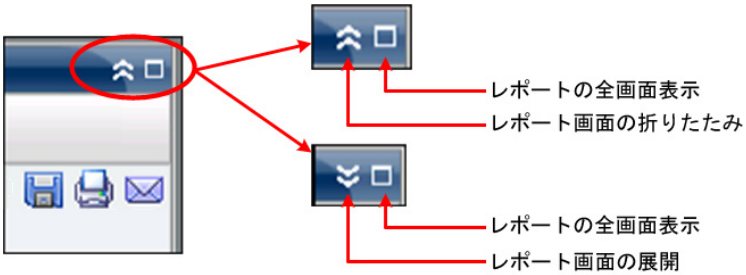
いずれのグラフ表示（円グラフまたは棒グラフ）でも、マウスをレポートの特定のカテゴリの上に置くと、カーソルの下に小さなボックスが表示され、カテゴリとその対応する値が表示されます。

カーソルが指さしの形であれば、対応する領域が「クリック可能」であることを示し、クリックするとそのカテゴリに関する追加情報を表示することができます。 カーソルが矢印記号であれば、対応する領域が「クリック可能」ではなく、それ以上の情報がないことを示します。



レポートの表示

すべてのレポートで、表示方法を選択することができます。 全体表示で、レポート詳細を表示する必要がない場合は個別のレポートを折りたたむことができます。また、展開して元のサイズに戻すこともできます （レポートが折りたたまれているときは、タイトル バーと説明バーのみが表示されます）。 さらに、レポートを完全に展開して全画面表示にすることもできます。 また、タイトル バーをダブルクリックすることで、レポートを最大化したりデフォルト表示に戻したりできます。



レポートの更新

すべてのレポートで、データを更新または再ロードしてレポート上に表示させることができます。 各レポートには、レポートの表示を更新する[更新]ボタンがあり、バックアップ/SRM 環境に関する最新の情報を表示することができます。 更新インジケータは表示されているデータが更新中であることを視覚的に示します。 Dashboard では、数秒おきに自動的にレポートを更新するオプションは提供されていませんが、グローバル ツールバーの[すべて更新]をクリックすると、Dashboard のレポートをすぐに更新できます。 また、あるレポート(レポート A)から別のレポート(レポート B)へ表示を切り替えると、レポート B は自動的に更新されます。

データのエクスポート

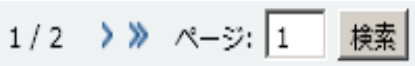
すべてのレポートで、収集したデータをエクスポートできます。 レポートごとに、収集データを印刷するか、スプレッドシートで使用できるように表形式のデータを格納するカンマ区切り値ファイル(CSV)として保存するか、またはレポートを SMTP サーバ経由で電子メールで送付するかを指定することができます。

- レポートを印刷する場合は、印刷プレビュー画面から[ページ設定]ダイアログにアクセスし、[フッタ]フィールドから情報を削除することによって、レポートの最後に「about blank」という文字列が印刷されないようにできます。フッタ フィールドには、カスタム テキストを入力することもできます。
- レポートの電子メール送付を選択した場合、内容は印刷の場合と同じで、すべてのグラフは埋め込みイメージとして送信されます。

注: 電子メールを送信する前に(GUI またはスケジュールより)、Alert マネージャを使用して SMTP を設定する必要があります。 詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

[次のページ]ボタン

メッセージ エントリが 100 を超えるドリルダウン レポートの場合、Dashboard では表示が自動的にページ単位に分割され、[次のページ]ボタンが矢印で表示されます。 各ページのエントリは最大 100 に制限され、それを超えるとページが新たに作成されます。 [次のページ]ボタンをクリックすると、次のページへ移動できます。



Dashboard レポートのカスタマイズ

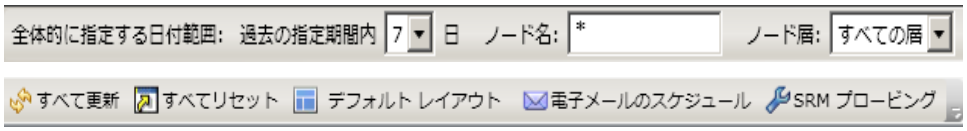
各レポートにはさまざまな設定オプションが用意されており、CA ARCserve Backup Dashboard の表示やパフォーマンスをカスタマイズして、個別のニーズや優先事項に対応することができます。 表示されるレポートの多くで、グラフ情報の表示方法、レポートの期間、モニタするサーバやノード層、モニタするバックアップ方式、収集された情報に対する処理などの機能や、そのほか多くのレポート特有のオプションを選択することができます。

個々のレポートに対してパラメータや環境設定を指定した場合、Dashboard を終了して再度開始しても同じ設定のままになります。 自動的にデフォルトの設定に戻ることはありません。 さらに、カスタマイズされたレポートを有効にするために、レポートのうちの 1 つに行う設定が、自動的に残りのレポートすべてに適用されることはありません。 各レポートに、個別の設定を持たせることができます。

ただし、Dashboard では、すべてのレポートにグローバルに適用される環境設定を行うこともできます。 このグローバル設定によって、すべてのレポートの期間（日数）の指定、モニタするノード層の指定、すべてのレポートの表示データの更新、すべてのレポートのデフォルト値へのリセット、レポートのレイアウト全体のデフォルトへのリセット、などを行うことができます。

グローバル オプション

CA ARCserve Backup Dashboard には、指定したアクションをすべてのレポートに適用できるグローバル オプション ツールバーが用意されています。 指定したアクションはグローバルに適用され、適用可能なすべてのレポートに反映されます。 たとえば、あるレポートにグローバル オプションが適用可能な場合、アクションは実際にそのレポートに適用されます。 しかし、あるレポートにグローバル オプションが適用可能でない場合は、アクションは無関係と見なされ、そのレポートには何の影響も与えません。



全レポートの日付範囲

すべてのレポートで、過去何日間のデータをフィルタして表示するかを指定できます。 ［過去の指定期間内］フィールドにはドロップダウン リストがあり、最も一般的に使用される収集期間（1、3、7、30 日間）があらかじめセットされています。 このフィールドには手動で値を入力することもできます。

デフォルト: 7 日間

ノード名

[全レポート]に表示されるデータを、モニタしたいノード名に基づいてフィルタするよう指定できます。

[ノード名]フィールドでは、ワイルドカード文字である「*」と「?」がサポートされています。 完全なノード名が不明な場合は、[ノード名]フィールドでワイルドカード文字を指定することによって、フィルタの結果を簡略化することができます。

- "*" -- アスタリスクは、ノード名の 0 個以上の文字を表します。
- "?" -- 疑問符は、ノード名の 1 個の文字を表します。

ノード名には、以下の Dashboard の制限が適用されます。

- Dashboard では、最初の 15 文字のみでノード名が区別されます。 最初の 15 文字が同じ複数のノード名がある場合、Dashboard は両者を区別できません。
- ノード名は、DNS で解決できる必要があります。 DNS を使用してノードを見つけることができない場合、Dashboard はノードを解決できずに関連情報を表示できなくなります。
- ノード名に括弧「(」を含めることはできません。 ノード名にこの文字があると、Dashboard はそのノードのバックアップ情報を正しく識別できなくなります。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ノード層

モニタするノードの層カテゴリを指定します。 ここでモニタ対象として選択したノード層に基づいて、すべてのレポートがフィルタされます。

ノード層は 3 つのカテゴリに設定されています。層 1 は優先度が高いノード、層 2 は中、層 3 は低です。 [ノード層]フィールドはドロップダウン メニュー形式で、層カテゴリを選択できるようになっています。

詳細を入力します。「ノード層」(38 ページ)を参照してください。

デフォルト: すべての層

すべて更新

最新のデータを表示するようにすべてのレポートを更新します。

すべてリセット

すべてのレポートのパラメータを、以下の適用可能なデフォルト値にリセットします。

- ［過去の指定期間内］を 7 に設定します。
- ［ノード名］に * を設定します。
- ［ノード層］に「すべての層」を設定します。

適用可能なすべてのレポートで、デフォルト表示を円グラフに設定します。 上記以外にパラメータがある場合は、それぞれデフォルト値に設定されます。

デフォルト レイアウト

レポートのレイアウト全体をデフォルトにリセットします。 このオプションは、［Dashboard グループ］に複数のレポートを表示している場合に役立ちます。

電子メールのスケジュール

Dashboard レポートをエクスポートする電子メールの環境設定を指定します。

電子メールのスケジュール オプションを設定して、指定した受信者に電子メールでレポートを送信するスケジュールを作成できます。 レポート メールは、スケジュール設定したとおりに自動的に更新、生成、送信されます。 レポート メールのスケジュールをカスタマイズして、指定した日時に送信したり、定期タスクとして設定したりできます。 また、電子メールに含めるレポートや送信相手を指定できます。 選択されたレポートは、電子メールに埋め込まれています。

詳細については、「電子メール レポートの設定」(20 ページ)を参照してください。

SRM プロービング

SRM タイプのレポート用に SRM 関連のデータを収集するプローブを、すぐに開始したりスケジュール設定したりできます。 SRM プローブはデータ収集ユーティリティで、開始すると、ストレージ環境内のすべてのマシンにプローブまたは通信します。 マシンはすべての関連情報を含めた最新のレスポンスを送り返し、これらの関連情報が SRM タイプのレポートに記載されます。

詳細については、「SRM プローブ設定」(29 ページ)を参照してください。

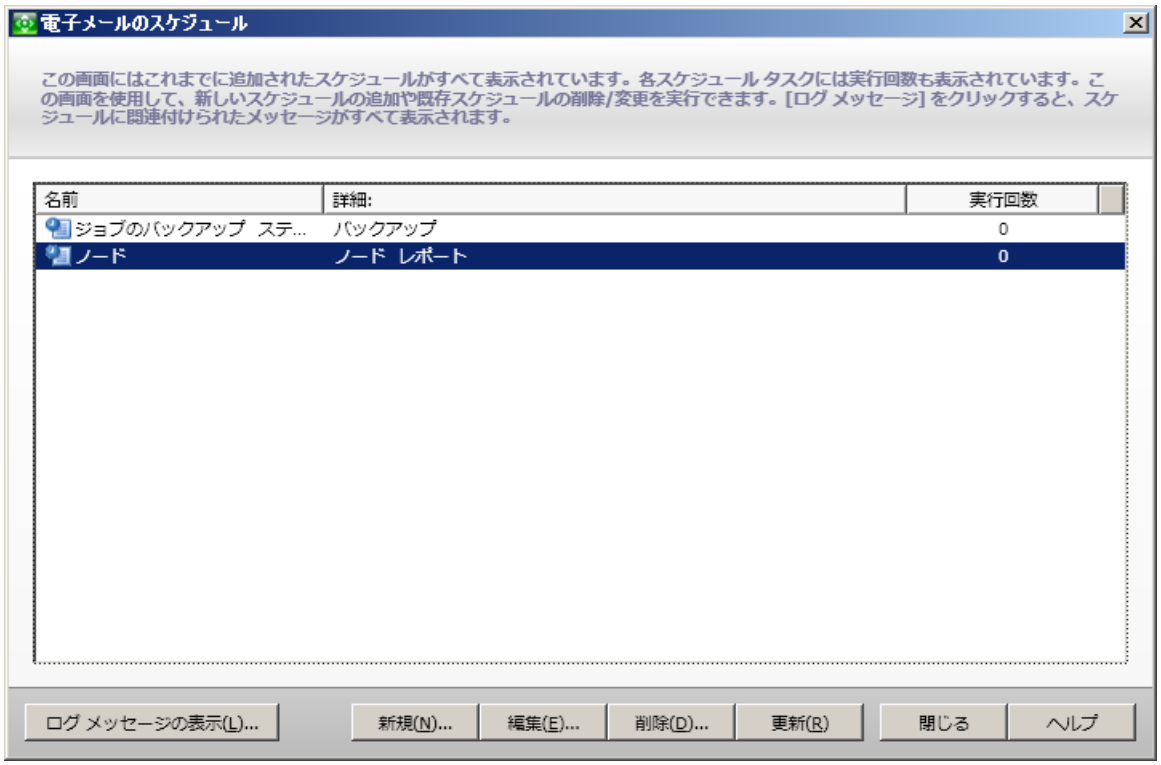
電子メール レポートの設定

グローバル オプション ツールバーから、すべての Dashboard レポート用の電子メールのスケジュール設定を選択できます。 電子メールのスケジュール オプションを設定して、指定した受信者に電子メールでレポートを送信するスケジュールを作成できます。 レポート メールは、スケジュール設定したとおりに自動的に更新、生成、送信されます。 レポート メールのスケジュールをカスタマイズして、指定した日時に送信したり、定期タスクとして設定したりできます。 また、電子メールに含めるレポートや送信相手を指定できます。 選択されたレポートは、電子メールに埋め込まれています。

電子メール レポートの設定

1. グローバル オプション ツールバーの[電子メールのスケジュール]ボタンをクリックします。

   [電子メールのスケジュール]ダイアログ ボックスが開きます。



2. このダイアログ ボックスで、既存の電子メール スケジュール名を選択して編集または削除したり、新しい電子メール スケジュールを追加したりできます。

   - [新規] - 新しいスケジュールを追加できます。
   - [編集] - 既存のスケジュールを編集できます。
   - [削除] - 既存のスケジュールを削除できます。
   - [更新] - 各スケジュールのステータスに関する最新情報を表示します。

3. [ログ メッセージの表示]ボタンをクリックしてログ メッセージ ウィンドウを表示し、実行されたスケジュールのログ メッセージを確認することもできます。 詳細については、「電子メール スケジュール ステータスのトラッキング」(26 ページ)を参照してください。

新規電子メール スケジュールの追加

電子メール スケジュール オプションを使用して、スケジュールを新規作成し、指定した受信者に電子メールでレポートを送信するようカスタマイズできます。

注: 電子メールを送信する前に(GUI またはスケジュールより)、Alert マネージャを使用して SMTP を設定する必要があります。 詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

新規電子メール レポートの追加

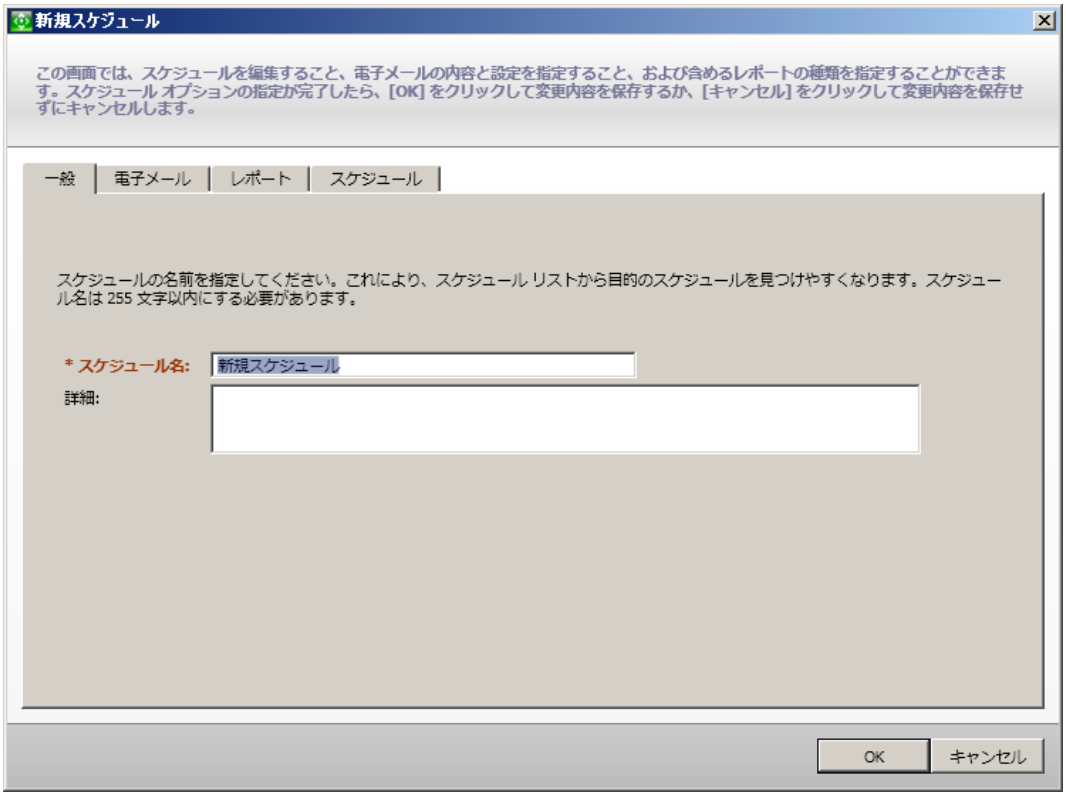
1. グローバル オプション ツールバーの[電子メールのスケジュール]ボタンをクリックします。

   [電子メールのスケジュール]ダイアログ ボックスが開きます。

2. [新規]ボタンをクリックします。

   [新規スケジュール]ダイアログボックスが[一般]タブが選択された状態で開きます。

   注: 赤で表示されるフィールドはすべて必須です。

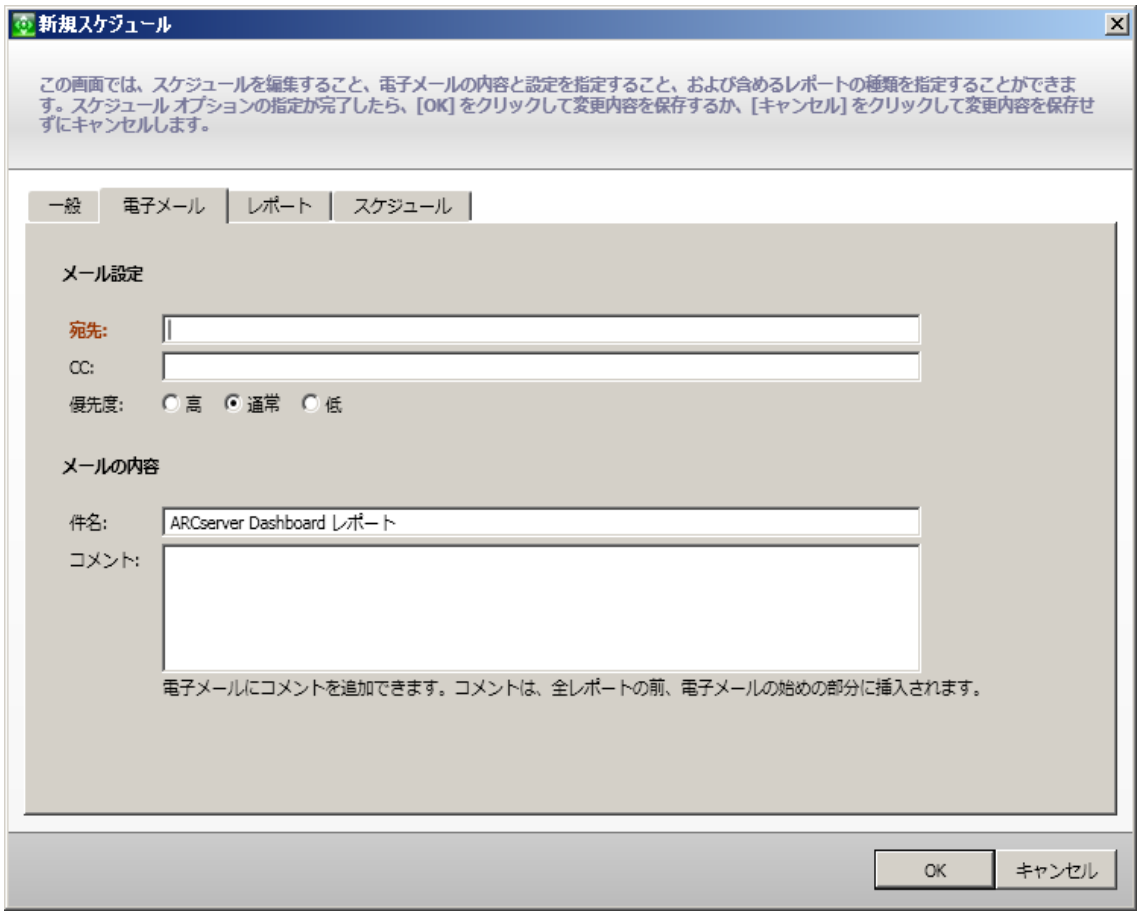


3. スケジュール名、および新規スケジュールの簡単な説明を入力します。

   新規レポート名およびその説明が保存されます。

4. ［電子メール］タブをクリックします。

   ［電子メール設定］ダイアログ ボックスが開きます。



5. ［宛先］フィールドに、電子メールの各受信者の電子メール アドレスを入力します（受信者の電子メール アドレスを CC フィールドに入力することもできます）。［宛先］フィールドには、少なくとも 1 つの受信者アドレスを入力する必要があります。

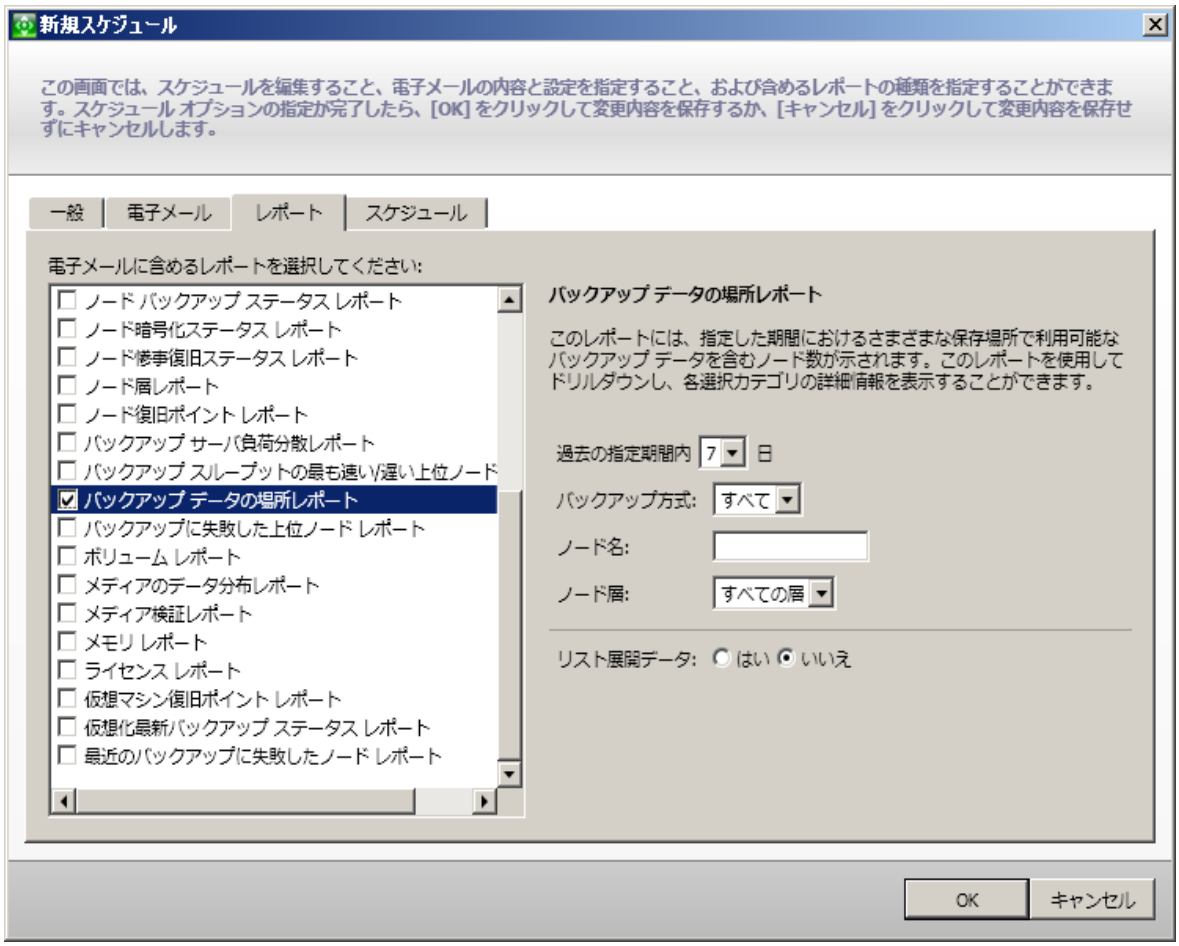
   注: 複数の電子メール アドレスを入力するには、各アドレスをセミコロンで区切る必要があります。

   また、スケジュールした電子メールに重要度（高、中、低）を指定したり、電子メールに記載するコメントを追加したり、件名を入力したりできます（件名を入力しなかった場合、［OK］ボタンをクリックすると、確認を求めるポップアップ ウィンドウが表示されます）。

   新しいレポート メール設定が保存されます。

6. ［レポート］タブをクリックします。

   ［レポート設定］ダイアログ ボックスが表示されます。



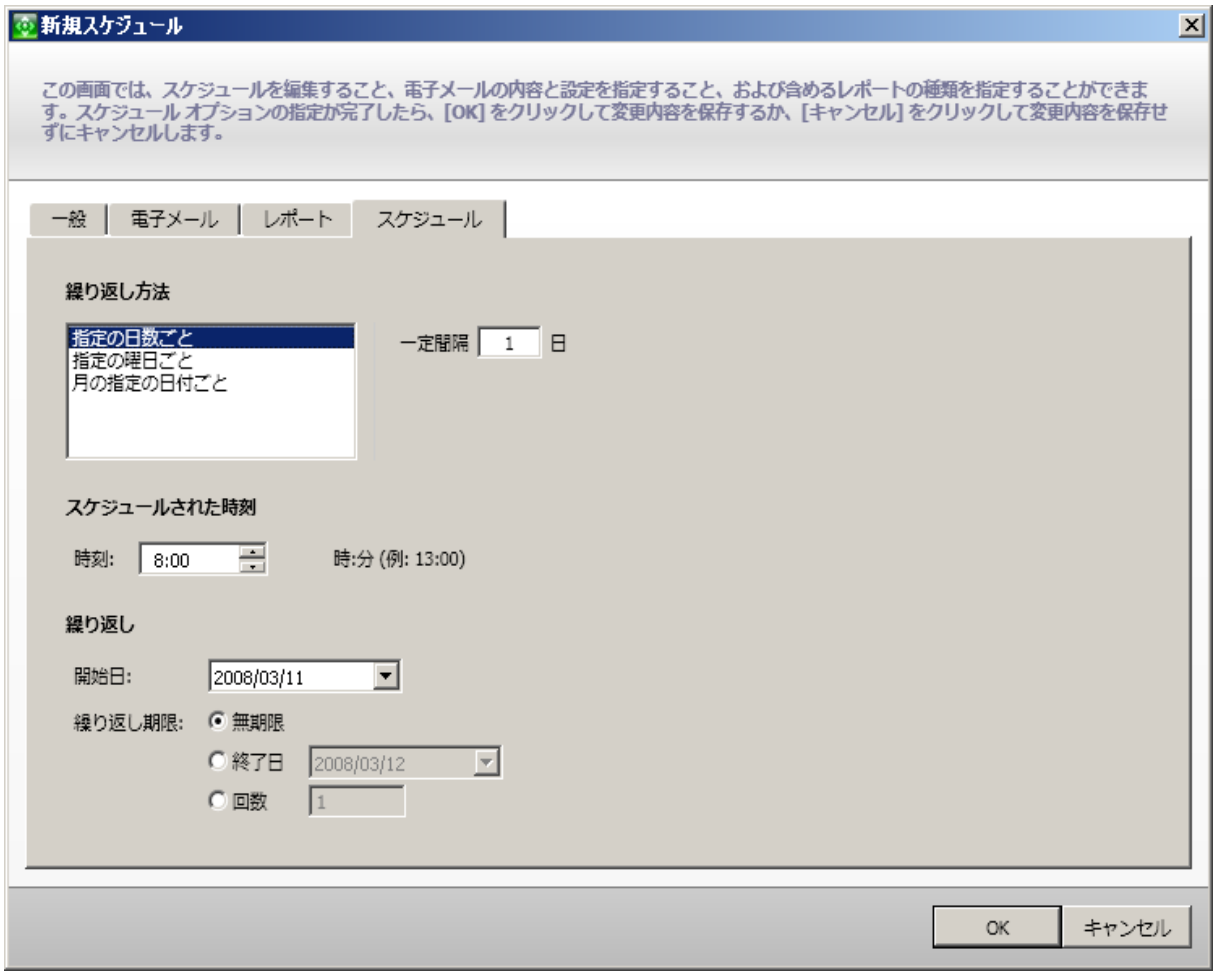
7. 電子メールに添付するレポートおよび各レポートのパラメータを選択します。

   ［レポート］タブは、レポート一覧およびレポート パラメータの 2 つの部分から構成されています。 左ペインでは、送信するレポートのチェック ボックスをオンにして選択します。 レポート名を選択してハイライトすると、右ペインにそのレポートの名前、説明、およびパラメータが表示されます。 右ペインで、送信するレポートのパラメータを指定します。 これらのパラメータは、スケジュールした時刻にレポートが生成される際に使用されます。

   新しいレポート設定が保存されます。

8. ［スケジュール］タブをクリックします。

［スケジュール設定］ダイアログ ボックスが開きます。



9. 送信する電子メールのスケジュール パラメータを選択します。

スケジュール内容は、繰り返し方法、スケジュールされた時刻、繰り返しの 3 つの部分から構成されています。

繰り返し方法

［繰り返し方法］スケジュール オプションは 3 つあり、電子メール（指定したレポートを添付）を送信する日を選択できます。

- すべての日

  ［すべての日］を選択した場合は、電子メールを送信する間隔日数を指定します。 間隔を 1 に指定した場合、電子メールは毎日送信されます。

- 選択されたすべての曜日

  ［選択されたすべての曜日］を選択した場合は、電子メールを送信する曜日（月～土）を指定します。 複数の曜日を選択できます。 デフォルトでは、新規スケジュールは、すべての平日（月曜日から金曜日まで）が設定されています。

- 選択されたすべての日付

  ［選択されたすべての日付］を選択した場合は、日数および日数をカウントする方向を指定します。 カウントする方向は、月の初めから、または月末からを指定します。

スケジュール時刻

電子メールを送信する時刻を指定します。 時刻は 24 時間形式で指定します。

繰り返し

スケジュールをアクティブにする日付（繰り返しを開始する日付）および繰り返しスケジュールを終了する時点を指定します。 無期限に繰り返すか、終了日まで繰り返すか、指定した回数だけ繰り返すかを選択します。

デフォルトでは、開始日は常に現在の日付（今日）で、スケジュールは無期限で繰り返されます。

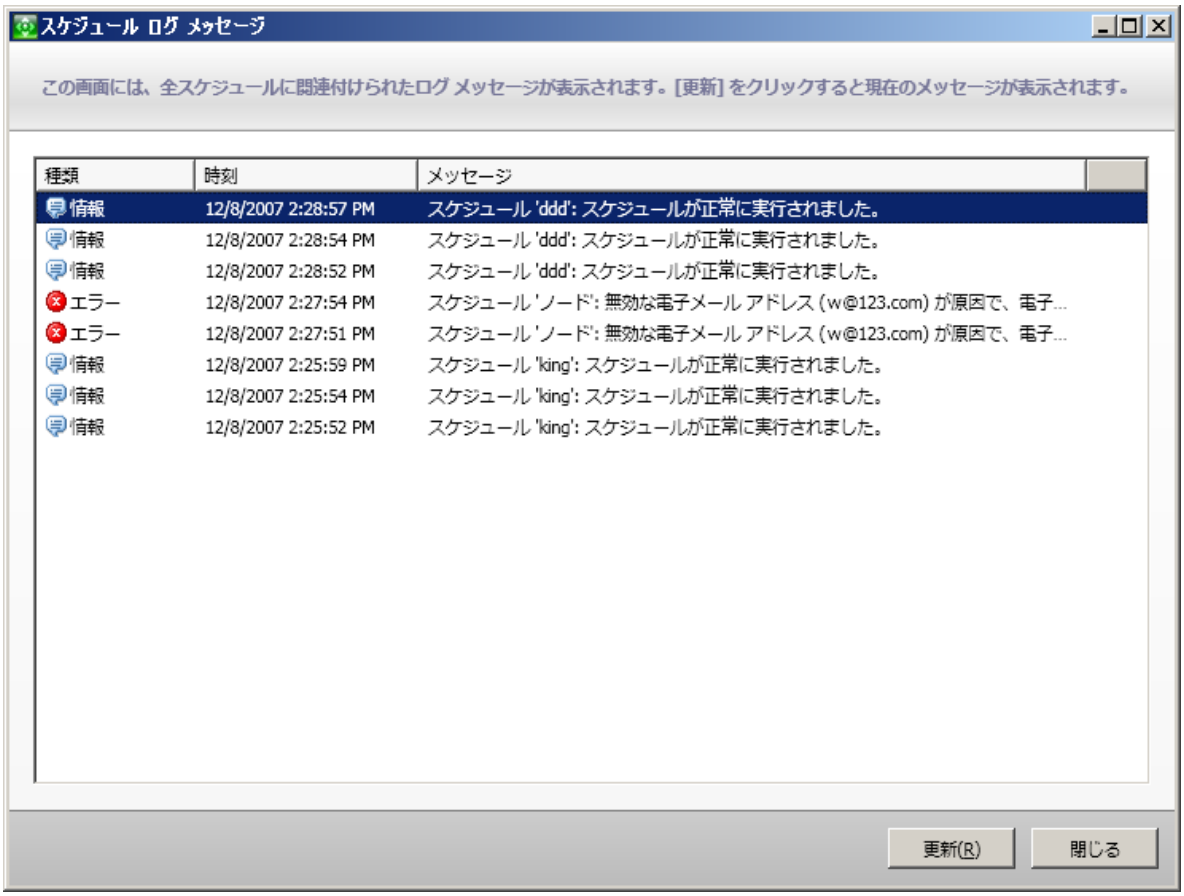
10. ［OK］をクリックします。

電子メールの環境設定および電子メール内容が保存されます。

電子メール スケジュール ステータスのトラッキング

［スケジュール マネージャ］ダイアログ ボックスの［ログ メッセージの表示］ボタンをクリックしてログ メッセージ ウィンドウを表示し、実行されたスケジュールのログ メッセージを確認できます。 このメッセージを確認することで、各スケジュールが正常に実行されたか失敗したか、考えられる失敗の原因は何か（当てはまる場合）など、スケジュールの実行状態を把握できます。 末尾が切り捨てられた長いエラー メッセージの全体を読むには、エントリの上にマウス ポインタを置き、メッセージ テキスト全体を含むツールヒントを表示します。

注: 電子メール スケジュールのログ メッセージは、サーバ管理の[アクティビティ ログ廃棄設定]で定義した設定に基づいて、自動的に廃棄されます(デフォルトでは、14 日おき)。 アクティビティ ログの廃棄の詳細については、「管理者ガイド」またはオンラインヘルプを参照してください。



レポート特有のオプション

以下のレポート特有のオプションは、CA ARCserve Backup Dashboard の各レポートをカスタマイズするために個別に設定することができます。 これらのオプションにはデフォルト値があり、必要に応じてすべてのレポートをグローバルにリセットできます。

日数

レポートに、過去何日間のデータをフィルタして表示するかを指定できます。 [過去の指定期間内]フィールドにはドロップダウン リストがあり、最も一般的に使用される収集期間(1、3、7、30 日間)があらかじめセットされています。 このフィールドには手動で値を入力することもできます。

デフォルト: 7 日間

ノード数

レポートに含めるノード数をフィルタするよう指定できます。 別のオプション設定に基づいて、対応するカテゴリの最上位のノードからこのフィールドで指定した数までが表示されます。 [上位]フィールドには、最も一般的に使用されるデータ収集ノード数(5、10、20、40、100、200、400)があらかじめセットされて表示され、そこから選択できるドロップダウン メニューが含まれています。 さらにこのフィールドには手動で値を入力することもできます。

デフォルト: 5 ノード

バックアップ方式

レポートに表示するノードの一覧を、ノードで使用するバックアップ方式に基づいてフィルタするよう指定できます。 [バックアップ方式]はドロップダウン メニューの[すべて]、[フル]、[増分]、[差分]から選択します。

デフォルト: すべて

サーバ

レポートに表示する情報を、対応する CA ARCserve Backup サーバに基づいてフィルタするよう指定できます。 [サーバ]はドロップダウン メニューから、すべての CA ARCserve Backup サーバ、またはログインしている CA ARCserve Backup ドメインに所属する CA ARCserve Backup サーバ 1 つ(プライマリまたはメンバ)を選択します (スタンドアロン サーバとしてログインしている場合、この一覧にはそのスタンドアロン サーバのみが表示されます)。

デフォルト: すべてのサーバ

ノード層

モニタするノードの層カテゴリを指定します。

ノード層は 3 つのカテゴリに設定されています。層 1 は優先度が高いノード、層 2 は中、層 3 は低です。 [ノード層]オプションはドロップダウン メニュー形式で、層カテゴリを選択できるようになっています。

詳細を入力します。「ノード層」(38 ページ)を参照してください。

デフォルト: すべての層

重要度フィルタ

レポートに表示するメッセージの一覧を、メッセージの重要度に基づいてフィルタするよう指定できます。 [重要度フィルタ]はドロップダウン メニューの[すべて]、[情報]、[エラー]、[警告]、[エラーと警告]から選択します。

デフォルト: エラーと警告

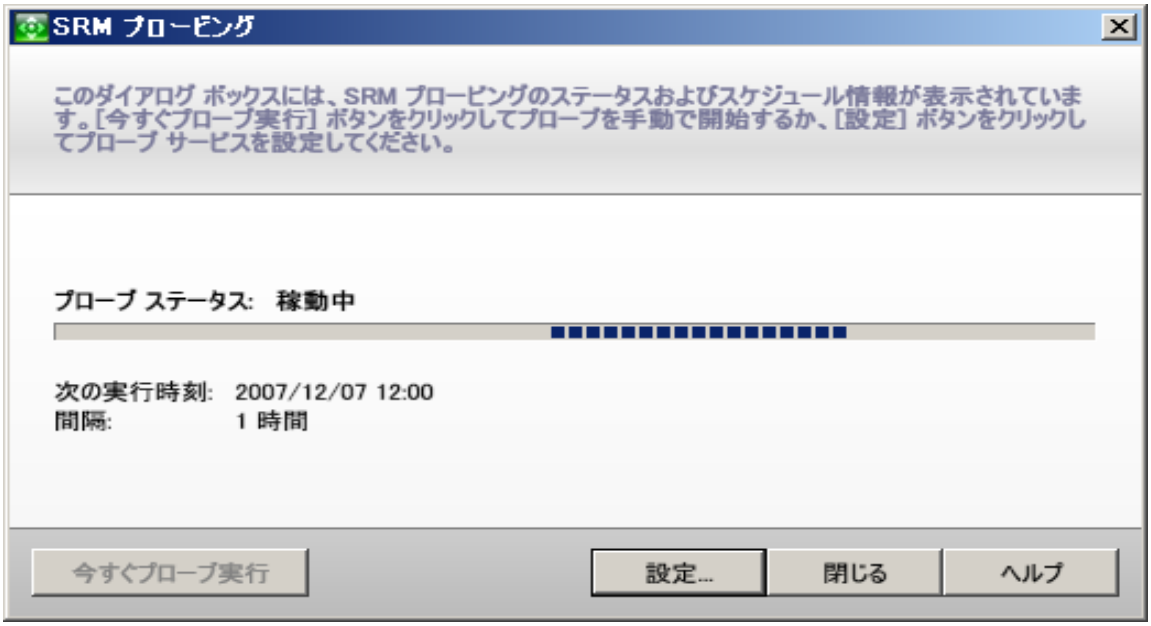
SRM プローブ設定

SRM プローブはデータ収集ユーティリティで、開始すると、ストレージ環境内のすべてのマシンにプローブまたは通信します。ただし、サポートされている Microsoft Windows OS 上で CA ARCserve Backup エージェント r12.5 が動作しているマシンが対象です。マシンはすべての関連情報を含めた最新のレスポンスを送り返し、これらの関連情報が SRM タイプのレポートに記載されます。

注: サポートされている Windows OS の一覧については、CA ARCserve Backup の Readme ファイルを参照してください。

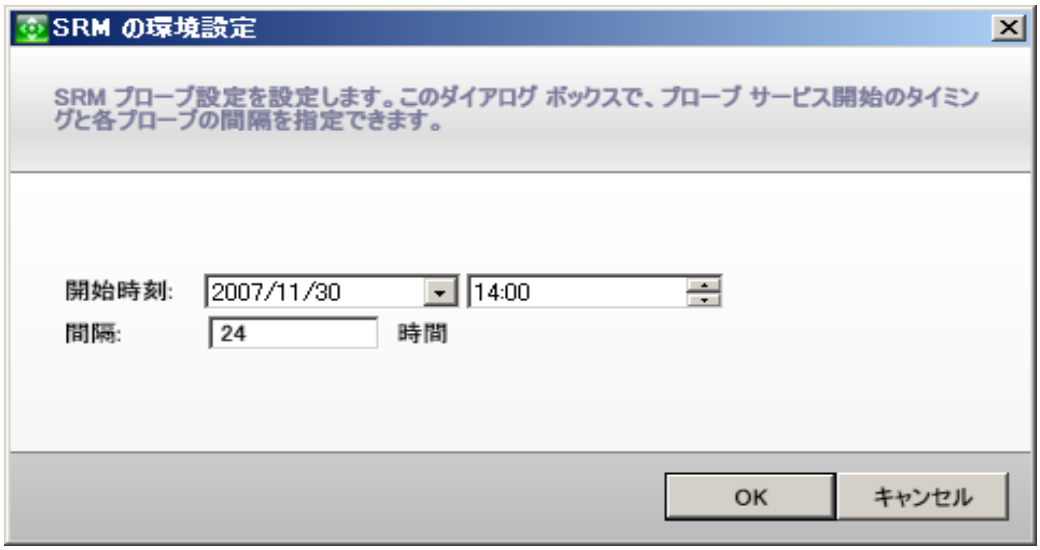
グローバル オプション ツールバーの[SRM プロービング]ボタンをクリックすると、[SRM プロービング]ダイアログ ボックスが開きます。 このダイアログ ボックスで、今すぐ SRM プローブを開始するか、スケジュールした時刻に SRM プローブを実行するよう設定するかを選択します。

- 今すぐプローブを開始する場合は、[今すぐプローブ実行]ボタンをクリックします。プローブのステータスが表示されます。



- SRM プローブ設定項目を設定するには、[設定]ボタンをクリックします。 [SRM の環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。

  デフォルトでは、CA ARCserve Backup Dashboard は毎日午後 2 時に SRM プローブを実行するようスケジュールされています。 このダイアログ ボックスで、デフォルトのスケジュールを変更し、開始日、時刻、およびプローブの間隔(時間)を変えることができます。



注: SRM プローブ処理で問題が発生する場合(完了までに時間がかかり過ぎる場合またはシステム リソースの使用に影響する場合)は、トラブルシューティングの「SRM データ プローブのパフォーマンスに問題がある(143 ページ)」のトピックを参照してニーズに合うようにこのパフォーマンスを強化します。

第 2 章: Dashboard の使用

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

CA ARCserve Backup Dashboard の使用 (31 ページ)
Dashboard グループ (33 ページ)
ノード層 (38 ページ)
ノード情報 (38 ページ)
エージェントの更新警告 (39 ページ)

CA ARCserve Backup Dashboard の使用

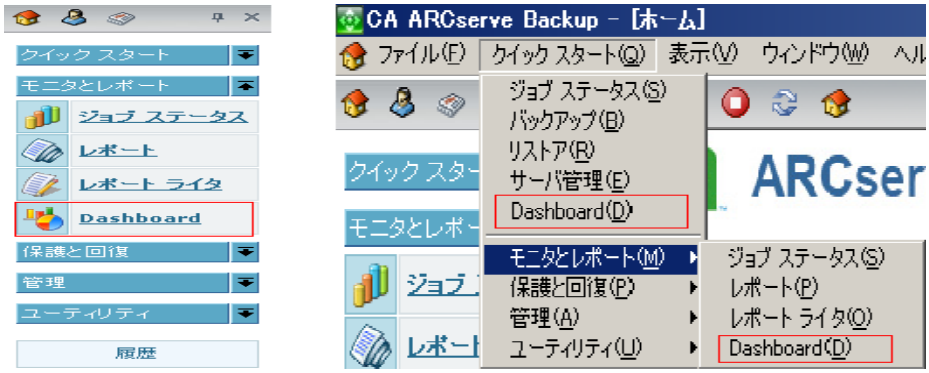
CA ARCserve Backup Dashboard は、バックアップ インフラストラクチャおよびストレージ リソース管理 (SRM) 環境のスナップショット概要を提供するユーザ インターフェース ツールです。 この Dashboard ビューにより、関連情報を迅速かつ容易にモニタすることができ、バックアップおよび SRM 環境のパフォーマンスと操作の管理に役立ちます。また、広範囲に及ぶバックアップ環境情報を迅速かつ容易にモニタでき、モニタ対象領域についてエクスポート可能なレポートを生成できます。

重要: CA ARCserve Backup Dashboard を使用する前に、すべての CA ARCserve Backup サービスが開始し実行していることを確認してください。 CA ARCserve Backup サービスの開始については、「管理者ガイド」を参照してください。

注: Dashboard へは、CA ARCserve Backup 管理者、Monitor Operator、および Report Operator の役割を割り当てたユーザ プロファイルでのみアクセスできます。ユーザ プロファイルの詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

CA ARCserve Backup Dashboard の使用方法

1. CA ARCserve Backup マネージャ コンソールのナビゲーション バーにある[モニタとレポート]メニューから、または[クイック スタート]メニューから CA ARCserve Backup Dashboard にアクセスすることができます。



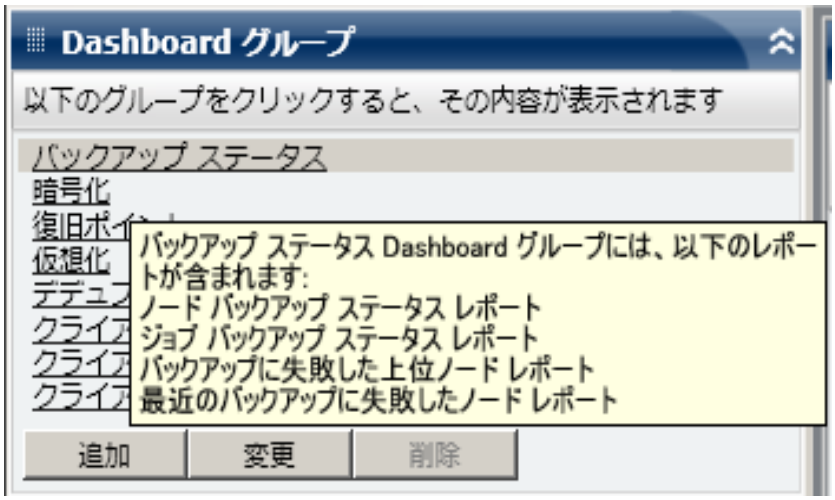
   CA ARCserve Backup Dashboard のメイン画面が表示され、指定した CA ARCserve Backup 環境のステータス レポートを提供するスナップショット ビューが表示されます。

2. CA ARCserve Backup Dashboard の GUI は、左側の 2 つのレポート内容ペインと、右側の 1 つのレポート表示ウィンドウから構成されています。 2 つのレポート内容ペインには、利用可能な全レポートの一覧(アルファベット順)および事前に設定された Dashboard グループの一覧が表示されます。 レポート表示ウィンドウには、選択したレポートが表示されます。

注: 表示される各レポートの詳細については、対応するレポートの説明を参照してください。

Dashboard グループ

Dashboard グループとは複数のレポートを 1 つにまとめたもので、グループを選択すると、事前にグループとして設定したレポートが表示されます。 Dashboard グループを使用して、個別のニーズや優先事項に基づいたレポート表示を構成できます。 また、環境の特定領域内のステータスに焦点を絞るのに便利です。 グループ名をクリックすると、その Dashboard グループに含まれるレポートを表示できます。 さらに、マウスのカーソルを特定のグループ名の上に置くと、ツール チップ ボックスがカーソルに下に表示されて、グループ名およびそのグループに含まれるレポートの一覧が表示されます。



CA ARCserve Backup Dashboard では、Dashboard グループを作成、変更、および削除できます。 新規グループを作成した場合、そのグループは作成したユーザにしか使用できません。 新規グループを作成しても、ほかのユーザには表示されません。 たとえば、ユーザ A がグループを作成しても、ユーザ B にはそのグループが表示されません。

CA ARCserve Backup Dashboard には、設定済みのデフォルト グループがいくつかあり、必要に応じて変更できます。ただし削除はできません。 デフォルト グループに加えて、カスタマイズした Dashboard グループを作成すると、グループとして表示されている個々のレポートを選択することができます。 各 Dashboard グループに含めることのできるレポートは、1 つ以上 4 つまでです。

設定済みのデフォルト グループを以下に示します。

バックアップ ステータス Dashboard グループ

ノード バックアップ ステータス レポート、ジョブ バックアップ ステータス レポート、バックアップに失敗したノード レポート、および最近のバックアップに失敗したノード レポートが含まれます。

暗号化 Dashboard グループ

ノード暗号化ステータス レポート、テープ暗号化ステータス レポートが含まれます。

復旧ポイント Dashboard グループ

ノード復旧ポイント レポート、仮想マシン復旧ポイント レポート、RPO レポート、およびメディア検証レポートが含まれます。

仮想化 Dashboard グループ

仮想マシン復旧ポイント レポート、仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポートが含まれます。

デデュプリケーション Dashboard グループ

デデュプリケーション ステータス レポート、メディアのデータ分布レポートが含まれます。

クライアント ノード ハードウェア情報 Dashboard グループ

NIC レポート、CPU レポート、メモリ レポート、および SCSI/ファイバ カード レポートが含まれます。

クライアント ノード ハードウェア情報 Dashboard グループ

ボリューム レポート、ディスク レポートが含まれます。

クライアント ノード ソフトウェア情報 Dashboard グループ

ノード層レポート、エージェント分布レポート、ノード サマリ レポート、およびライセンス レポートが含まれます。

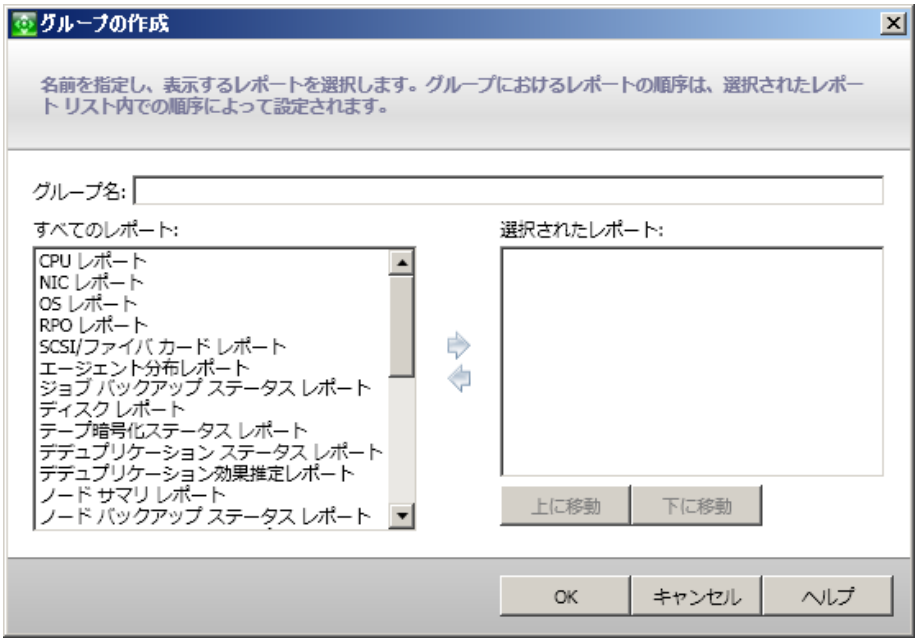
Dashboard グループの追加

CA ARCserve Backup Dashboard では新規 Dashboard グループを追加して、グループを選択したときに自分でカスタマイズしたレポートのグループを表示させることができます。 Dashboard グループに含めることのできるレポートは、1 つ以上 4 つまでです。

Dashboard グループの追加

1. ［Dashboard グループ］ペインで［追加］ボタンをクリックします。

   ［グループの作成］ダイアログ ボックスが開き、利用可能なレポートの一覧が表示されます。



2. ［グループ名］に、作成するグループの名前を入力します。

   注： 2 つのグループに同じ名前を付けることはできません。

3. ［全レポート］ボックスから、新規グループに含めるレポートを選択し、右矢印アイコンをクリックします。

   レポートが［選択されたレポート］ボックスに追加されます。 Dashboard グループには少なくとも 1 つのレポートを含める必要があります。

   注： 複数のレポートを選択する場合は、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら選択します。

4. Dashboard ウィンドウでのレポートの表示順序は、[選択されたレポート]ボックスでの一覧表示の順序によって決まります。 必要に応じて、[上に移動]ボタンや[下に移動]ボタンをクリックして、レポートを表示する順序をカスタマイズできます。

   一覧の 1 番目のレポートはウィンドウの最上段の左に、2 番目のレポートはその右に、3 番目は最下段の左に、4 番目はその右に表示されています。

5. [OK]ボタンをクリックすると、変更が保存されます。

   新規グループの名前が[Dashboard グループ]一覧に表示され、選択できるようになります。

Dashboard グループの変更

CA ARCserve Backup Dashboard では、既存の Dashboard グループを変更して、グループを選択したときに表示されるカスタマイズ済みレポートのグループを変更することができます。

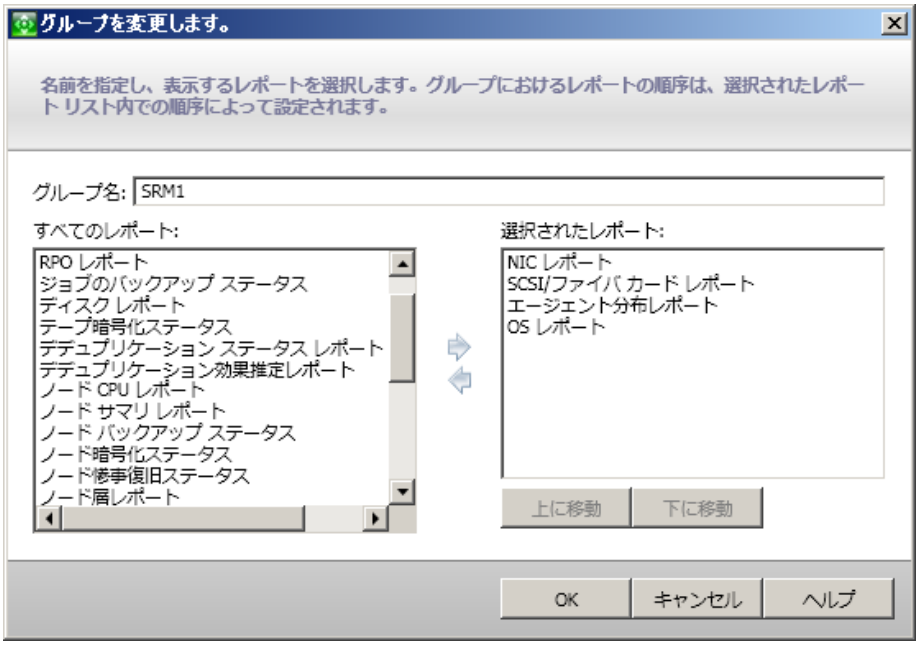
Dashboard グループの変更

1. [Dashboard グループ]ペインで、変更する既存のグループを選択します。

   [変更]ボタンが有効になります。

2. [変更]ボタンをクリックします。

   [グループの変更]ダイアログ ボックスが開き、選択したグループに含まれるレポートおよび利用可能なレポートの一覧が表示されます。



3. 左向き矢印アイコンや右向き矢印アイコンを使用して、レポートを[選択されたレポート]ボックスに追加したり、ボックスから削除したりします。

   レポートが[選択されたレポート]ボックスに追加またはボックスから削除されます。

   注: Dashboard グループには少なくとも 1 つのレポートを含める必要があります。

   グループ名やレポートの表示順序も変更できます。

   一覧の 1 番目のレポートはウィンドウの最上段の左に、2 番目のレポートはその右に、3 番目は次の段の左側に、4 番目はその右に、という順序で表示されます。

4. [OK]ボタンをクリックすると、変更が保存されます。

   変更したグループが[Dashboard グループ]一覧に表示され、選択できるようになります。

Dashboard グループの削除

CA ARCserve Backup Dashboard では、既存の Dashboard グループを削除できます。変更可能なグループはどれでも削除できますが、あらかじめ用意されているグループは削除できません。

Dashboard グループの削除

1. [Dashboard グループ]ペインで、削除する既存のグループを選択します。

   [削除]ボタンが有効になります。

2. [削除] ボタンをクリックします。

   選択したジョブを削除してもいいかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。

3. [OK]をクリックして、Dashboard グループを削除します(または[キャンセル]をクリックして処理を中止します)。

   選択したグループ名が[Dashboard グループ]一覧から削除されます。

ノード層

CA ARCserve Backup サーバ管理を使用して、CA ARCserve Backup ノードに割り当てられた優先度の分類を変更できます。 優先度は 3 つの層のグループ（層 1、層 2、および層 3）に分類されます。層 1 は優先度の高い（ビジネス クリティカルな）ノードに相当し、層 3 は優先度の低いノードに相当します。 これらの層を使用して、CA ARCserve Backup Dashboard に表示される情報が、監視されるノードの優先度レベルによってフィルタされます。

[ノード層の設定]ダイアログ ボックスには 3 つの優先度カテゴリが含まれ、ノードがシステムに追加されたときや参照されたときに自動的に挿入されます。 デフォルトでは、層 1 はすべての CA ARCserve Backup サーバ（プライマリおよびメンバ）および CA ARCserve Backup アプリケーション エージェントがインストールされているすべてのノード（Oracle、Microsoft Exchange、Microsoft SQL Server、Microsoft Sharepoint など）が含まれるように設定され、層 3 は他のすべてのノード（ファイル システム エージェントがインストールされている）が含まれるように設定されます。 層 2 はどのノードも含まれないように設定され、カスタマイズの用途に利用できます。

各層に対するノード割り当ては、[ノード層の設定]ダイアログ ボックスを使用して、個別のニーズに応じて再構成またはカスタマイズできます。[ノード層の設定]ダイアログ ボックスは、CA ARCserve Backup サーバ管理またはバックアップ マネージャからアクセスできます（[ソース]タブの[Windows システム]を右クリックします）。

注：

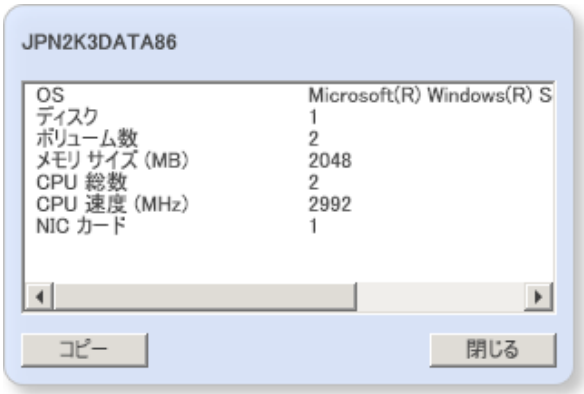
- ノード層の設定の詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。
- ノード層のモニタの詳細については、「ノード層レポート」（103 ページ）を参照してください。

ノード情報

ノード名の一覧を含むすべての Dashboard レポートには、各ノードのサマリ情報を迅速かつ容易に表示できる機能が用意されています。 ノード名を選択してマウス ボタンをダブルクリックすると、関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。

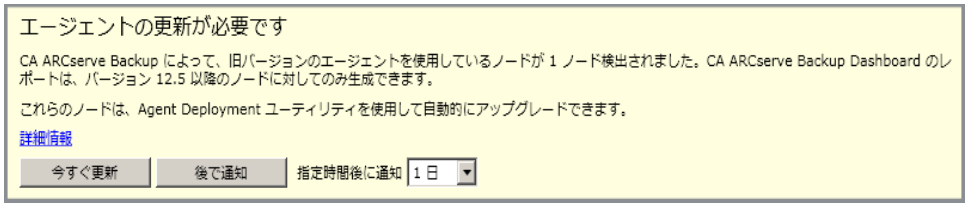
このポップアップ ウィンドウで、[コピー]ボタンをクリックしてノード情報の内容を一時的にコピーし、電子メールや MS Word、メモ帳などのテキスト エディタに貼り付けることができます。

注: ご使用のバックアップ環境にバージョン r12.5 の Unix/Linux/Mac エージェントが含まれている場合は、SRM 情報収集が Windows 以外のノードをサポートしていないため、このウィンドウにはノードの情報が表示されません。

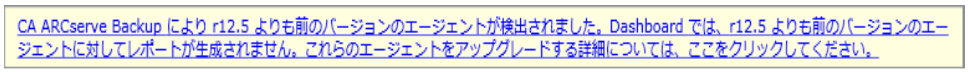


エージェントの更新警告

CA ARCserve Backup Dashboard を起動すると、CA ARCserve Backup エージェントが r12.5 より前のバージョンでインストールされていないかどうかを検出するために、バックアップ環境内のプローブが実行されます。 Dashboard では、r12.5 以降の CA ARCserve Backup エージェントがインストールされているノードに関してのみモニタおよびレポートが可能です。 古いバージョンのエージェントが検出された場合、[エージェントの更新が必要です]という警告が表示され、バックアップ環境内の r12.5 より前の CA ARCserve Backup エージェントがインストールされているノードを示します。 この警告ウィンドウでは、古いバージョンの Windows のエージェントを今すぐ簡単かつ迅速に更新できます。リクエストは、指定した日数後または後で通知するように選択できます。



後で通知するように指定すると、[エージェントの更新が必要です]アラートが非表示になり、Dashboard が古いエージェントに関するレポート情報を提供しないことを通知する小さなリマインダ ウィンドウで置き換えられます。



注: CA ARCserve Backup プライマリ サーバのインストール中に Agent Deployment パッケージをインストールしなかった場合は、[エージェントの更新が必要です]アラートウィンドウの[今すぐ更新]ボタンをクリックし、CA ARCserve Backup インストール メディアで Agent Deployment パッケージのパスを指定することによって、古いバージョンのエージェントをアップグレードできます。 Agent Deployment パッケージの詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

重要なデータに適切な保護を確実に適用し、CA ARCserve Backup が提供する最新の機能とテクノロジをフルに活用するためには、バックアップ環境全体を最新のバージョンに保っておくことが不可欠です。

第 3 章: Dashboard レポート

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

CA ARCserve Backup Dashboard レポートの種類(41 ページ)
エージェント分布レポート(44 ページ)
バックアップ データの場所レポート(48 ページ)
バックアップ サーバ負荷分散レポート(51 ページ)
CPU レポート(54 ページ)
メディアのデータ分布レポート(57 ページ)
デデュプリケーション効果推定レポート(59 ページ)
デデュプリケーション ステータス レポート(61 ページ)
ディスク レポート(65 ページ)
ジョブ バックアップ ステータス レポート(68 ページ)
ライセンス レポート(73 ページ)
メディア検証レポート(75 ページ)
メモリ レポート(78 ページ)
NIC レポート(81 ページ)
ノード バックアップ ステータス レポート(84 ページ)
ノード惨事復旧ステータス レポート(88 ページ)
ノード暗号化ステータス レポート(93 ページ)
ノード復旧ポイント レポート(97 ページ)
ノード サマリ レポート(101 ページ)
ノード層レポート(103 ページ)
最近のバックアップに失敗したノード レポート(106 ページ)
OS レポート(108 ページ)
RPO (Recovery Point Objective、目標復旧ポイント)レポート(111 ページ)
SCSI/ファイバ カード レポート(115 ページ)
テープ暗号化ステータス レポート(118 ページ)
バックアップに失敗したノード レポート(121 ページ)
バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポート(125 ページ)
仮想マシン復旧ポイント レポート(126 ページ)
仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート(130 ページ)
ボリューム レポート(132 ページ)

CA ARCserve Backup Dashboard レポートの種類

CA ARCserve Backup Dashboard のレポートは基本的に 2 種類に分類されます。バックアップ環境レポートおよびストレージ リソース管理(SRM)レポートです。 さらに、より詳細な情報を表示するレポートへドリルダウンする高度な機能を持つレポートもあります。

バックアップ環境タイプのレポート

バックアップ環境レポートでは、バックアップ インフラストラクチャのスナップショット概要が利用できます。 このレポートにより、関連情報を迅速かつ容易にモニタすることができ、バックアップ環境のパフォーマンスと操作の管理に役立ちます。 バックアップ環境レポートには、次のような情報が含まれます: 指定した CA ARCserve Backup ドメイン、サーバ、ノード、および/またはジョブの全体のステータス、暗号化/非暗号化セッションを含むメディア、仮想化環境のステータス、デデュプリケーションの効果など。 また、このバックアップ環境レポートでは、環境内の特定の領域にドリルダウンする機能が追加され、領域ごとに焦点をさらに絞り込んだステータスの表示が利用できます。

これらのレポートは、レポート同士を組み合わせて評価し、結果を比較したり、バックアップ環境の状態について全体像をより詳しく把握したりすることが重要です。

注: Dashboard を初めて使用する際、バックアップ環境レポートにバックアップ データが表示されない場合がありますが、データを収集して表示するには、その前に 1 度はバックアップ ジョブが実行されている必要があります。

SRM タイプのレポート

ストレージ リソース管理(SRM)レポートを使用すると、ストレージ環境全体を一目でモニタし、関連するリソースすべてのステータスを測定することができます。 また、パフォーマンス分析やリアルタイム レポートを実行して、ストレージ環境内のすべての Windows ノードについて動作の傾向を見極めることができます。 ストレージ環境と個々のストレージ コンポーネントを把握しておけば、潜在的なボトルネックをすばやく特定し、サービスの中断を予防できます。

SRM レポートには、バックアップ インフラストラクチャ内のノードに関する次のような情報が含まれます: 使用済みおよび利用可能なストレージ容量、メモリ容量、OS のバージョン、インストールされているネットワーク インターフェース カードおよびその速度、プロセッサ アーキテクチャおよびその速度、SCSI カードまたはファイバ カードを介して共有ストレージや外部メディアにアクセスしているノードなど。 また、SRM レポートでは、環境内の特定の領域にドリルダウンする機能が追加され、領域ごとに焦点をさらに絞り込んだステータスの表示が利用できます。

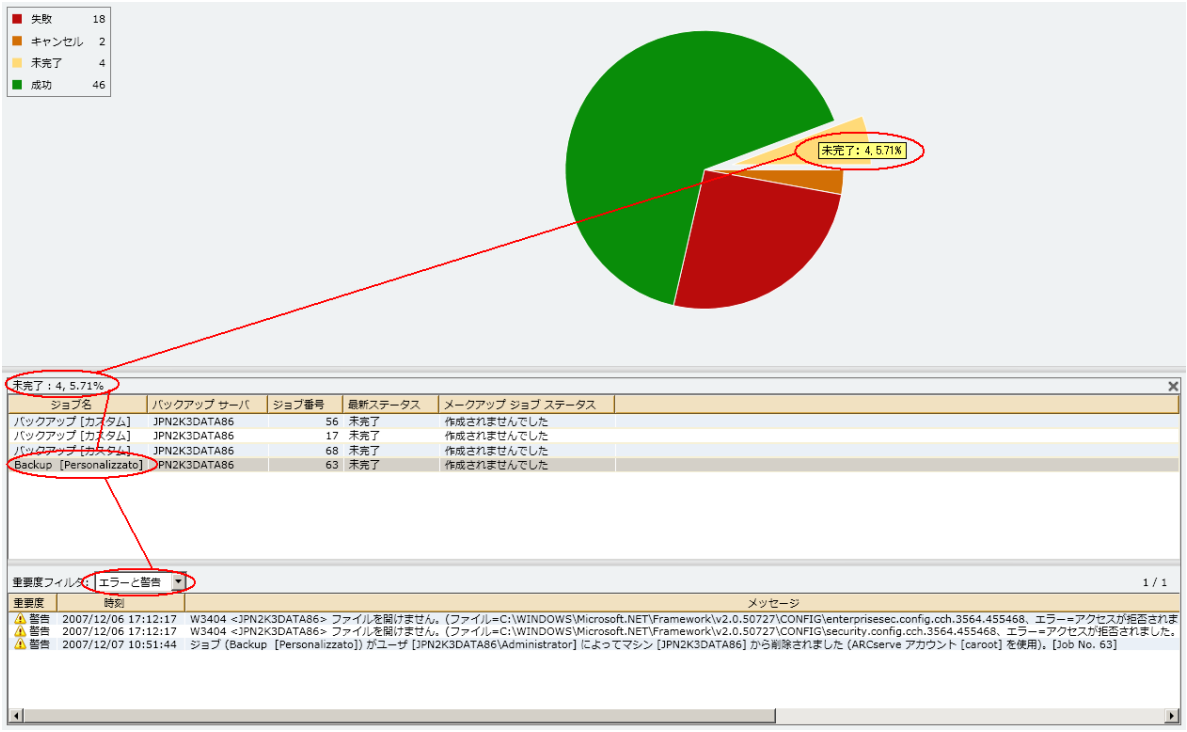
これらの SRM レポートは、レポート同士を組み合わせて評価し、結果を比較したり、ストレージ環境の状態について全体像をより詳しく把握したりすることが重要です。

注: Dashboard を初めて使用する際、SRM レポートに SRM データが表示されない場合がありますが、データを収集して表示するには、その前に 1 度は SRM プローブが実行されている必要があります。 デフォルトでは、毎日午後 2 時に SRM プローブおよびデータ更新が実行されます。 ただし、SRM 情報をすぐに表示したい場合は、[SRM プロービング]ダイアログ ボックスの[今すぐプローブ実行]ボタンをクリックすれば、すぐにプローブを開始できます。 詳細については、「SRM プローブ設定」(29 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

レポートによっては、さらに詳しい情報を表示するレポートへとドリルダウンする拡張機能が備えられています。 そのようなレポートでは、任意のステータス カテゴリをクリックすると、サマリ情報の表示から、そのカテゴリに重点を置いた詳細なレポート ビューへとドリルダウンすることができます。

また、レポートによっては、個別のジョブやノードの名前をクリックしてさらにドリルダウンし、ジョブやノードに関連するすべてのログ メッセージの詳細な一覧を表示することができます。



エージェント分布レポート

エージェント分布レポートは、各ノードにインストールされているすべての CA ARCserve Backup エージェントのバージョンを表示します。 Dashboard は CA ARCserve Backup r12.5 および関連するエージェントのみをサポートしています。 Dashboard をフルに活用し、その機能を十分に活かすためには、すべてのエージェントのバージョンが r12.5 である必要があります。 エージェントのバージョンが r12.5 でない場合、関連するすべての Dashboard レポートで、そのノードに対応するデータが表示されません。 ドロップダウン メニューからエージェントを選択して、表示をフィルタすることができます。 すべてのエージェントを含めたり、個別にエージェントを指定したりできます。 ドロップダウン メニューには、すべての「アクティブ」なエージェントが含まれます。「アクティブ」とは、以前に CA ARCserve Backup を使用してそのエージェントをバックアップしたことがあるという意味です。

このレポートを使用して、CA ARCserve Backup エージェントのバージョン ステータスをすばやく調べたり、アップグレードが必要なエージェントを特定したりすることができます。

レポートの利点

エージェント分布レポートは、各ノードにインストールされている CA ARCserve Backup エージェントのバージョンを分析して判別するのに役立ちます。 Dashboard は CA ARCserve Backup r12.5 および関連するエージェントのみをサポートしています。

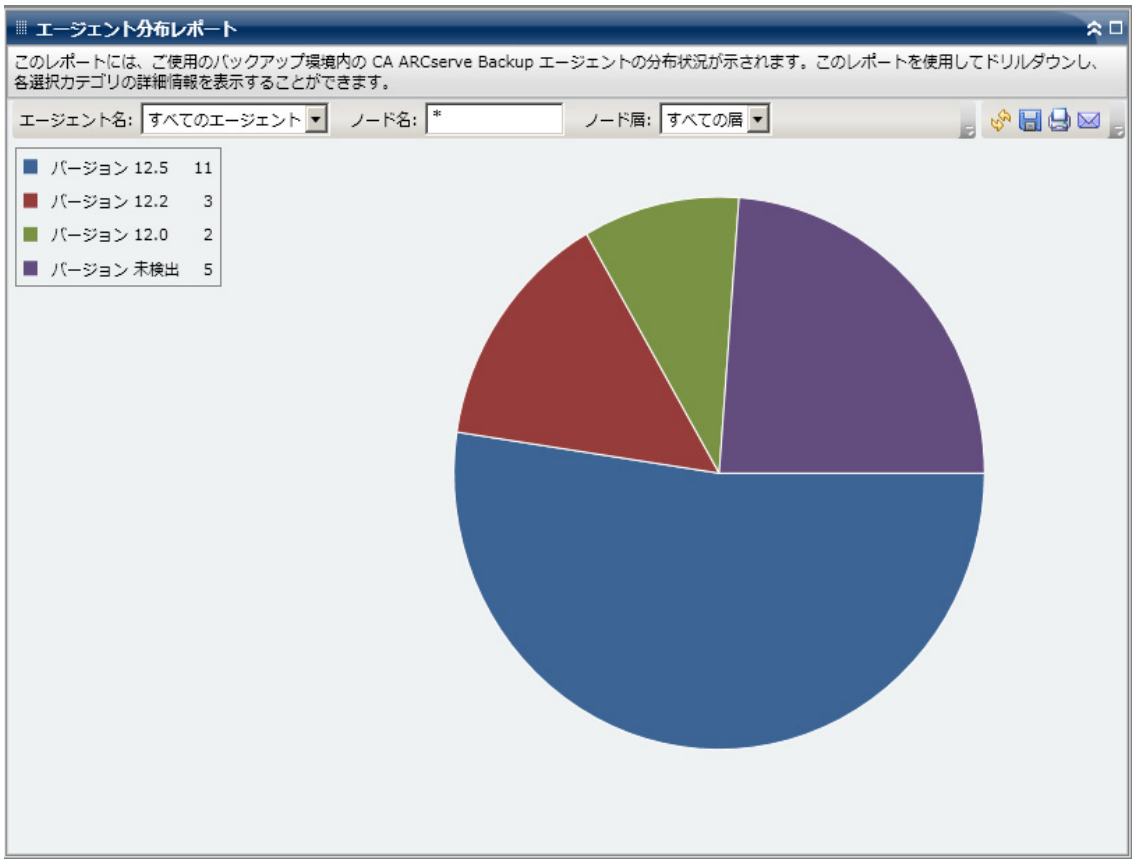
各種 Dashboard レポートで表示されないバックアップ データがある場合には、このレポートを使用して、CA ARCserve Backup エージェントの中にバージョンが r12.5 にアップデートされていないものがあるかどうかを調べることができます。 Dashboard と CA ARCserve Backup エージェントが提供する最新の機能をフルに活用するためには、これらの製品を常に最新のバージョンにしておくことが必要です。

CA ARCserve Backup エージェントを最新バージョンにアップデートする方法

- テクニカル サポート(http://www.ca.com/jp/support/)にアクセスし、オンラインの技術サポートを利用するか、サポートの所在地、営業時間、電話番号の一覧を参照してください。または、CA ARCserve Backup のナビゲーション バーの[管理]セクションにある Agent Deployment ツールを使用することもできます。
- Agent Deployment ツールを使用します。ツールは CA ARCserve Backup の[管理]セクションから利用できます。

レポート ビュー

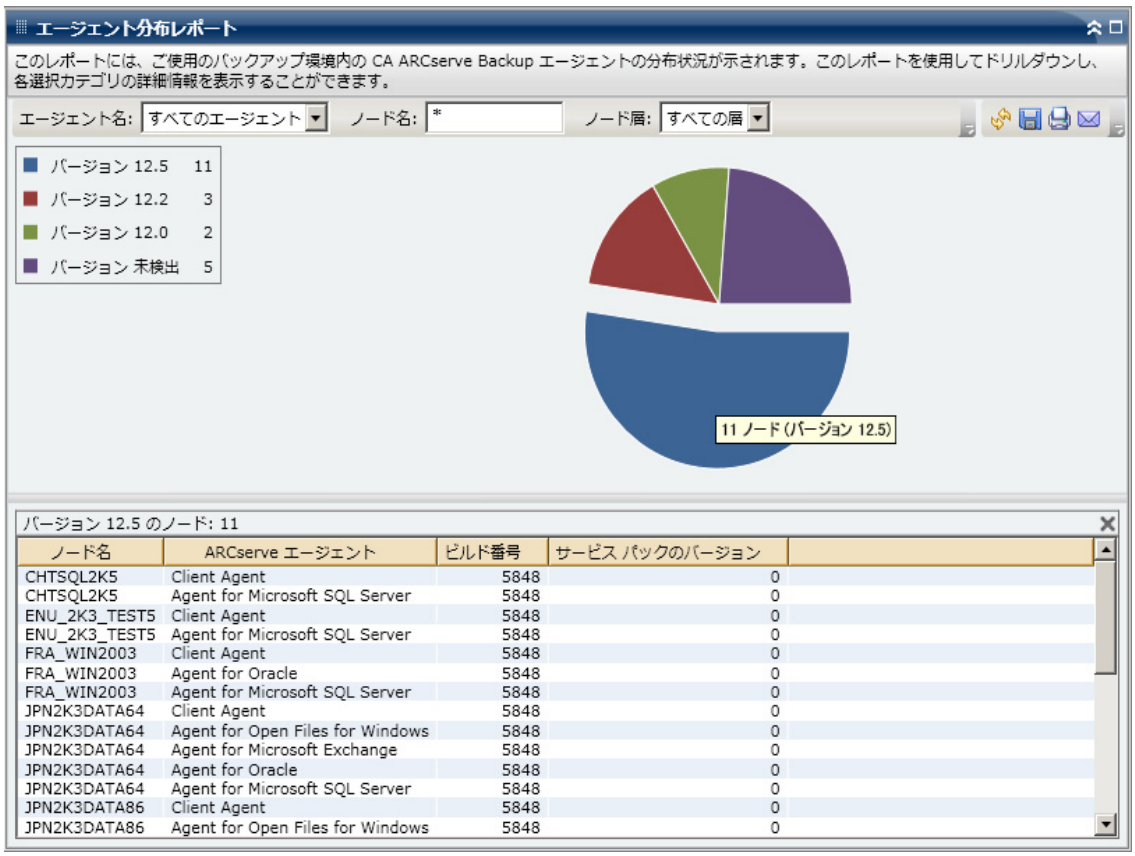
エージェント分布レポートは円グラフ形式で表示され、選択したエージェント名のバージョン分布を表します。



ドリルダウン レポート

エージェント分布レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。円グラフをクリックすると、エージェント情報の詳細が表形式で表示されます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。



エージェント分布レポートには、r12 以降のリリースの CA ARCserve Backup エージェントのノードのサービス パック(SP)バージョンのみが表示されます。 以前のリリースの場合、SP 情報は、以下のテーブルを使用してビルド番号を対応する SP 番号に変換することによって、レポートの[ビルド]列から識別することができます。

注: 詳細については、CA サポート(http://www.ca.com/jp/support/)までお問い合わせください。

リリース	ビルド番号の開始	GA	SP1	SP2	SP3	SP4
r11.5	3884	X				
	4144		X			
	4232			X		
	4402				X	
	4490					X
r11.1	3060	X				
	3100		X			
	3200			X		
r11	2670	X				
r9.0.1	2020	X				
	2100		X			
	2200			X		
r 9.0	1868	X				
注： GA （General Availability）は、このバージョンの一般提供（または最初）のリリースを示します。						

バックアップ データの場所レポート

バックアップ データの場所レポートはノードの数とそのノードのバックアップされたデータの場所を表示します。 このレポートを使用して、バックアップ インフラストラクチャと計画がデータを適切に保護しているかどうかを評価することができます。 また、必要な場合は、データを回復する最も迅速で効率の良い方法を、このレポートを利用して選択することができます。 このレポートでは、4 つの回復可能な場所カテゴリ(レプリケート、ディスク、テープ オンサイト、テープ オフサイト)における保護データのさまざまな場所を分析し、バックアップされたデータをそこから回復する最も効果的な方法を特定することができます。

レプリケート

CA XOSoft によりレプリケートされたノード、および CA ARCserve Backup によって XOSoft シナリオとしてバックアップされたノード。

ディスク

ディスク(FSD、VTL デバイス、およびデデュプリケーション デバイスを含む)にバックアップされたノード。

オンサイト:

オンサイトのテープにバックアップされたノード。

オフサイト:

オフサイトのテープにバックアップされたノード。

レポートの利点

バックアップ データの場所レポートは保護されたデータ環境の有効性を分析し判断するのに役立ちます。 このレポートから、バックアップ インフラストラクチャ全体のスナップショット ビューを取得し、データが適切に保護されているかどうかを判断することができます。

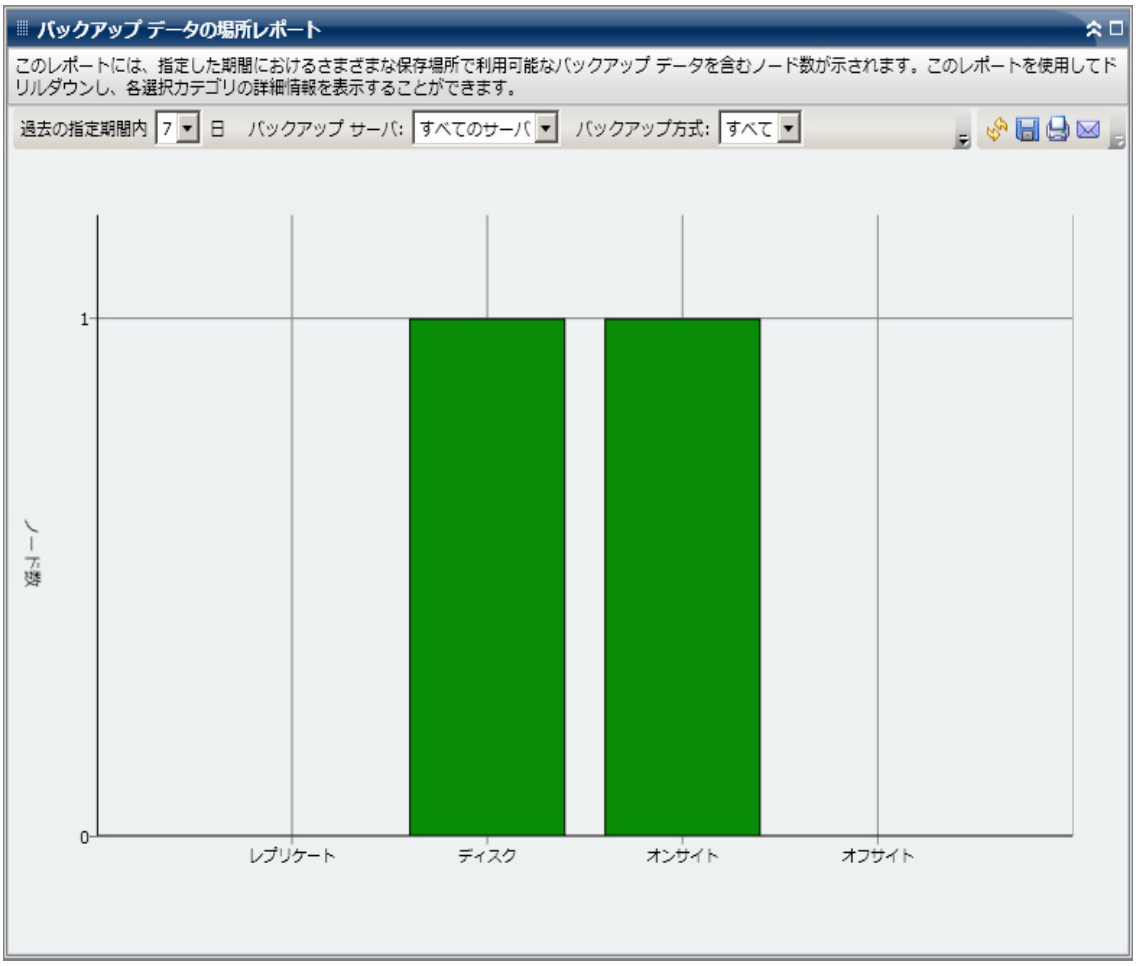
たとえば、このレポートから、保護されたデータの大部分がオンサイト テープに存在し、オフサイト テープには存在しないことがわかった場合、データはローカルの惨事に対して適切に保護されていないので、バックアップ計画を変更する必要があります。

さらにこのレポートは、必要な場合にバックアップ データを復旧する最も効果的な方法を特定するのにも役立ちます。

たとえば、このレポートによって、回復するデータがオンサイトのテープまたはディスクとオフサイト テープの両方にバックアップされていることがわかった場合、通常、リモートの場所からではなくローカルのテープやディスクからの方がより迅速に復旧できます。 したがって、必要な場合には、データ回復にはオンサイトのテープ ソースやディスクを選択します。

レポート ビュー

バックアップ データの場所レポートは棒グラフの形式で表示され、バックアップ データを持つノードの数を場所ごとに表示します。

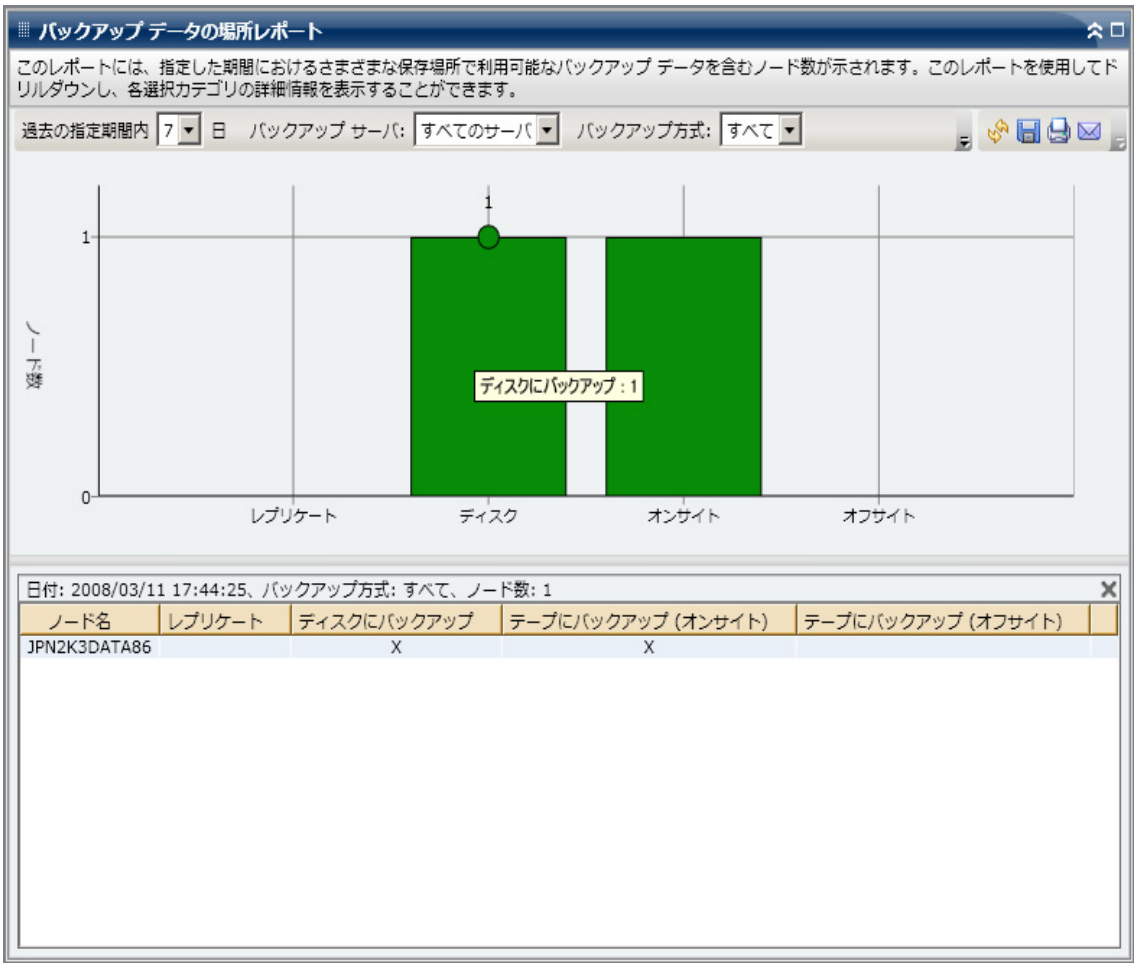


ドリルダウン レポート

バックアップ データの場所レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 任意のステータス カテゴリをクリックし、サマリ情報の表示から、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。

たとえば、「テープ オンサイト」カテゴリをクリックすると、レポート サマリが切り替わり、過去の指定期間内にオンサイト テープにバックアップされたすべてのノードのみをフィルタした一覧が表示されます。 このレポートには、バックアップされた同じノードのすべての場所カテゴリが表示されるため、必要な場合にはデータの回復元として最適な場所を判断するのに役立ちます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。



バックアップ サーバ負荷分散レポート

バックアップ サーバ負荷分散レポートは過去の指定日数の間の、各 CA ARCserve Backup サーバのデータの負荷分散をリストします。

レポートの利点

バックアップ サーバ負荷分散レポートは、データのバックアップ用に比較的多く利用されている CA ARCserve Backup サーバや、もっと有効利用できるサーバを分析して特適するのに役立ちます。 このレポートを使用して、どのサーバが大量のバックアップを実行しているかを示すスナップショット ビューを取得することができ、必要な場合に、より適切な負荷分散方法を特定することができます。

レポート ビュー

バックアップ サーバ負荷分散レポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。

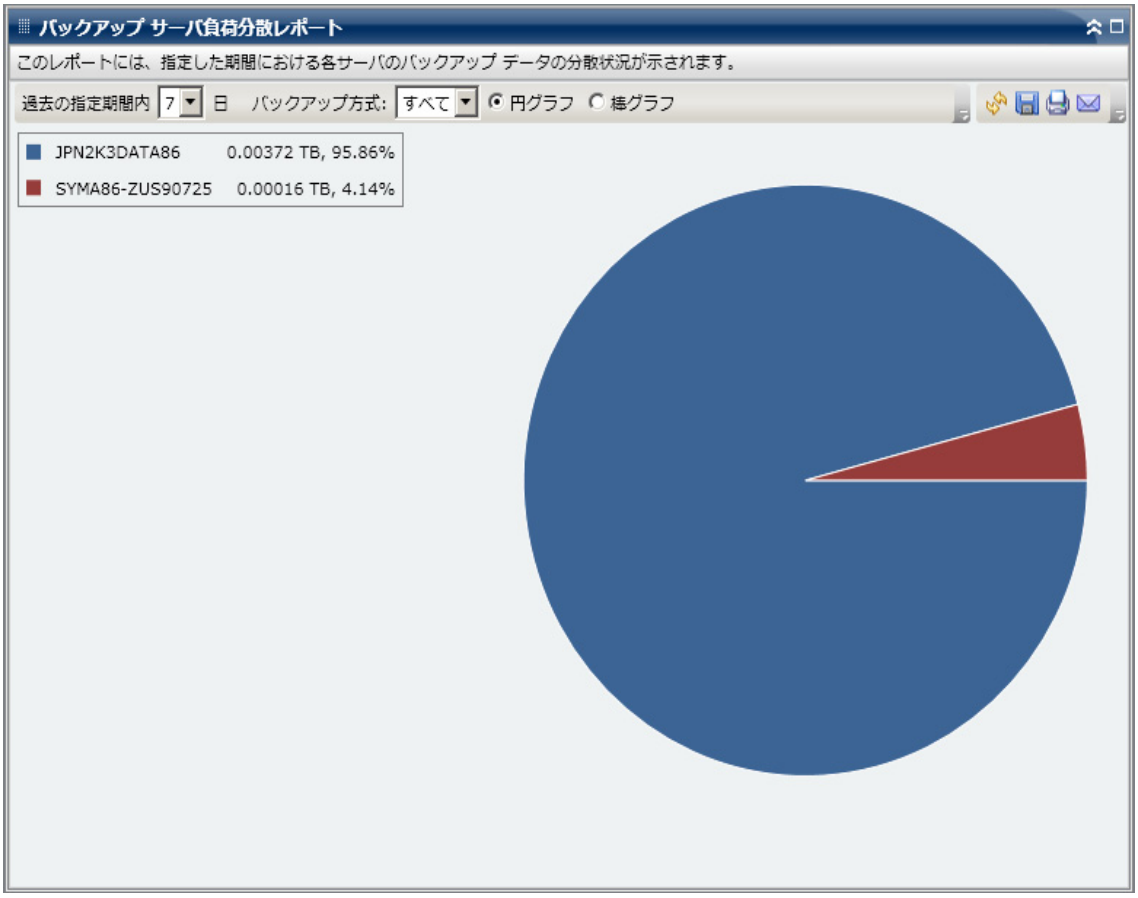
注: メディアを再フォーマットすると、バックアップ サーバ負荷分散レポートに表示されるデータ量には、再フォーマットする前の古いメディアのデータはカウントされません。

たとえば、1GB のバックアップを 7 日間実行する場合、レポートは 7 GB のデータの負荷分散を表示します。 しかし、最も古いメディアを再フォーマットした後でレポートを更新すると、レポートは 6 GB のデータの負荷分散しか表示しなくなります。

円グラフ

円グラフは、過去の指定日数の間のすべての日における、CA ARCserve Backup サーバ間のバックアップ データ分散の高レベルの概要を提供します。 円グラフに示されるステータス カテゴリは、それらのサーバにおける合計のバックアップ データ分散の割合を表します。

円グラフ ビューは各サーバにおける指定日数のデータ分散をテラバイト(TB)単位で表示します。

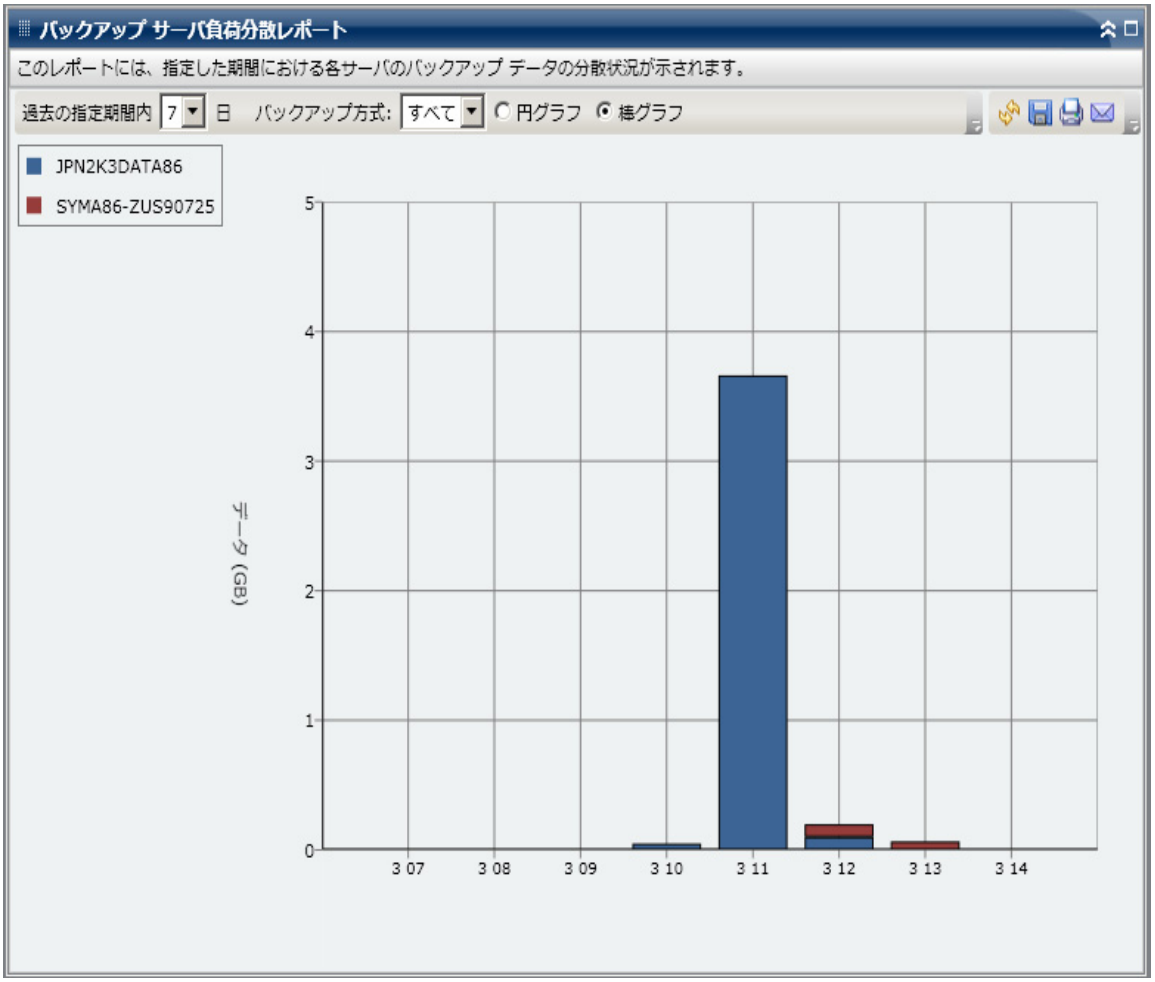


棒グラフ

棒グラフは、過去の指定日数の間の各日における、CA ARCserve Backup サーバ間のバックアップ データ分散の詳細レベルのビューを提供します。 棒グラフに示されるステータス カテゴリは、それらのサーバにおける日単位のバックアップ データ分散を表します。

棒グラフ ビューは各サーバにおける指定日数のデータ分散をギガバイト(GB)単位で表示します。

注: デフォルトでは、CA ARCserve Backup Dashboard は最大で 90 日間のみの情報を棒グラフに表示します。 表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。 90 日以上のレポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。 この制限は同じレポートの円グラフ ビューには適用されません (円グラフの表示日数の最大は 999 日です)。



CPU レポート

CPU レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、CA ARCserve Backup ドメイン内の Windows ノードの数を、CPU の各種プロパティ別に表示します。 このレポートをフィルタして、指定した CPU プロパティでノードを分類して表示することができます。

レポートの利点

CPU レポートは、CPU の数、CPU のメーカー、CPU のアーキテクチャ(32 ビットまたは 64 ビット)に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。 この全体像から、バックアップ ジョブに対してどの CPU が最も効率が良く、どの CPU に問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、スループット値の低いノードを特定する場合は、このレポートでノードの CPU 速度をモニタできます。 遅い CPU や同じメーカー製の CPU の動作パターンを調べることができます。 32 ビット CPU ノードは、64 ビット CPU ノードに比べてスループットが低くなる場合があります。

最も速いスループット値を基準として使用し、その CPU のパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。 遅い CPU と速い CPU を比較して、CPU 自体に問題があるのかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。 遅い CPU はパフォーマンスが悪いのではない可能性があります。

このレポートから、CPU ハードウェアをアップグレードする必要があるかどうかを判断できます。

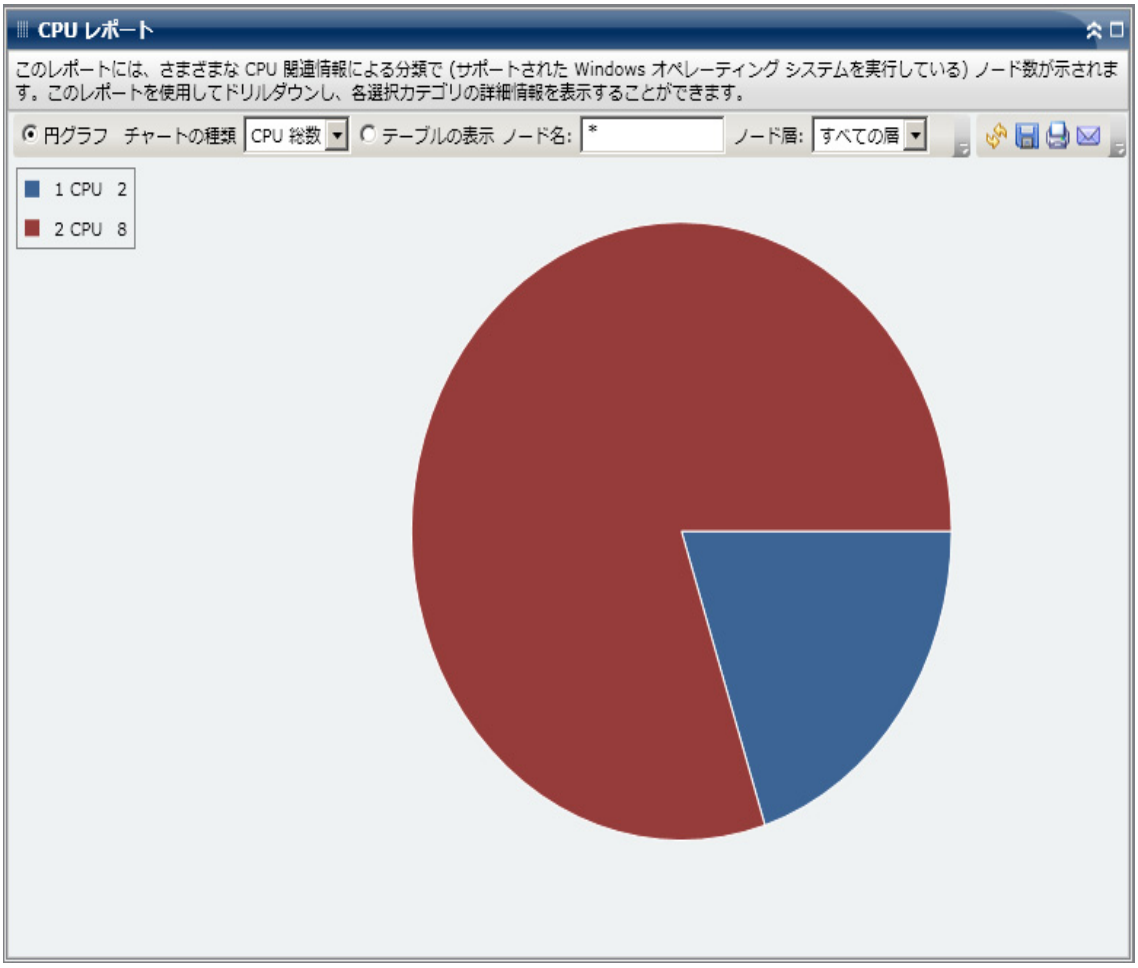
問題が潜在している CPU を特定し、同じ CPU が搭載されたノードに頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

CPU レポートは、円グラフまたは表形式で表示することができます。

円グラフ

円グラフ形式は、CA ARCserve Backup ドメイン内にあるノードの高レベルの概要を提供し、対応する CPU 情報を、指定したフィルタに基づいて表示します。［チャートの種類］ドロップダウン メニューから、ノードの CPU 数の表示方法を選択して、CPU の物理属性（シングルかマルチか）、メーカー（Intel か AMD か）、アーキテクチャ（32 ビットか 64 ビットか）のいずれかに基づいて表示することができます。



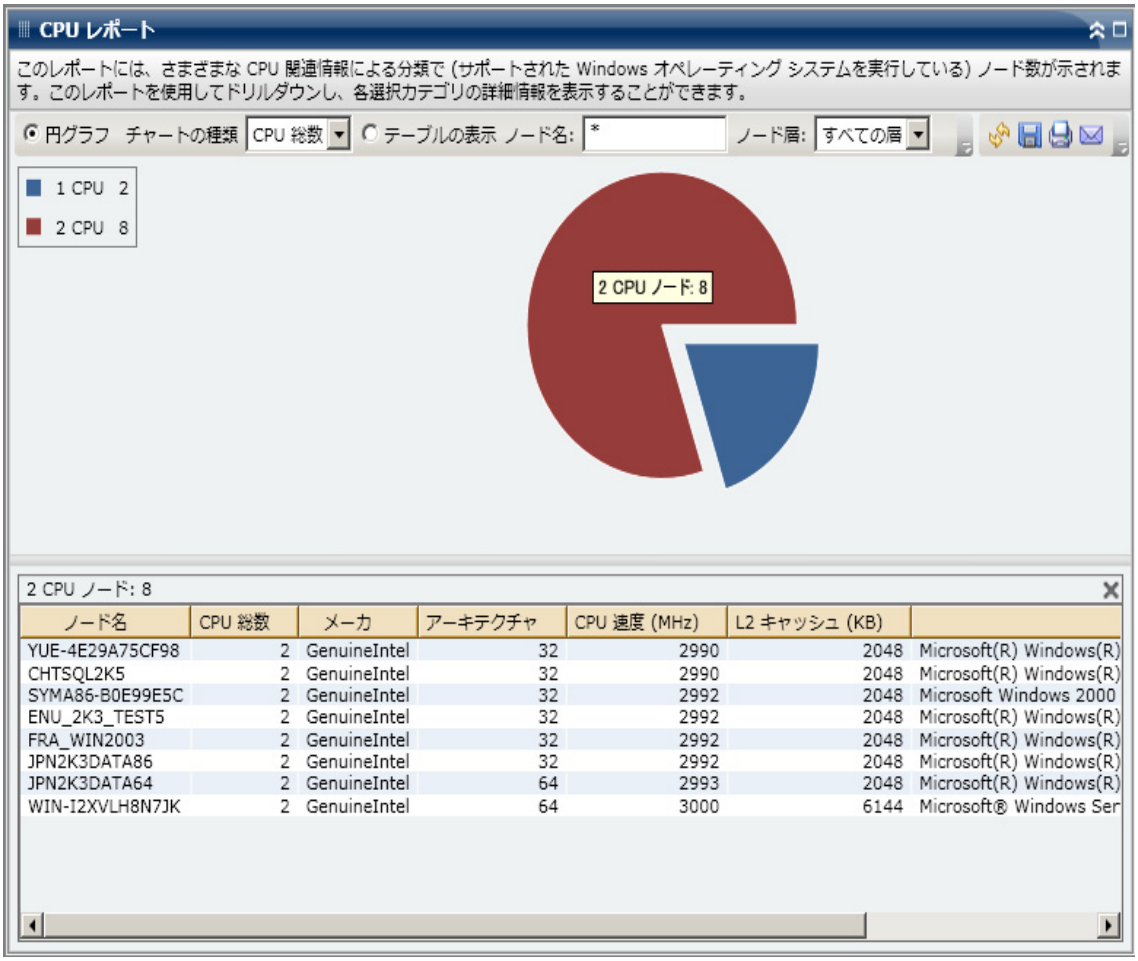
テーブルの表示

表ビュー形式では、CA ARCserve Backup ドメイン内にある各ノードのより詳細な情報を表示します。 表形式には、物理構造、メーカー、アーキテクチャ、速度、キャッシュ、OS など、すべてのノード CPU カテゴリに関して表示可能な CPU 情報が含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

CPU レポートの円グラフ ビューを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



メディアのデータ分布レポート

メディアのデータ分布レポートには、指定した過去の期間内に各種メディア（デデュプリケーション デバイス、ディスク、およびテープ）にバックアップされたデータの量と分布が表示されます。 ハードウェア圧縮が施されたデデュプリケーション デバイスの場合、このレポートに raw データ サイズと圧縮済みデータ サイズの比較（GB 単位）も表示されます。

レポートの利点

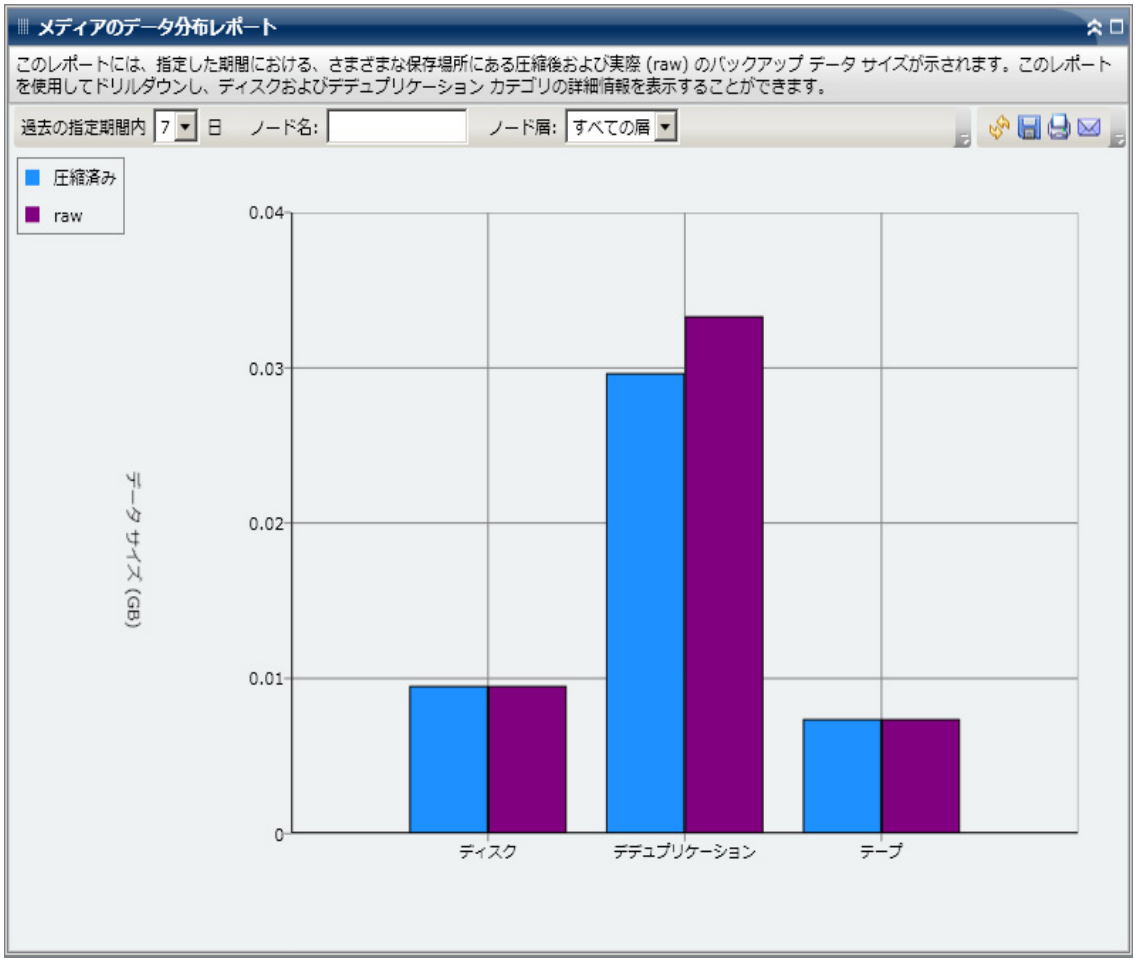
メディアのデータ分布レポートは、CA ARCserve Backup ドメイン内のすべてのサーバを分析して、データが各種バックアップ メディアにどのように分布しているかを把握するのに役立ちます。 このレポートによって、バックアップ中に圧縮によって得られる節約量（バックアップ サイズ）を測定できます。 この情報を得ることにより、バックアップ サイズの節約が、バックアップに必要なリソースの節約にどうつながるかを容易に把握できます。

たとえば、このレポートから、CA ARCserve Backup ドメイン内でデデュプリケーション デバイスに保存されている圧縮済みバックアップ データのサイズが、圧縮しなかった場合の raw バックアップ データよりもかなり小さいことがわかります。 また、別のデータはディスクにバックアップされている（そのため圧縮されていない）ことがレポートに表示された場合には、バックアップの効率を改善するためにデデュプリケーションの利用を増やすよう検討する必要があります。 さらに、圧縮済みデータを保存するのに必要なバックアップ テープを減らせるかどうかも判断できます。

注: テープに保存されているデータには、テープがハードウェア圧縮をサポートしていない限り、バックアップ サイズの節約はありません。 デデュプリケーション デバイスで圧縮され保存されたデータのみが、バックアップサイズの大幅な節約を得ることができます。

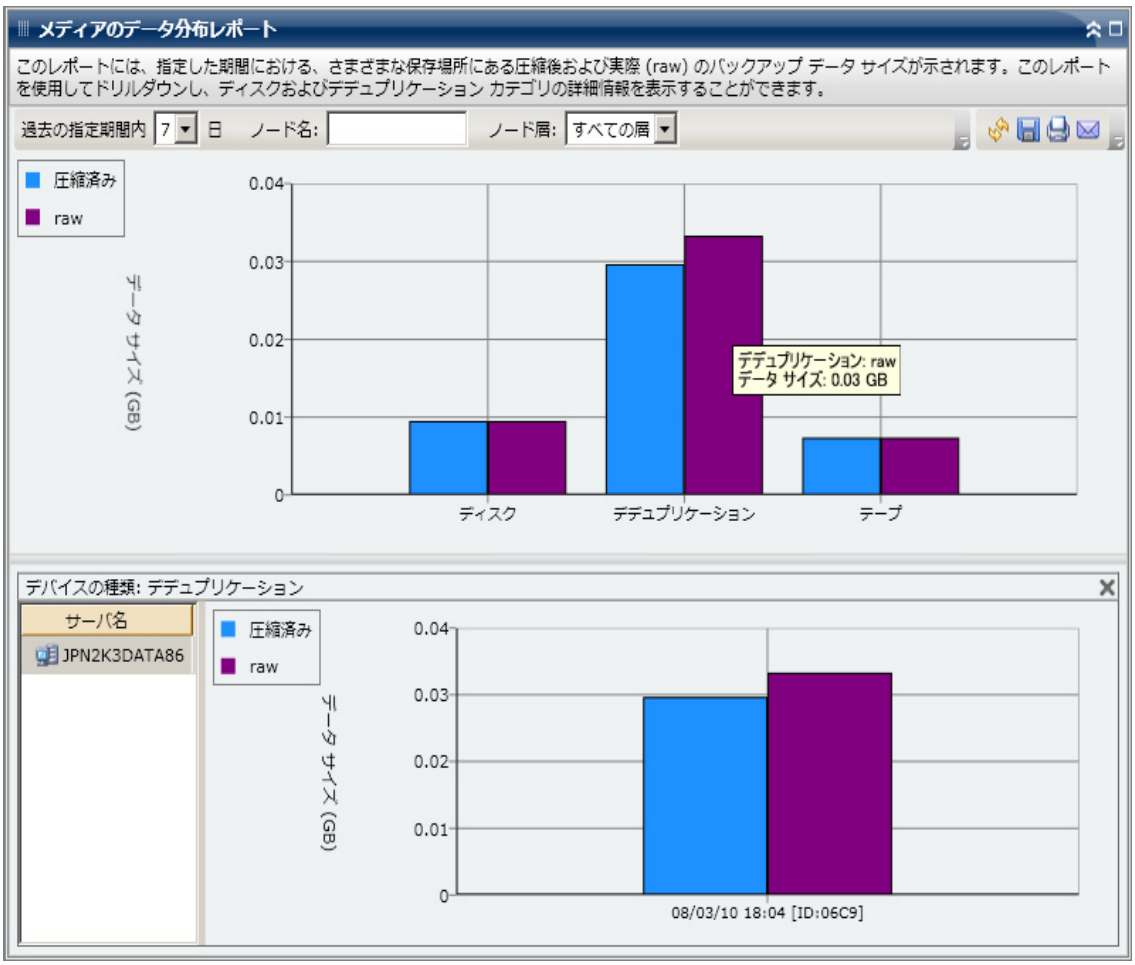
レポート ビュー

メディアのデータ分布レポートは棒グラフ形式で表示され、過去の指定期間内に CA ARCserve Backup ドメイン内の各種メディアに分布しているバックアップ データの量 (GB)を表します。 表示されるメディアの種類は、デデュプリケーション デバイス、ディスク、およびテープです。 デデュプリケーション デバイス メディアは、比較に役立つよう、さらに 2 つのカテゴリ「圧縮済みデータ サイズ」および「raw データ サイズ」に分割されます。



ドリルダウン レポート

メディアのデータ分布レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 デデュプリケーション カテゴリまたはディスク カテゴリをクリックしてドリルダウンし、対応する CA ARCserve Backup サーバ内のデデュプリケーション デバイスまたはディスク デバイスごとに(FSD および VTL)の詳細な棒グラフを表示できます。 (ドリルダウン機能は、テープ カテゴリのメディアには適用されません)。 この詳細な表示には、各デバイスの圧縮済みデータ サイズと raw データ サイズが含まれ、節約量を比較できます。



デデュプリケーション効果推定レポート

デデュプリケーション効果推定レポートには、デデュプリケーション デバイスを使用した場合のバックアップ容量の推定節約量が表示されます。

レポートの利点

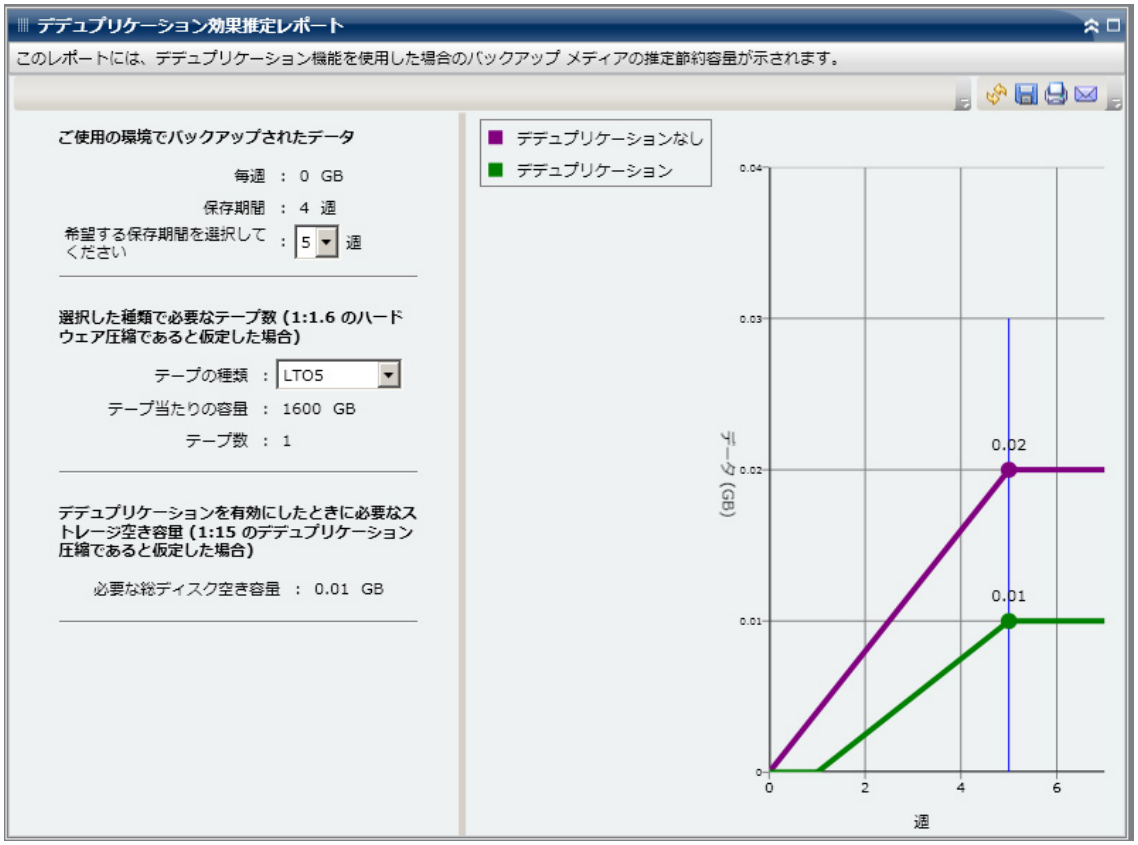
デデュプリケーション効果推定レポートは、CA ARCserve Backup デデュプリケーション機能を使用している場合としていない場合のバックアップ容量の節約を分析して測定するのに役立ちます。 このレポートは、同じ容量のデータをバックアップするという前提で、デデュプリケーションを使用した場合としない場合を比較し、必要となる容量の推定節約量を表示します。 このレポートによって、節約される容量から節約可能なコストを簡単に算出できます。たとえば、新たにテープを購入しなくてもハード ドライブ上の使用スペースを減らすことでコスト削減が図れることがわかります。

たとえば、毎週 1TB のデータをバックアップし、このデータを 4 週間保持する必要がある場合、全体でテープ容量の 4TB を占めることになります。 バックアップ テープの容量を平均 500 GB とすると、このバックアップ データを保存するのにテープが 8 本必要になります(ハードウェア圧縮を使用しない場合)。 ハードウェア圧縮を 1.6:1 とすると、このバックアップ データを保存するのにおよそ 6 本のテープが必要になります。

ここで、同じ容量のデータをデデュプリケーション機能を使用して 1:15 という低い平均圧縮率でバックアップすると、1230 GB のハード ドライブ スペースしか必要でないことが、このレポートによって容易に把握できます。 また、それだけの数のテープにデータを保存する場合の平均コストを測定して、データ ドライブ上のはるかに少ないスペースに保存する場合のコストと比較できます。

レポート ビュー

デデュプリケーション効果推定レポートには、グラフ形式で、バックアップ データの容量（GB）および保存期間（週）が表示されます。 これは、使用されているテープの種類ごとにグループ化して表示され、テープあたりの容量およびデータをバックアップするのに必要なテープの数が含まれます。 このレポートによって、デデュプリケーションを使用した場合と使用しない場合の必要なストレージ スペースの推定節約量が容易に把握できます。



デデュプリケーション ステータス レポート

デデュプリケーション ステータス レポートは、過去の指定日数の間にデデュプリケーション デバイスを使用してバックアップしたノードの数を表示します。 このレポートによって、実現できた節約量に加えて、それらのノードのうちデデュプリケーションの効果があったノード、または効果がなかったノードを把握できます。

レポートの利点

デデュプリケーション ステータス レポートは、デデュプリケーションの効果があるのはどのノードか、各ノードで得られた節約量（バックアップ サイズ）はどれくらいかを分析し特定するのに役立ちます。 この情報を得ることにより、バックアップ サイズの節約が、バックアップに必要なリソースの節約にどうつながるかを容易に把握できます。

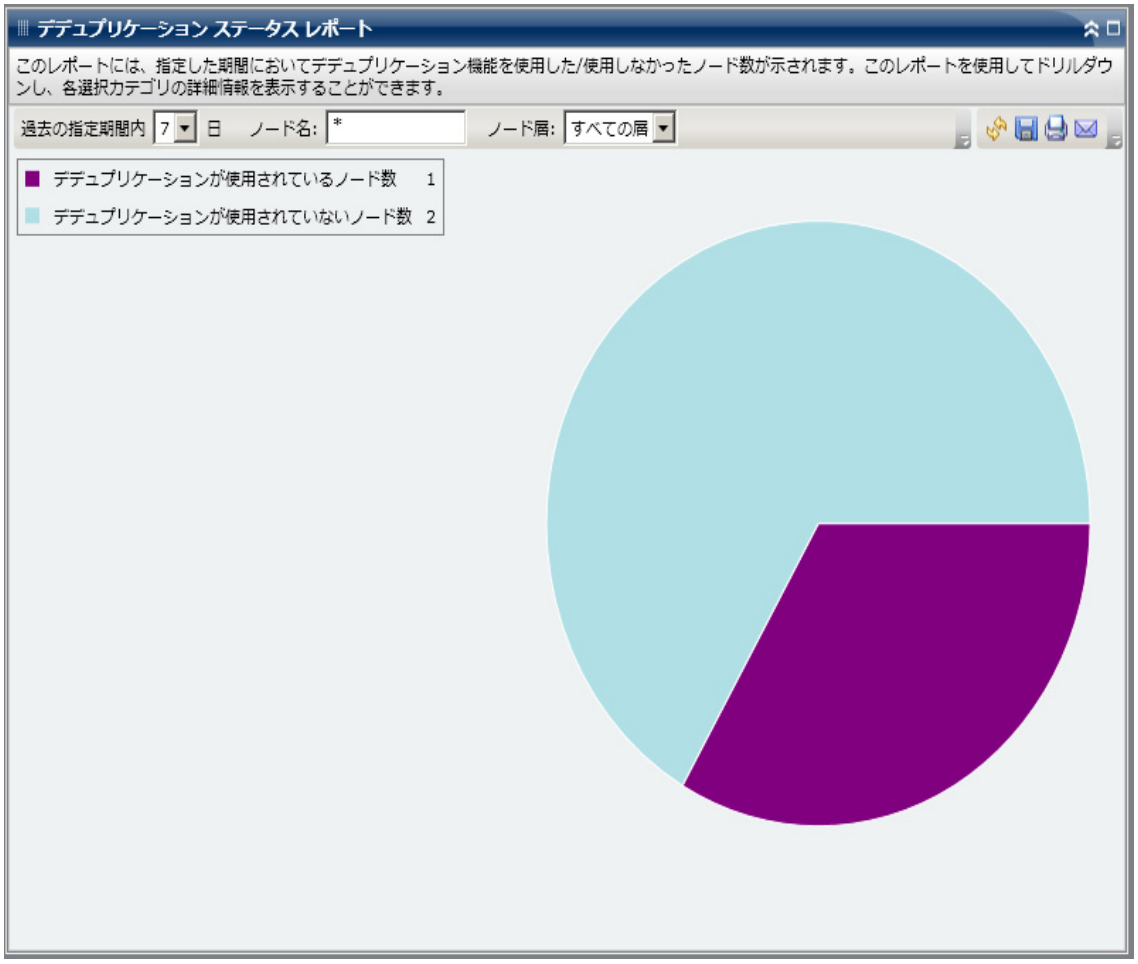
たとえば、このレポートによって、ノードの大部分でデデュプリケーションの効果があり、raw バックアップサイズから圧縮済みバックアップサイズへの実際の節約量が大幅であることがわかれば、さらに多くのバックアップを実施する際には、バックアップの効率を改善するためにデデュプリケーションの利用を増やすよう検討する必要があります。 さらに、圧縮済みデータを保存するのに必要なバックアップ テープを減らせるかどうかも判断できます。

注: テープに保存されているデータには、テープがハードウェア圧縮をサポートしていない限り、バックアップ サイズの節約はありません。 デデュプリケーション デバイスで圧縮され保存されたデータのみが、バックアップサイズの大幅な節約を得ることができます。

レポート ビュー

デデュプリケーション ステータス レポートは円グラフ形式で表示され、デデュプリケーションの効果があるノードの数(およびパーセント)と効果のないノードの数を表します。

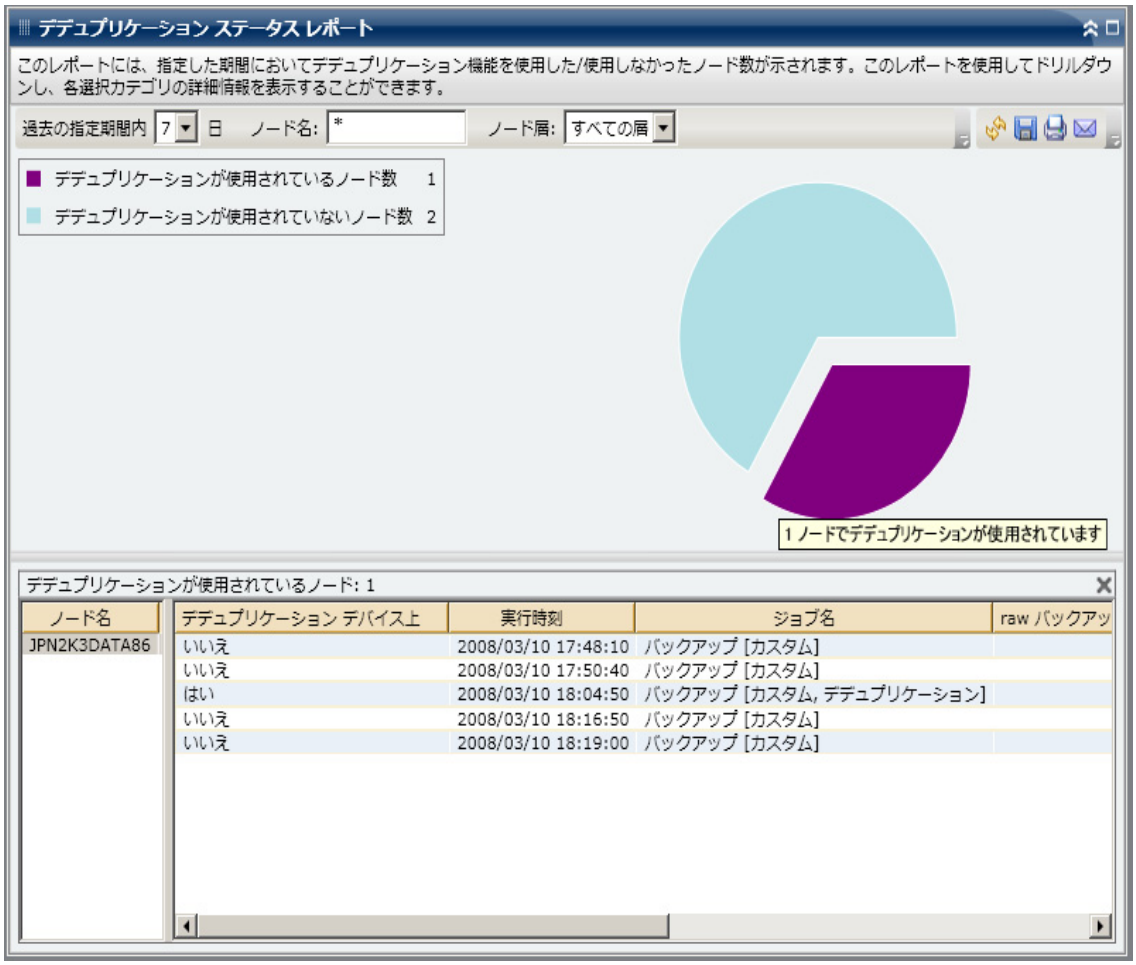
- 「デデュプリケーションによって恩恵を受ける」ノード数に含まれるのは、デデュプリケーション デバイスを使用したセッションを 1 つ以上含むノードで、圧縮済みバックアップの測定サイズが raw バックアップのサイズよりも小さいものです。
- 「デデュープによって恩恵を受けない」ノード数に含まれるのは、デデュプリケーション デバイスを使用したセッションを 1 つ以上含むノードで、圧縮済みバックアップの測定サイズが raw バックアップのサイズより小さくないものです。



ドリルダウン レポート

デデュプリケーション ステータス レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 2 つの円グラフのどちらかをクリックすると、カテゴリに関連するノードのうち過去の指定期間内にバックアップされたものがすべて詳細な一覧で表示されます。 ドリルダウン レポートには、各ノードにおける raw バックアップ データ サイズと圧縮済みデータ サイズの比較が見やすく表示され、デデュプリケーションの効果をすばやく把握できます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。



ディスク レポート

ディスク レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、CA ARCserve Backup ドメイン内のすべての Windows ノードのディスク情報を、各ノードに割り当てたディスク容量順に表示します。 ディスクは割り当てをした後も空き領域が残る場合があります。 未使用の領域は別のディスクに再割り当てするができます。 空き領域はボリューム レポートで報告されます。

レポートの利点

ディスク レポートは、各ディスクに割り当てた容量に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。 このレポートには、各物理ハード ドライブ上のパーティション領域の総量が表示されます。 この全体像から、どのディスクに未割り当ての領域があり、別のディスクへの再割り当ての可能性が残っているかを分析して特定することができます。

このレポートをボリューム レポートと共に使用すれば、割り当て容量を使用容量と比較しながら分析することができます。

たとえば、このレポートによって、あるディスクに割り当て領域が少ないことがわかった場合は、ボリューム レポートをチェックして、割り当て領域と使用されている領域の容量を比較する必要があります。 割り当て領域が少なく、使用領域が多い場合は、割り当てられていない領域の原因を調査し、可能であれば、利用できる領域を有効活用にするためにボリュームを新規作成する必要があります。

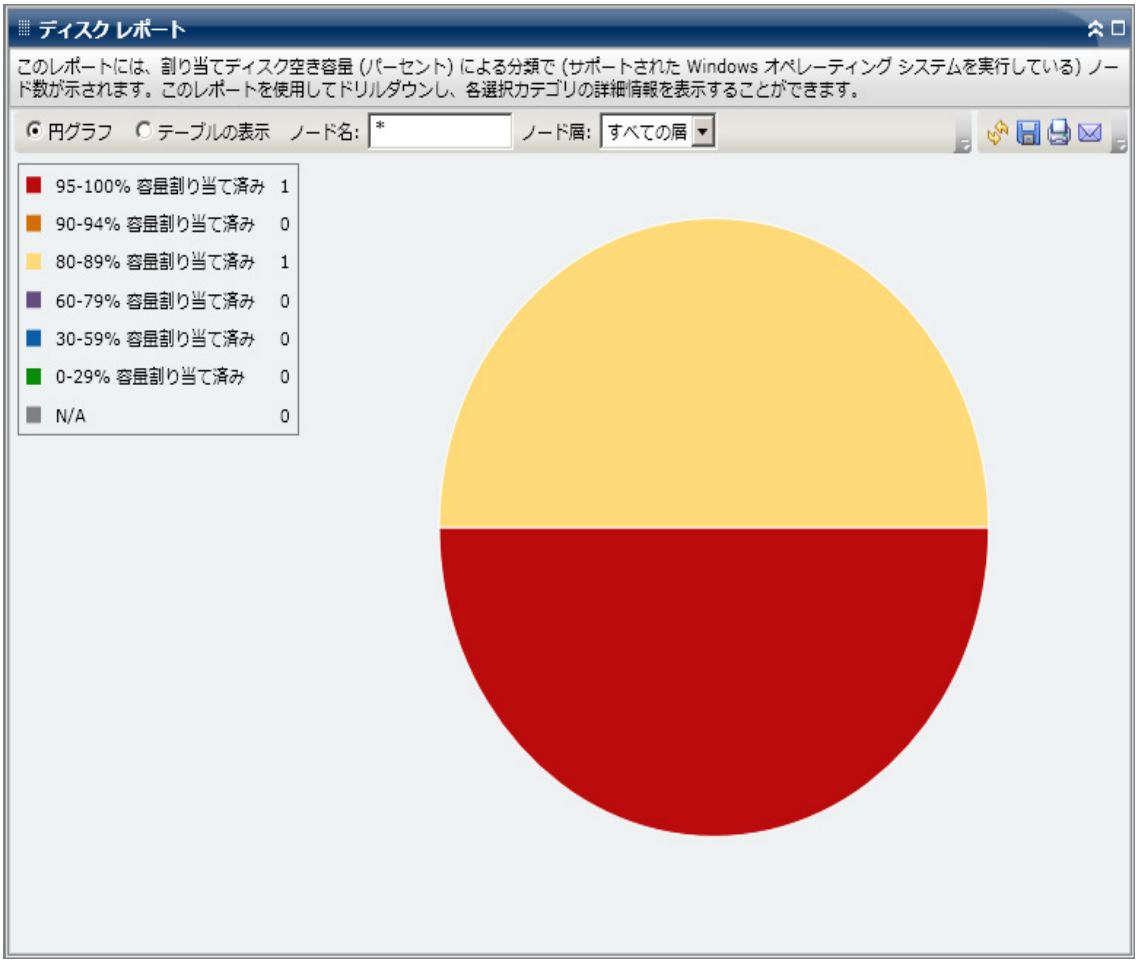
問題が潜在しているディスクを特定するために動作パターンは常に調べておいてください。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

ディスク レポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。

円グラフ

円グラフは、事前に定義した使用ディスク容量の範囲（パーセント）によって分類され、環境内にあるディスクに関する高レベルの概要を提供します。 ディスク領域が割り当てられていないと、その領域は使用できないため、ディスクが適切に割り当てられているようにする必要があります。



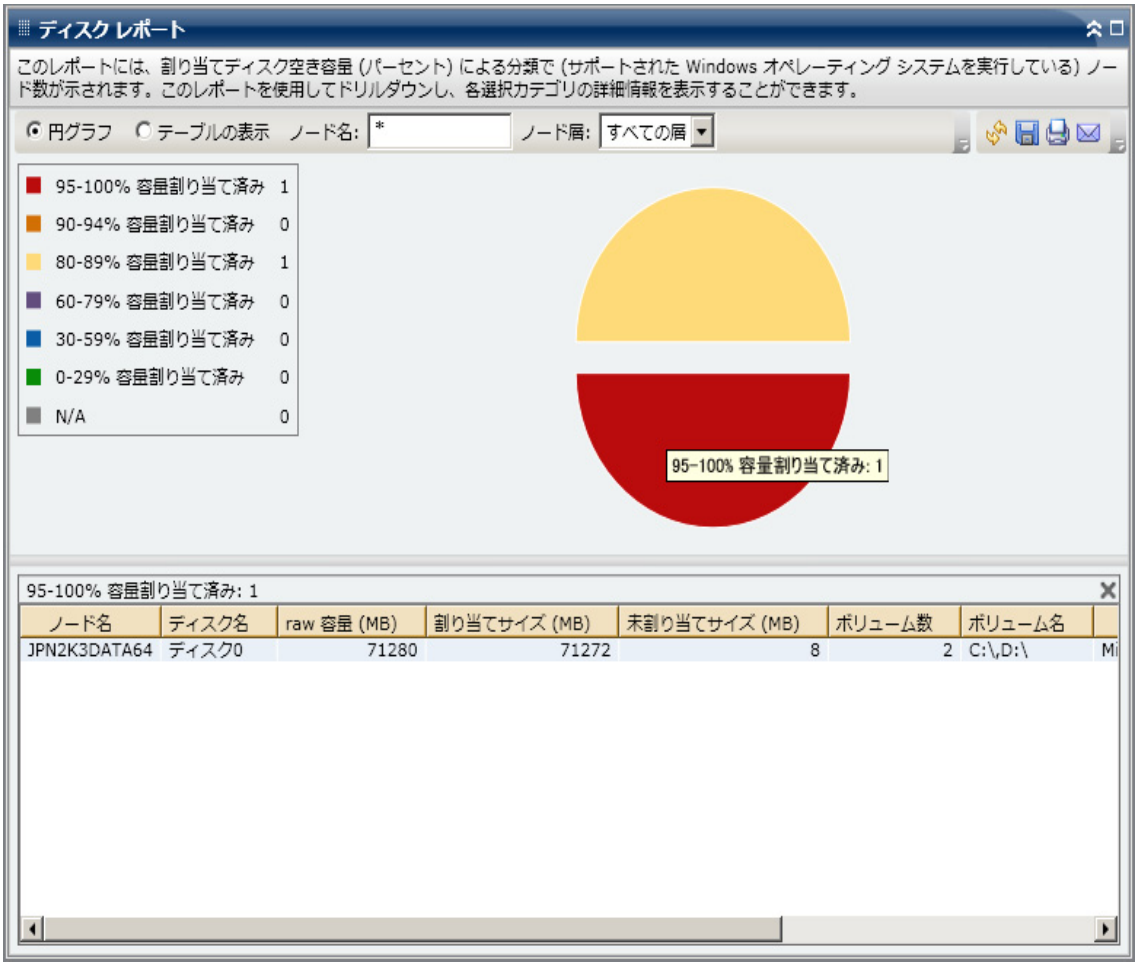
テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、ディスク レポートには、すべてのカテゴリについて、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、ディスク名、メーカー、種類、サイズ、使用容量、未使用容量、ボリューム数、ボリューム名などが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

ディスク レポートの円グラフ ビューを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を含むドリルダウン レポートを表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



ジョブ バックアップ ステータス レポート

ジョブ バックアップ ステータス レポートは、過去の指定日数の間に指定したサーバで開始されたすべてのバックアップ ジョブ(フル、増分、差分)の最新のステータス結果をリストします。

デフォルトでは、CA ARCserve Backup r12.5 はジョブ レコードを 180 日間保持します。Dashboard にジョブ レコードを表示する期間を別の期間にする場合は、レジストリー キーを追加して任意の日付範囲を設定することができます。 以下のようにして新しいレジストリ キーを追加することによって、ジョブの廃棄間隔を定義することができます。

レジストリ エディタにジョブ廃棄時間間隔を設定するには

1. レジストリ エディタを起動します。
2. レジストリ エディタのツリーで、以下のノードまでディレクトリを展開します。

   HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ComputerAssociates¥CA ARCServe Backup¥Base¥Database¥
3. 新しい DWORD 値を追加して「JobPruningDays」という名前を付けます。
4. JobPruningDays キーをダブルクリックして[DWORD 値の編集]ダイアログ ボックスを開きます。 これで、DWORD の設定を変更し、特定の時間間隔を設定して CA ARCserve Backup データベースからジョブ レコードを廃棄することができます。
5. SRM プローブの JobPruningDays キーの設定を終了したら、レジストリ エディタを閉じます。

レポートの利点

ジョブ バックアップ ステータス レポートは、どのジョブが他のジョブよりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ジョブの観点から最新のバックアップ ジョブのステータスをチェックすることができます。 前日からのバックアップ ステータスがすべて緑(成功)の場合、正常にバックアップされたことがわかります。 しかし、バックアップ ステータスが赤(失敗)の場合、ドリルダウン レポートのアクティビティ ログをすぐに分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。 また、日々のジョブをモニタして、環境内のバックアップ ジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるジョブを特定し、同じジョブが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。 問題のバックアップ ジョブの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

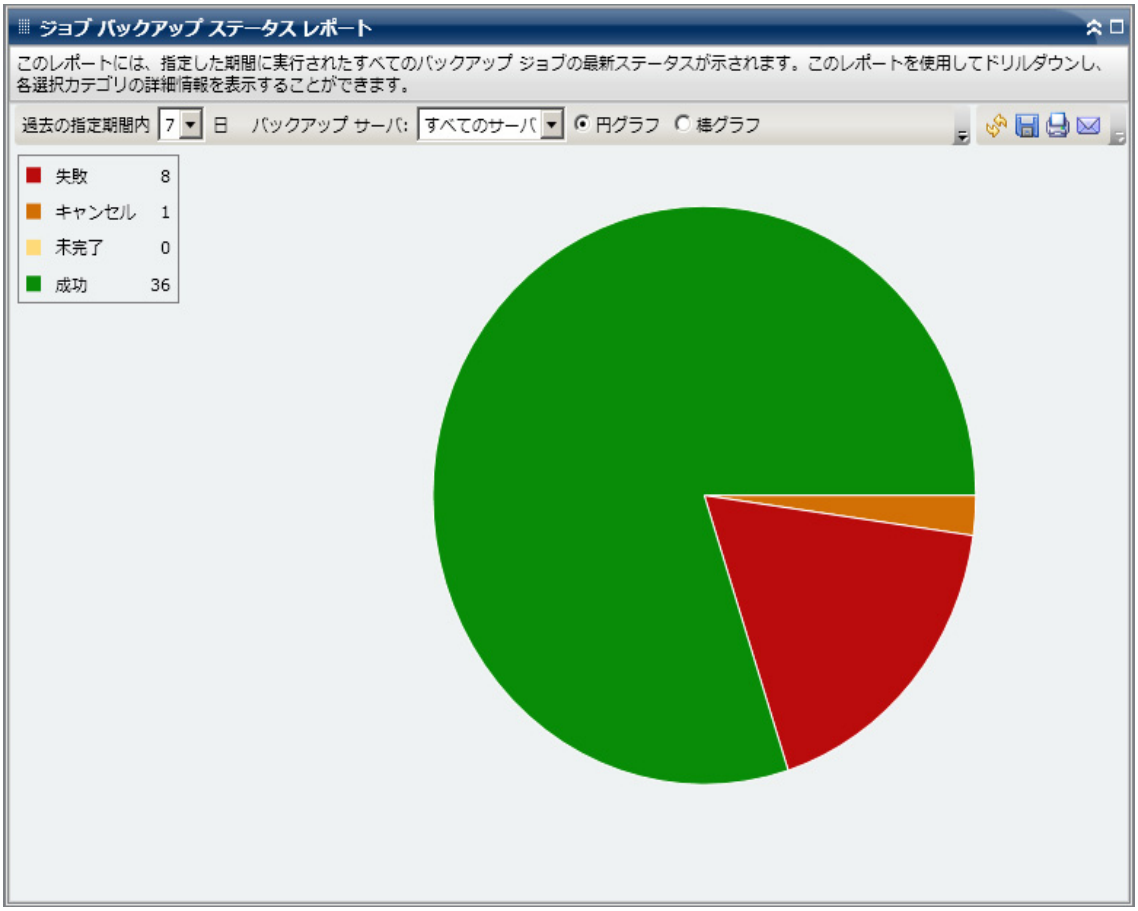
レポート ビュー

ジョブ バックアップ ステータス レポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。

注: デフォルトでは、CA ARCserve Backup はアクティビティ ログの情報を 14 日間保存します。 CA ARCserve Backup Dashboard に 14 日間以上のアクティビティ ログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティ ログ廃棄間隔]オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。 アクティビティ ログの設定の変更の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

円グラフ

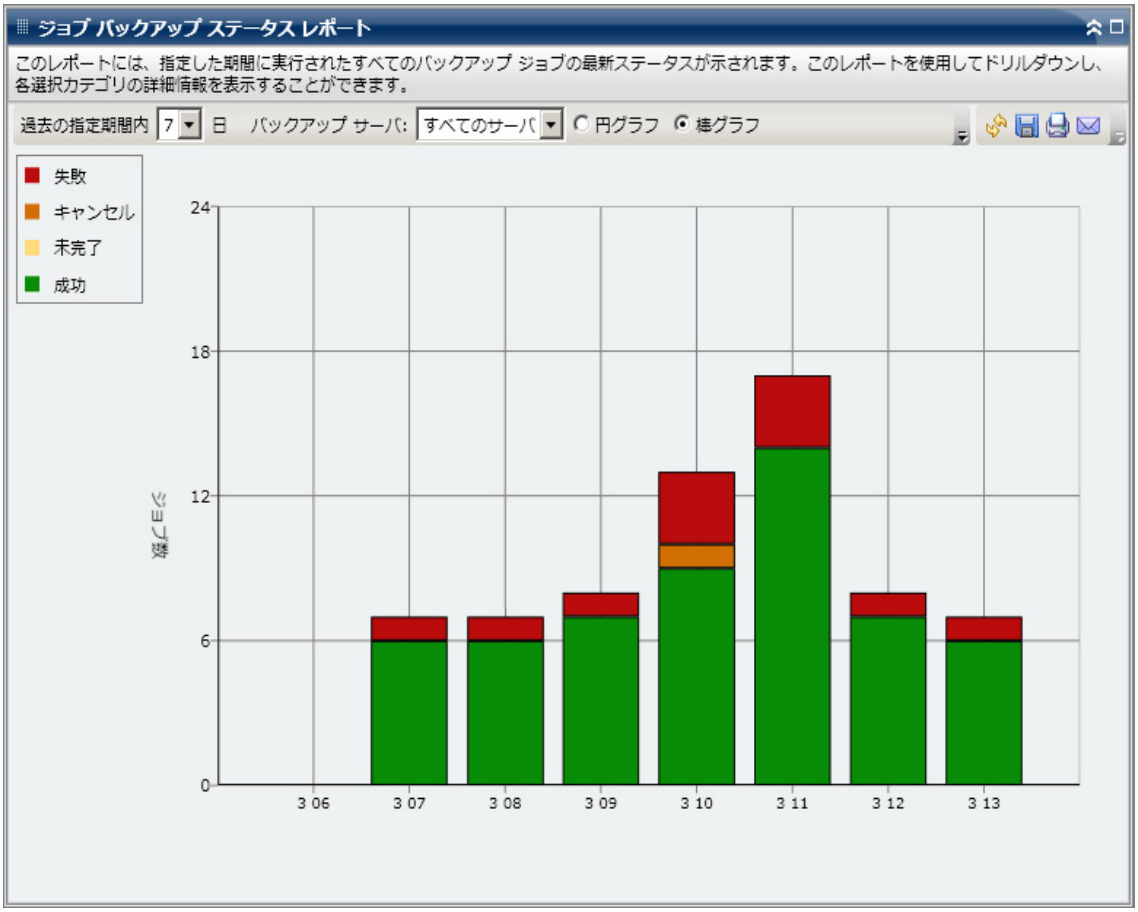
円グラフは指定した期間のすべての日における、選択したサーバのバックアップ ジョブの高レベルの概要を提供します。 円グラフに示されたステータス カテゴリは、そのサーバにおける過去の指定日数の間のバックアップ ジョブの合計数の割合と各ジョブに対する最新のステータスを示します。



棒グラフ

棒グラフは指定した期間の各日における、選択したサーバのバックアップ ジョブのより詳細なレベルのビューを提供します。 棒グラフに示されたステータス カテゴリは、そのサーバにおける過去の指定日数の間のバックアップ ジョブの日単位の数を示します。

注: デフォルトでは、CA ARCserve Backup Dashboard は最大で 90 日間のみの情報を棒グラフに表示します。 表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。 90 日以上のレポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。 この制限は同じレポートの円グラフ ビューには適用されません（円グラフの表示日数の最大は 999 日です）。



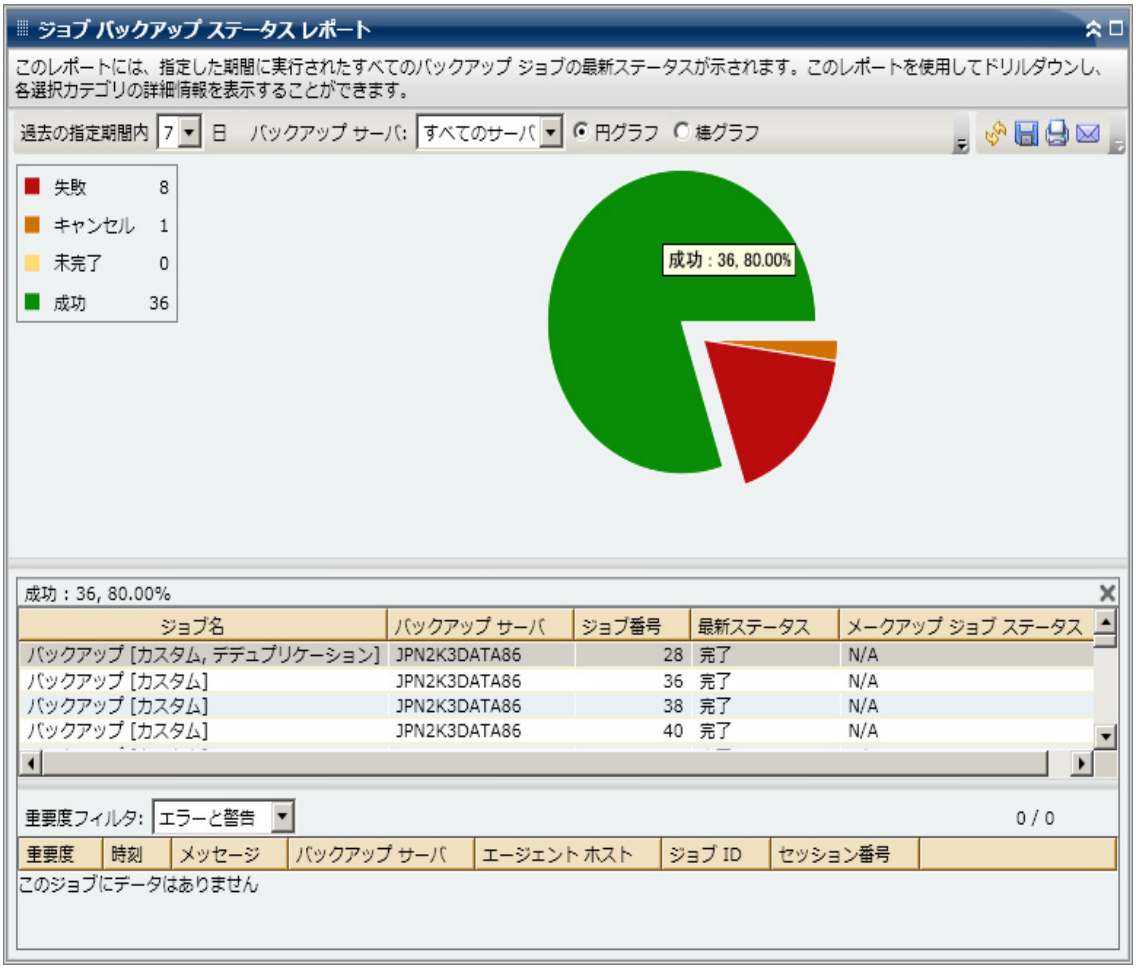
ドリルダウン レポート

ジョブ バックアップ ステータス レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 任意のステータス カテゴリ(円グラフ ビューまたは棒グラフ ビューから)をダブルクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。 たとえば、[未完了]カテゴリをクリックすると、レポート サマリが更新され、指定した期間に完了しなかったバックアップ ジョブのみをフィルタした一覧が表示されます。

また、このレポートには、関連するすべてのメークアップ ジョブのステータスも表示されます。 メークアップ ジョブ ステータスは、以下のいずれかです。

- 作成されました - メークアップ ジョブが作成され、ジョブ キュー内でレディ状態ですが、まだ実行されていません。
- 作成されませんでした - 最初のバックアップ ジョブが失敗した後、メークアップ ジョブは作成されていません。 失敗した場合にメークアップ ジョブを作成するようジョブが正しく設定されていることを確認する必要があります。 この説明は、バックアップジョブが成功、未完了、またはキャンセルの場合には該当しません。
- アクティブ - メークアップ ジョブが作成され、実行中です。 メークアップ ジョブのステータスは、まだ不明です。
- 終了 - 最初のバックアップ ジョブが失敗した後に、メークアップ ジョブが作成され、実行が完了しています。 [最新ステータス]列では、メークアップ ジョブの対応する最終ステータスを確認できます(結果は「終了」、「未完了」、または「失敗」のいずれかです)。

注: 棒グラフ ビューでドリルダウンを実行すると、該当するステータス カテゴリのフィルタ済みジョブ リストが 1 日分表示されます。



このレポートで各ジョブの名前をクリックしてさらにドリルダウンし、そのジョブに関連するすべてのログ メッセージのより詳細な一覧を表示できます。 表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指定してリストをフィルタすることもできます。

注: Dashboard では、ログ メッセージを 1 ページに 100 個まで表示します。 それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ]ボタンをクリックします。

注: このドリルダウン レポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプ トピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

ライセンス レポート

ライセンス レポートは、CA ARCserve Backup ドメイン内で使用されているすべての CA ARCserve Backup エージェントおよびサーバ オプションに関するライセンス情報を表示します。 エージェントまたはオプションの「使用数」が、対応する「ライセンス数」を超えた場合、そのエントリは赤で表示され、ライセンスの問題が存在するためバックアップに失敗する可能性があることが示されます。

また、レポートの最上部に表示される黄色の警告バーによって、この潜在的な問題の状況がさらに強調され、エージェント分布レポートで古いバージョンのエージェントについて詳細を確認するよう指示されます。

- [コンポーネントの種類]ドロップダウン メニューを使用すると、エージェントまたはサーバ オプションのいずれかを選択して表示をフィルタできます。 すべてのエージェントおよびサーバ オプションのライセンス情報を表示することも、エージェントのみまたはオプションのみに限定して表示することもできます。
- [コンポーネント名]ドロップダウン メニューを使用すると、個別のエージェントまたはサーバ オプションに絞り込んで表示させることができます。 [コンポーネント名]ドロップダウン メニューには、すべての「アクティブ」なエージェントおよびサーバ オプションが含まれています。つまり、現在の CA ARCserve Backup ドメイン内でライセンスが付与されているすべてのエージェントおよびオプションが対象になります。
- [バージョン]ドロップダウン メニューを使用すると、エージェントまたはサーバ オプションのバージョン番号に基づいて表示をフィルタできます。 すべてのバージョンのライセンス情報を表示することも、r11.1、r11.5、r12、r12.1、r12.5 などのバージョンごとに絞り込んで表示することもできます。

このレポートを使用して、CA ARCserve Backup エージェントおよびサーバ オプションのライセンス数および使用数をすぐに把握することができ、ライセンスの問題が発生する可能性のあるエージェントおよびオプションを迅速に特定できるようになります。

レポートの利点

ライセンス レポートは、CA ARCserve Backup ドメイン内で使用中の CA ARCserve Backup コンポーネント(エージェントおよびサーバ オプション)を分析および特定し、それぞれに適切なライセンスが登録されているかどうかを判断するのに役立ちます。 このレポートを基に、ライセンス情報の概要を把握し、コンポーネントのライセンス数に対して現在使用されている数を比較することができます。

たとえば、特定のマシンでバックアップが繰り返し失敗している場合、そのマシン上で特定の CA ARCserve Backup コンポーネントを使用するためのライセンスが適切に登録されていない可能性があります。 このレポートを使用すると、現在使用されている数を満たすだけの十分なライセンスを取得しているかどうかを素早く把握することができます。 ライセンス数が、使用している CA ARCserve Backup エージェントまたはオプションの数よりも少ない場合、ライセンスされていないコンポーネントを使用してバックアップを試行している可能性があります。

レポート ビュー

ライセンス レポートには、CA ARCserve Backup ドメイン内のライセンス取得済み CA ARCserve Backup コンポーネント(エージェントおよびサーバ オプション) が表形式で示されます。それぞれに対応するライセンス数、使用数、リリース バージョン番号も併せて表示されます。

コンポーネント名	ライセンス数	使用数	バージョン
Agent for FreeBSD	1	0	12.5
Agent for Microsoft SharePoint	1	0	12.5
Agent for Microsoft SQL Server	1	0	12.5
Agent for Oracle	1	0	12.5
Agent for Oracle for UNIX	1	0	12.5
Agent for Virtual Machines	1	0	12.5
Application Server Suite	1	0	12.5
Backup Agent for Apple Macintosh	1	0	12.5
CA ARCserve Backup	1	1	12.5
CA ARCserve Backup	0	2	12.5
Central Management Option	0	1	12.5
Central Management Option	1	0	12.5
Client Agent for Linux	1	0	12.5
Client Agent for NetWare	1	0	11.1
Client Agent for UNIX	1	0	12.5
Client Agent for Windows	1	0	12.5
Database Server Suite	1	0	12.5
Disaster Recovery Option	1	0	12.5
Email Server Suite	1	0	12.5
Enterprise Module	1	1	12.5
Enterprise Option for AS/400	1	0	11.5
Exchange Backup Agent	1	0	12.5
NDMP NAS Option	1	0	12.5
Storage Area Network (SAN) Optio	1	0	12.5
Tape Library Option	1	1	12.5

メディア検証レポート

このレポートには、スキャンが実行されたノード/まだ実行されていないノードの数が表示され、メディア上のセッションがリストア可能であるかどうかを確認できます。 このレポートによって、ノードのデータがメディア上で適切に保護されているかどうかを判断することができ、バックアップ データのリストアに関して問題の可能性がある領域を素早く特定して対処するための手段となります。

レポートの利点

メディア検証レポートは、どのノードが適切にバックアップされリストア用に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。 これにより、データのリストアを実行して初めてバックアップが適切に行われていないことがわかる、という事態を防ぐことができます。 メディア検証では、メディアにバックアップされたデータが有効であり必要に応じてリストア可能であることが保証されます。 バックアップ先メディアのスキャンをランダムに実行することにより、CA ARCserve Backup では、バックアップデータのリストアに失敗する可能性がほぼ排除されます。

一般に、優先度の高いデータが含まれているノード(層 1)に対しては、必要に応じてそのデータを素早くかつ完全にリストアできるという保証が必要とされます。

たとえば、優先度の高いデータを含むすべてのノード(層 1)は、データのリストアが可能であることを保証する「検証済みセッションのあるノード」カテゴリの対象となります。 このレポートによって、優先度の高いノードのなかに「検証済みセッションのないノード」カテゴリに含まれているものがあることがわかった場合は、必要に応じてスキャン スケジュールを変更し、層 1 のノードが適切にスキャンされ確実に保護されるようにする必要があります。

このレポートをノード復旧ポイント レポートと共に検証し、適切な復旧ポイントが確保されていること、およびデータが有効でリストア可能であることを常に確認することをお勧めします。

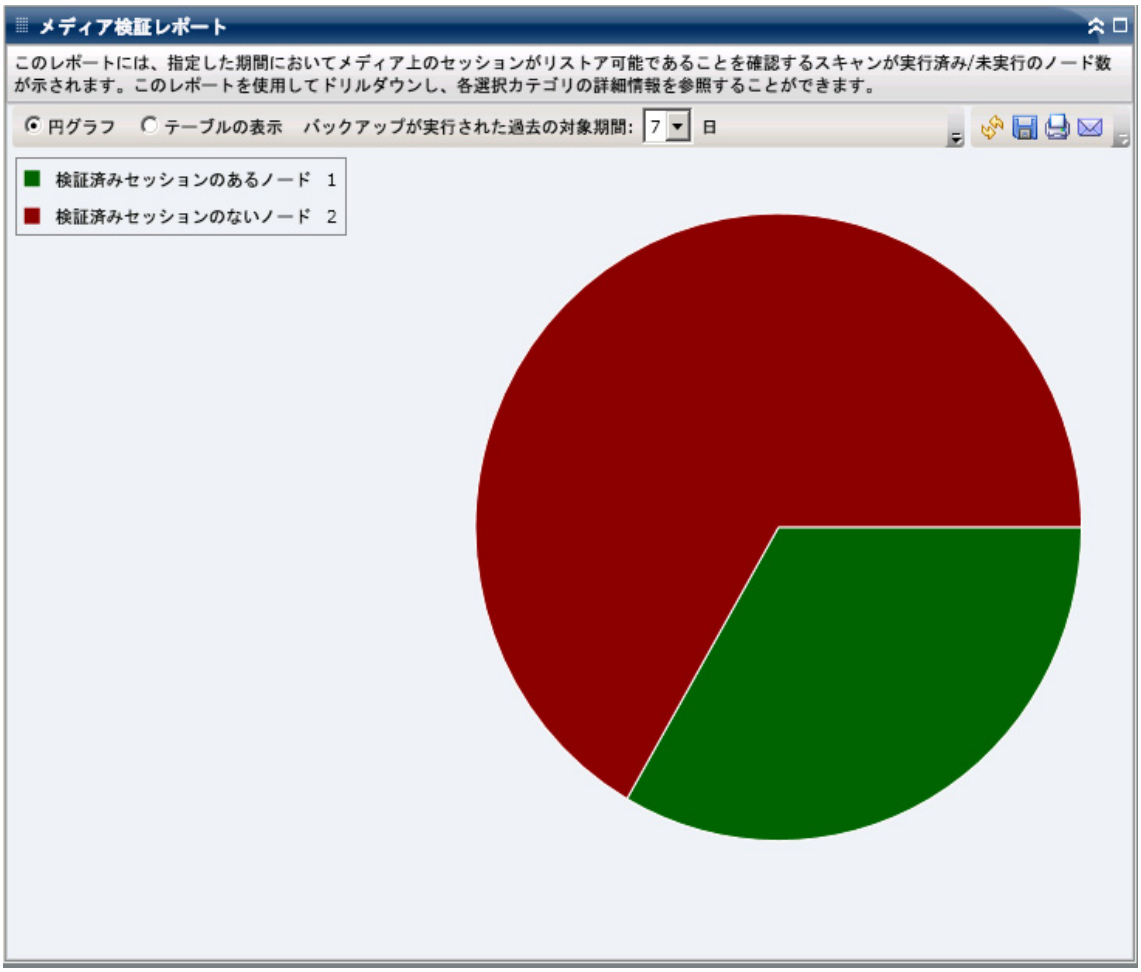
レポート ビュー

メディア検証レポートは、円グラフまたは表形式で表示することができます。

注: このレポートの日付範囲のフィルタは、前回のバックアップ以降の日数に適用されます。前回のメディア スキャン以降の日数ではないので注意してください。

円グラフ

円グラフは、メディア上のセッションが指定した日数はいつでもリストア可能であることを保証するために、スキャン済み/未スキャンのノードの分布(数とパーセント)を示します。



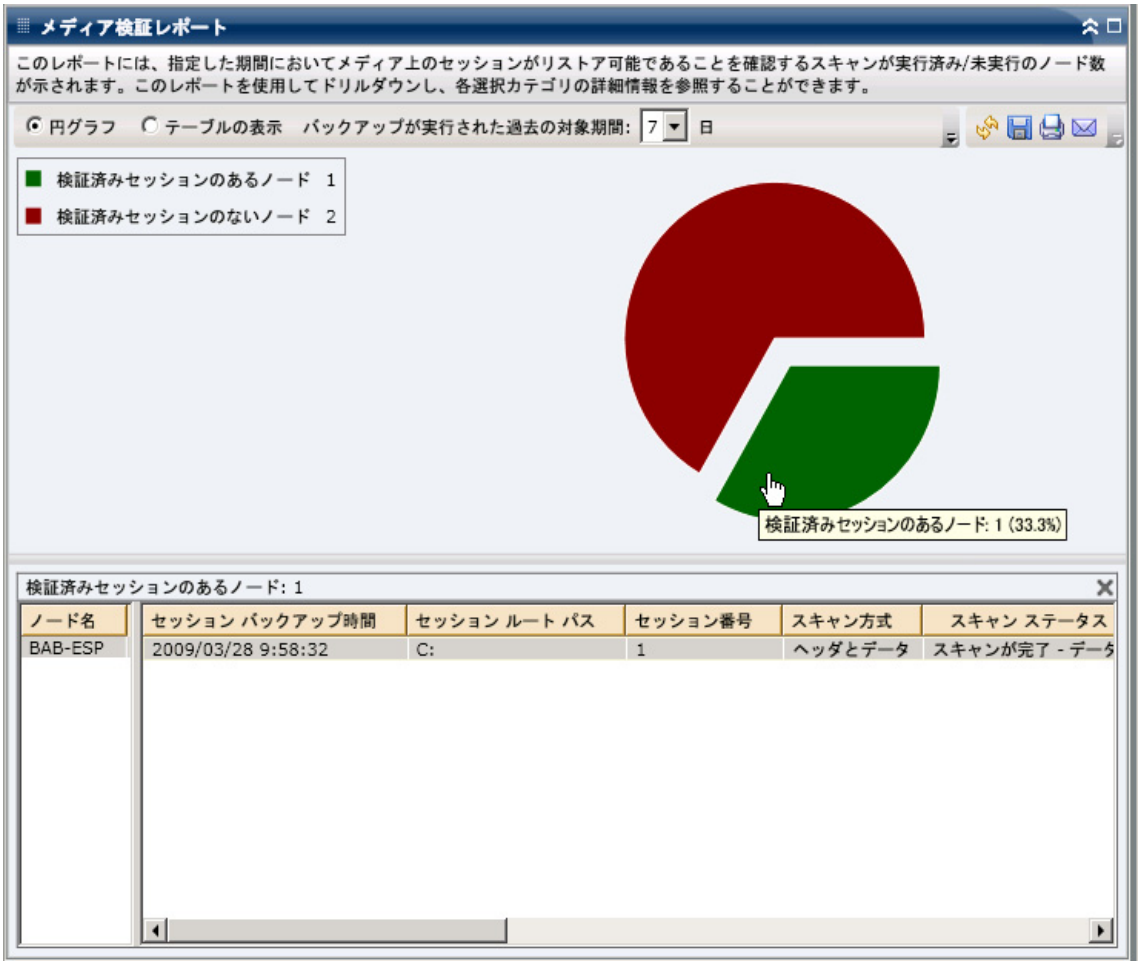
テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、メディア検証レポートには、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名と、それぞれに対応するバックアップ、スキャン セッション、およびメディアの情報が含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

メディア検証レポートの円グラフ ビューを展開して、[テーブルの表示]を選択した場合と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



メモリ レポート

メモリ レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、CA ARCserve Backup ドメイン内のすべての Windows ノードのメモリ情報を表示します。 このレポートでは、各ノードに搭載されたメモリ容量によってノードが分類されます。

レポートの利点

メモリ レポートは、メモリ容量に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。 この全体像から、メモリ容量がバックアップ ジョブに影響を与えるかどうかを分析して判定することができます。 通常は、高優先度の層にあるノードに最も多くのメモリ容量があるようにする必要があります。

たとえば、このレポートによって、あるノードのスループット値が低いことがわかった場合は、ノードに搭載されたメモリ容量を測定し、メモリが少ないノードや最大メモリを搭載したノードの動作パターンを調べることができます。 また、最も速いスループット値を基準として使用し、適切なパフォーマンスを得るために必要とされるメモリの量を分析することもできます。 遅いノードと速いノードを比較して、メモリ自体に問題があるのかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅いノードはメモリ不足のせいで正常に動作していない可能性もあります。

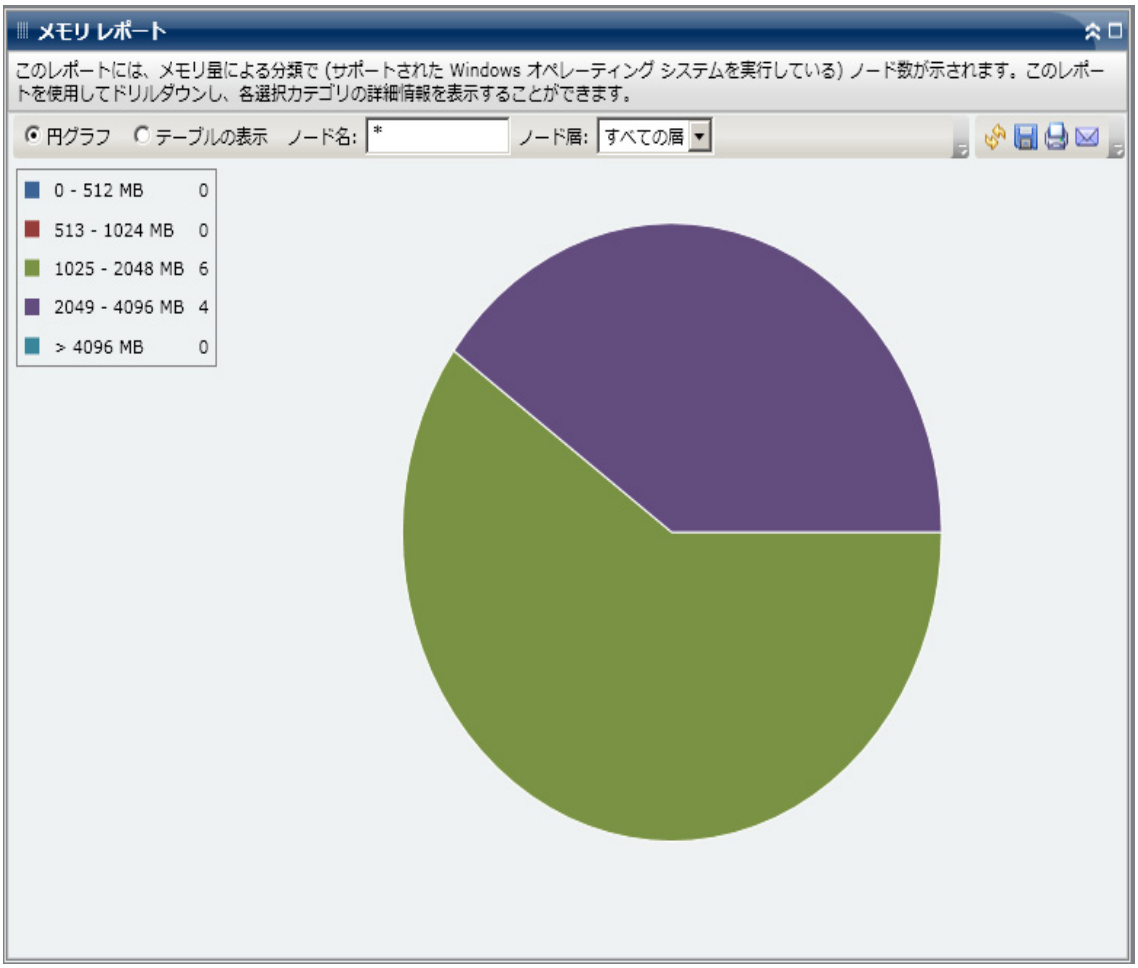
メモリの潜在的な問題を特定し、同じメモリ容量のノードで頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

メモリ レポートは、円グラフまたは表で表示することができます。

円グラフ

円グラフには、すべてのノードのメモリ情報が表示されます。 データは、事前に定義したカテゴリで分類されます。 ノードごとにメモリ合計が表示され、ノードごとのスロット数は考慮されません。



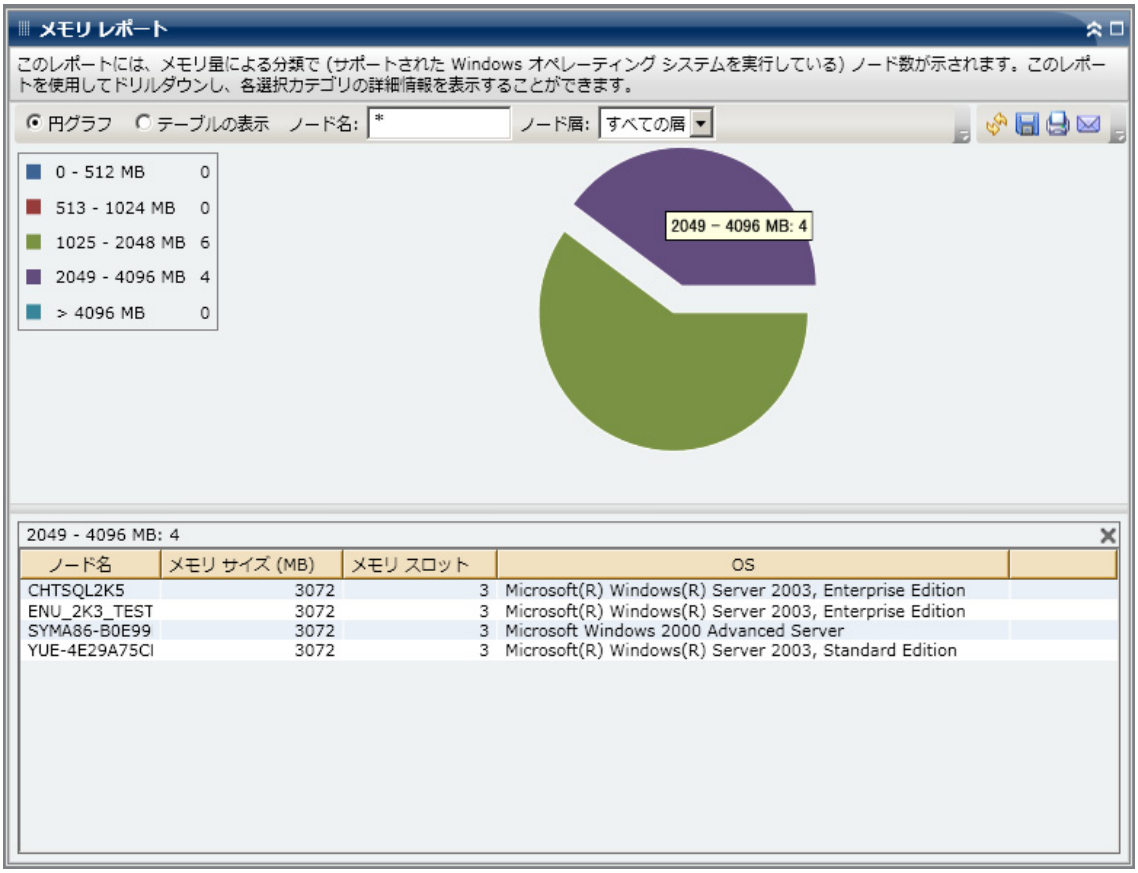
テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、すべてのカテゴリについて、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、メモリ サイズ、メモリ スロット、速度などが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

メモリ レポートの円グラフ ビューを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



NIC レポート

NIC レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、環境内の Windows ノードを、ネットワーク インターフェース カード(NIC)の速度別に分類して表示します。

レポートの利点

NIC レポートは、事前に定義したカテゴリに分類した NIC の速度に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。 この全体像から、バックアップ ジョブに対してどの NIC が最も効率が良く、どの NIC に問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、スループット値の低いノードを特定する場合は、このレポートでノードの NIC 速度をモニタできます。 速度の遅い NIC は、スループット値の低下の原因となる可能性があります。 遅い NIC や同じメーカー製の NIC の動作パターンは常に調べておいてください。

最も速いスループット値を基準として使用し、その NIC のパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。 遅い NIC と速い NIC を比較して、NIC 自体に問題があるのかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅い NIC はパフォーマンスが悪いのではない可能性があります。 また、このレポートから、NIC ハードウェアをアップグレードする必要があるかどうかを判断できます。

問題が潜在している NIC を特定し、同じ種類の NIC が搭載されたノードに頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

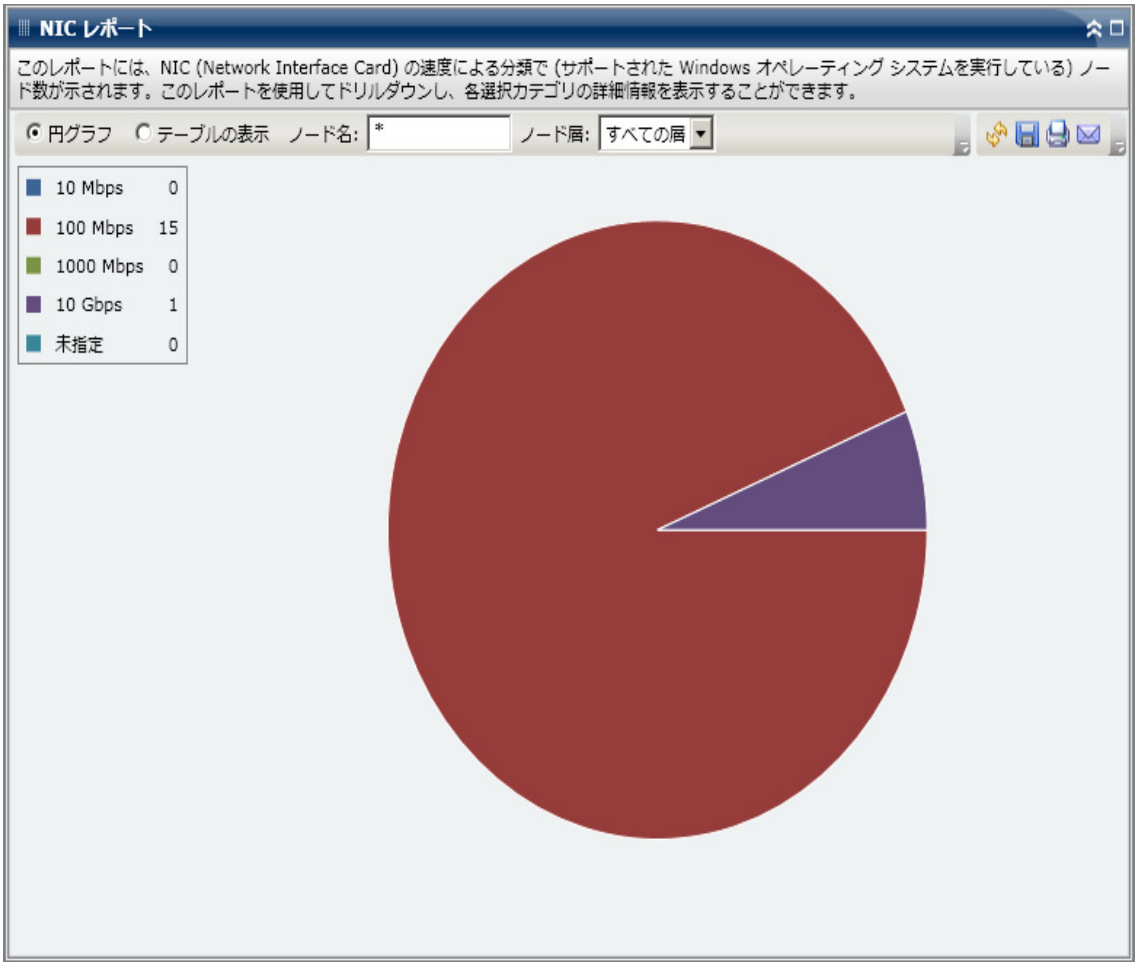
レポート ビュー

NIC レポートは、円グラフまたは表で表示することができます。

注：「未指定」カテゴリは、Dashboard がネットワーク カードの速度を検出できなかったことを示します。 カードがネットワークに接続されていないか、または検出された速度が正しくない場合などがあります。

円グラフ

円グラフには、すべてのノードのメモリ情報が表示されます。 データは、事前に定義したカテゴリで分類されます。



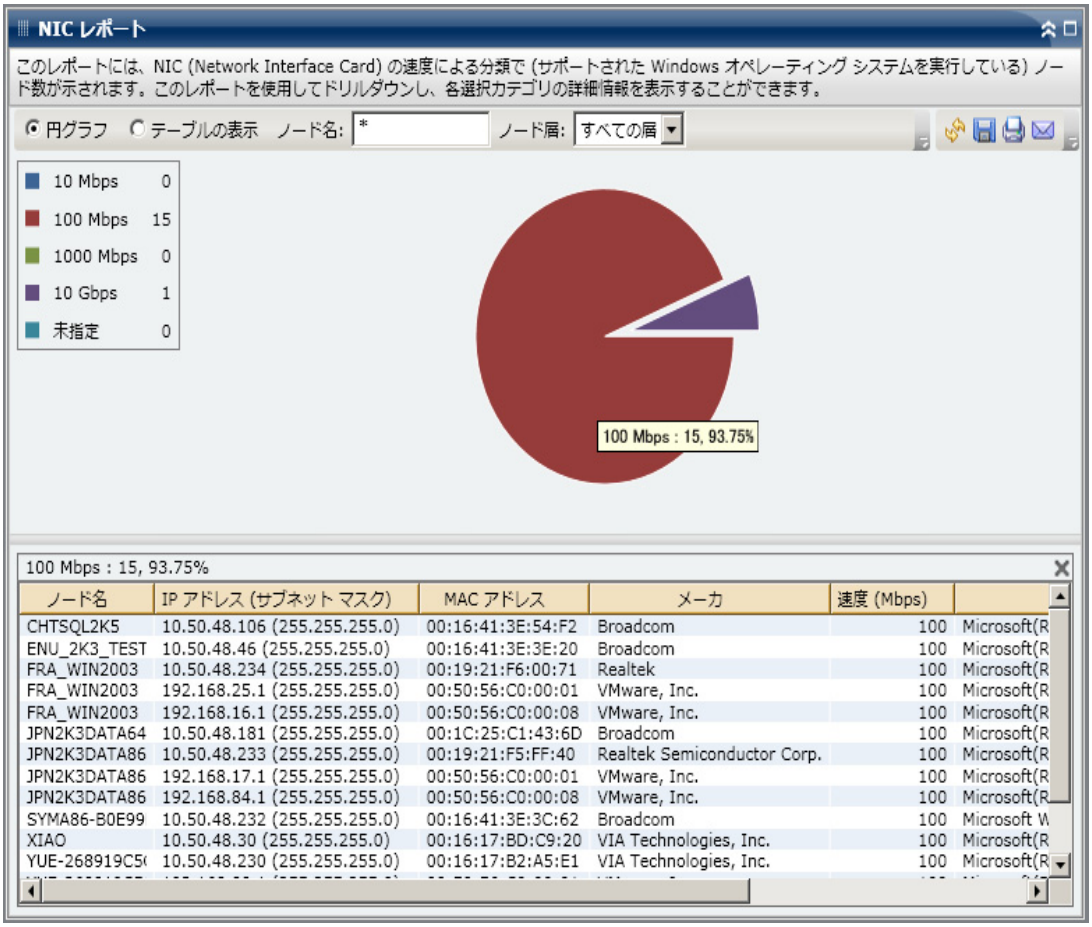
テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、NIC レポートには、すべての NIC カテゴリについて、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、メーカー、速度、MAC アドレスなどが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

NIC レポートの円グラフ ビューを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。 同じノード内に NIC が複数ある場合でも、NIC が 1 行に 1 つ表示されます。



ノード バックアップ ステータス レポート

ノード バックアップ ステータス レポートは、過去の指定日数の間にバックアップされたすべてのノードの最新のステータス結果をリストします。

レポートの利点

ノード バックアップ ステータス レポートは、どのノードのバックアップ ジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ノードの観点から最新のバックアップ ジョブのステータスをチェックすることができます。 前日からのバックアップ ステータスがすべて緑(成功)の場合、対応するノードが正常にバックアップされたことがわかります。 しかし、バックアップ ステータスが赤(失敗)の場合、ドリルダウン レポートのアクティビティ ログをすぐに分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。 また、日々のノード ステータスをモニタして、環境内のノード ステータス ジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるノードを特定し、同じノードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

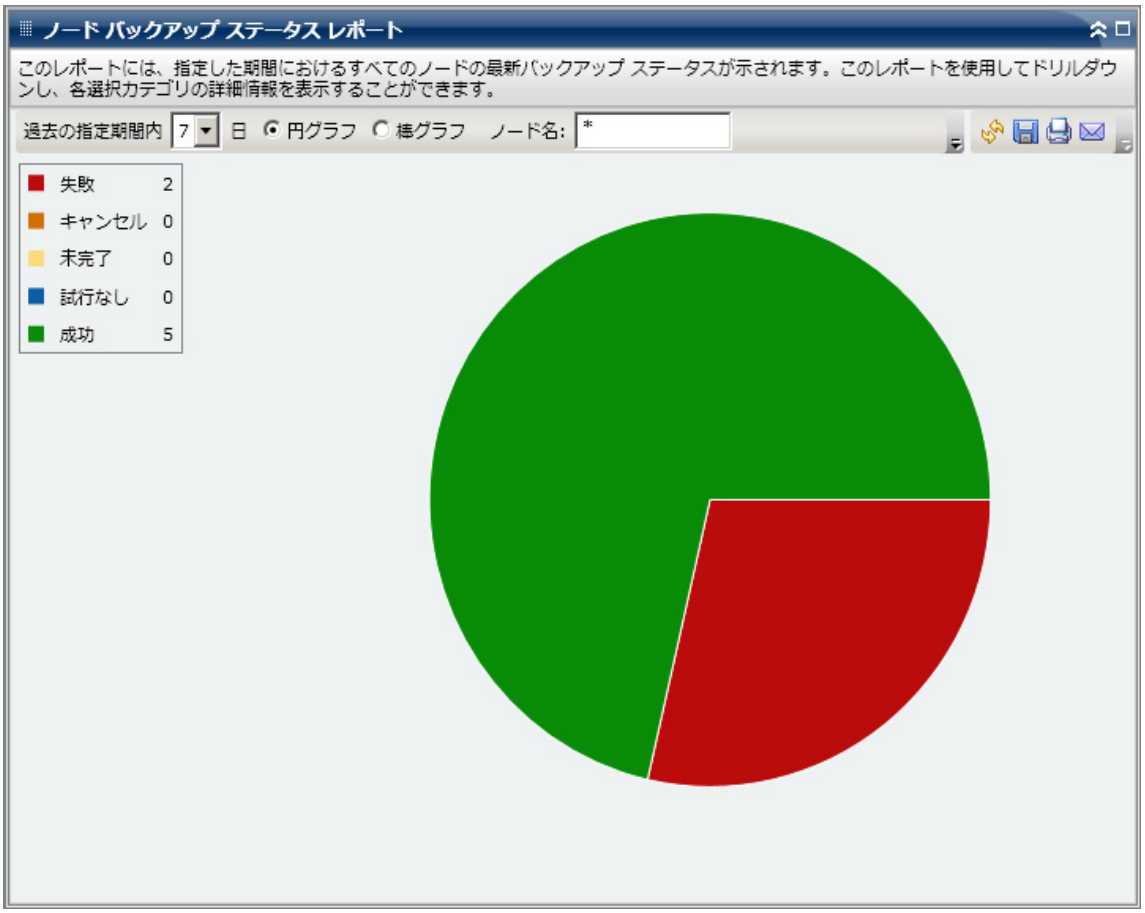
レポート ビュー

ノード バックアップ ステータス レポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。

注: デフォルトでは、CA ARCserve Backup はアクティビティ ログの情報を 14 日間保存します。 CA ARCserve Backup Dashboard に 14 日間以上のアクティビティ ログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティ ログ廃棄間隔]オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。 アクティビティ ログの設定の変更の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

円グラフ

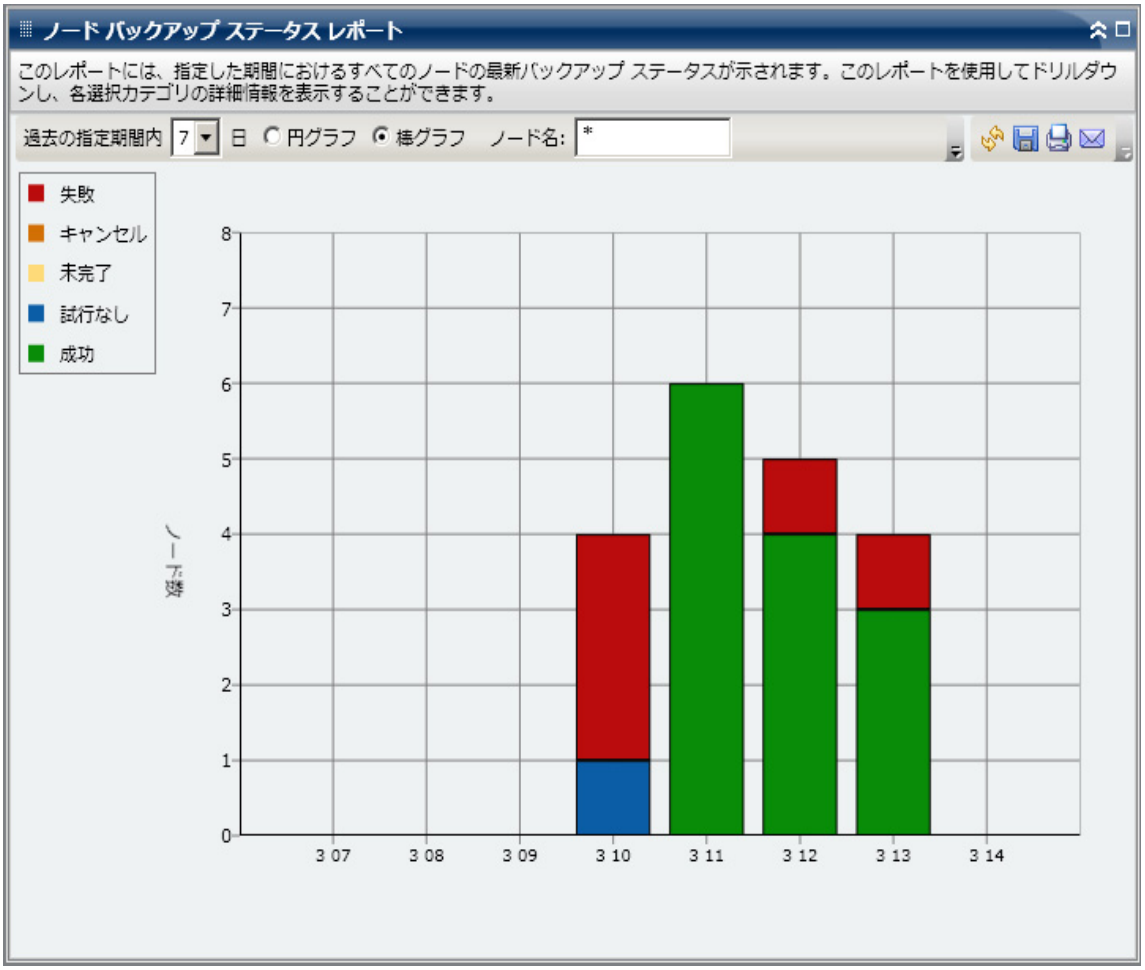
円グラフは指定した期間のすべての日にバックアップされたノードの高レベルの概要を提供します。 円グラフに示されたステータス カテゴリは、過去の指定日数の間にバックアップされたノードの合計数の割合と各ノードの最新のステータスを示します。



棒グラフ

棒グラフは指定した期間の各日にバックアップされたノードのより詳細なレベルのビューを提供します。 棒グラフに示されたステータス カテゴリは、過去の指定日数の間にバックアップされたノードの日単位の数を示します。

注: デフォルトでは、CA ARCserve Backup Dashboard は最大で 90 日間のみの情報を棒グラフに表示します。 表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。 90 日以上のレポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。 この制限は同じレポートの円グラフ ビューには適用されません（円グラフの表示日数の最大は 999 日です）。

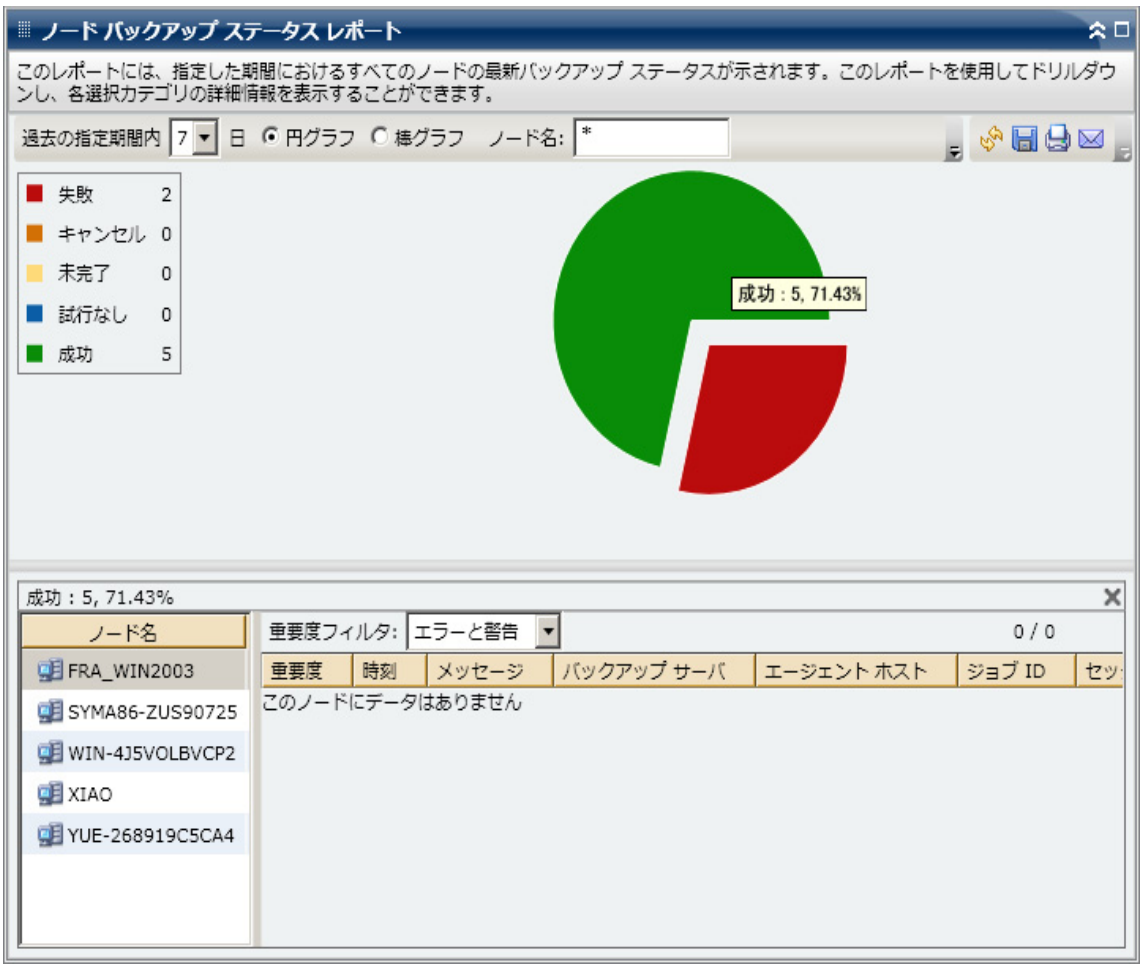


ドリルダウン レポート

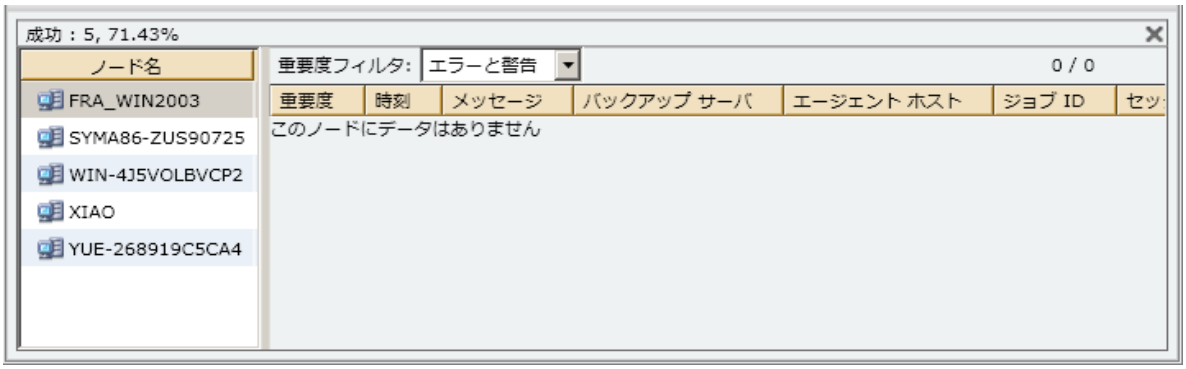
ノード バックアップ ステータス レポートでは、円グラフ ビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 任意のステータス カテゴリ(円グラフ ビューまたは棒グラフ ビューから)をクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。

注: 棒グラフ ビューでドリルダウンを実行すると、該当するステータス カテゴリのフィルタ済みノード リストが 1 日分表示されます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。



次にこのレポートで個別のノードの名前をクリックすることでさらにドリルダウンし、そのノードに関連するすべてのログ メッセージのリストを表示することができます。 表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指定してリストをフィルタすることもできます。



注: Dashboard では、ログ メッセージを 1 ページに 100 個まで表示します。 それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ]ボタンをクリックします。

注: このドリルダウン レポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプ トピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

ノード惨事復旧ステータス レポート

このノード惨事復旧ステータス レポートには、指定された期間に正常にバックアップされたノードの数、および惨事復旧(DR)によって保護された情報を含むノードおよび含まないノードの各数が表示されます。 DR によって保護された情報を含むノードは、以下のいずれかのプロセスを使用して復旧できます。

- CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option
- (後で復旧に使用できるフル VM イメージを作成するための)CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines。

DR によって保護された情報を含まないノードでは、データをリストアすることはできますが復旧はできません。 ノード惨事復旧ステータス レポートは、どのノードが惨事復旧に備えて適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

惨事復旧とは、大惨事や自然災害によるデータの損失からコンピュータ環境を保護するための、バックアップおよび復旧処理のことです。 惨事が発生すると、基本となるオペレーティング システムのインストールやサーバのセットアップなど、一般に手動で行わなければならない非常に手間のかかる作業が数多くあります。 惨事復旧プロセスでは、サーバを確実にリストアし、ブート メディアによる起動から、バックアップ メディアによるシステムの復旧、システムの動作回復まで、一連の処理を行うことで所要時間を大幅に

削減し、サーバの設定経験があまりないユーザでも、複雑なシステムを復旧することが可能になります。 Disaster Recovery Option は、惨事が発生する前に存在したマシン固有の情報を収集および保存するというコンセプトに基づいています。

惨事復旧オプションの詳細については、「Disaster Recovery Option ユーザ ガイド」を参照してください。 Agent for Virtual Machines の詳細については、「Agent for Virtual Machines ユーザ ガイド」を参照してください。

注: Disaster Recovery Option がインストールされていないことが検出された場合、このレポートの最上部に警告メッセージが表示され、危険性のある状態にあることを通知します。

レポートの利点

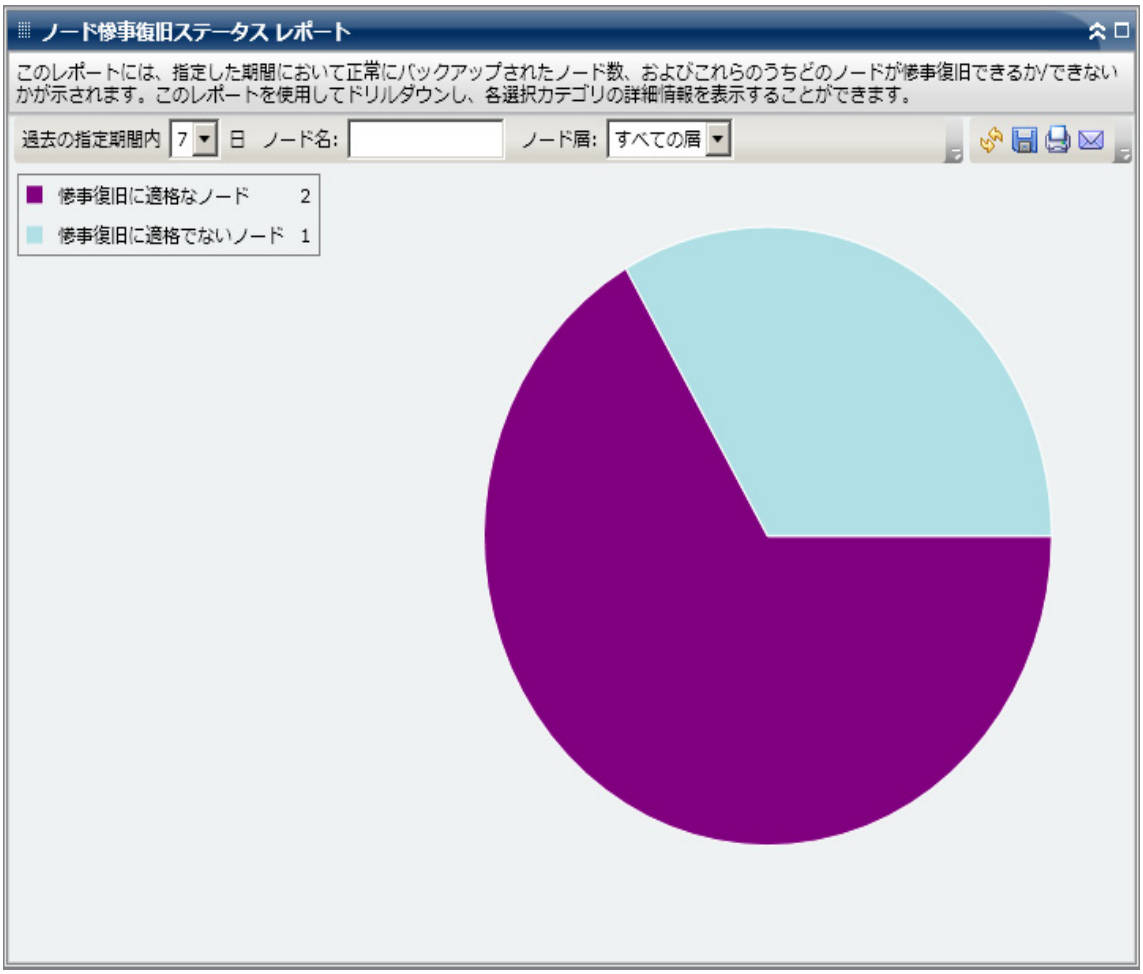
ノード惨事復旧ステータス レポートは、どのノードが惨事復旧に備えて適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、このレポートによって、重要度や優先度の高いデータの一部が Disaster Recovery Option がないノードにバックアップされていることがわかった場合は、まず実際にインストールされているかどうかを確認します。インストールされていても、正常に設定されていないために使用できない可能性があります。 このオプションがインストールされていないことがわかった場合、手遅れにならないうちにこのオプションを追加して、データ保護を改善する必要があります。 このレポートから、重要なノードにいずれかに DR 情報がないことがわかった場合には、そのノードのフルノード バックアップ(システム状態を含む)を実行し、ノードが正常に復旧できることを確認する必要があります。

レポート ビュー

ノード惨事復旧ステータス レポートは円グラフ形式で表示され、惨事復旧（DR）情報を含むノードの数（およびパーセント）と DR 情報を含まないノードの数を表します。

- 惨事復旧に適格なノードの定義は、指定した期間において、バックアップされたセッションを 1 つ以上含み、かつ DR 情報を含むノードです。
- 惨事復旧に適格でないノードの定義は、指定した期間において、バックアップされたセッションおよび DR 情報を含まないノードです。

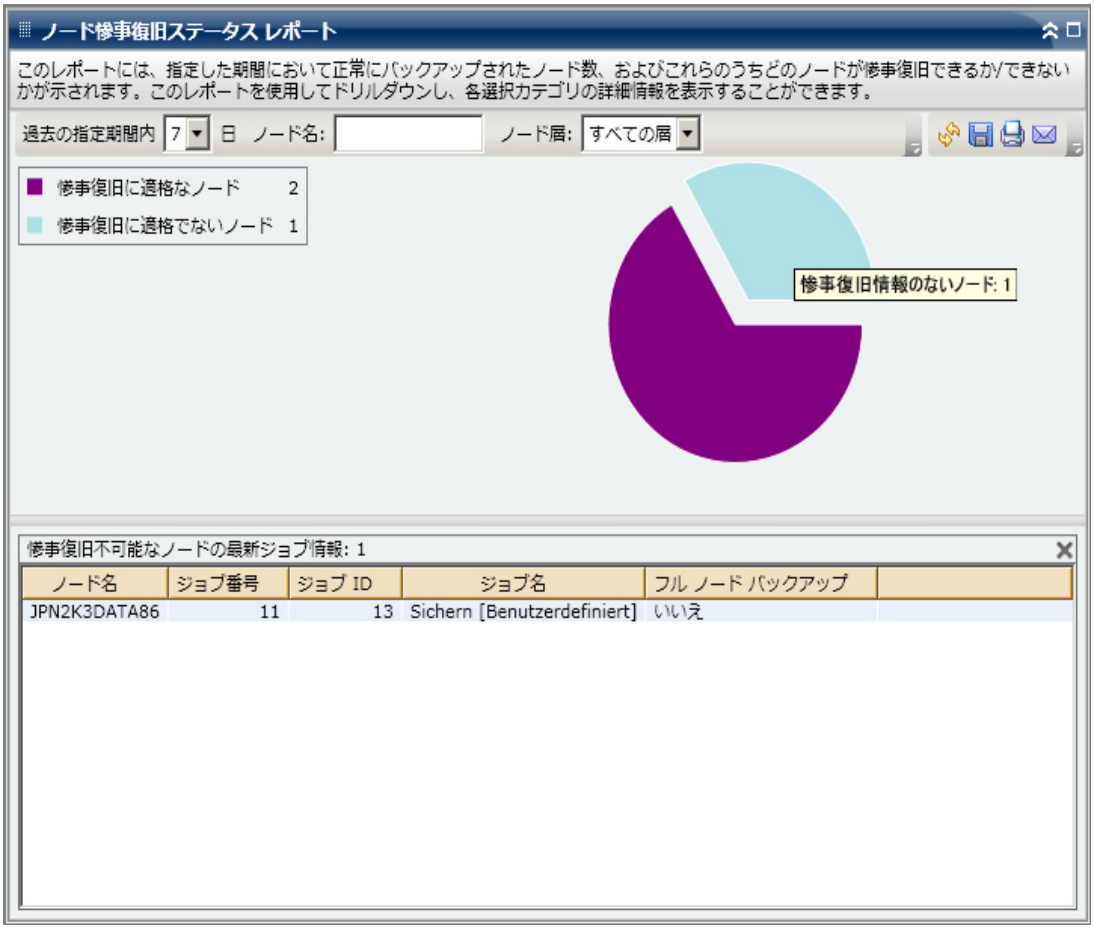


ドリルダウン レポート

ノード惨事復旧ステータス レポートでは、円グラフ ビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 2 つの円グラフのどちらかをクリックすると、過去の指定期間内のそのカテゴリに関連したすべてのノードが詳細な一覧で表示されます。 このドリルダウン レポートには、ノード名と共に、各カテゴリに関連した DR 関連情報が表示されます。

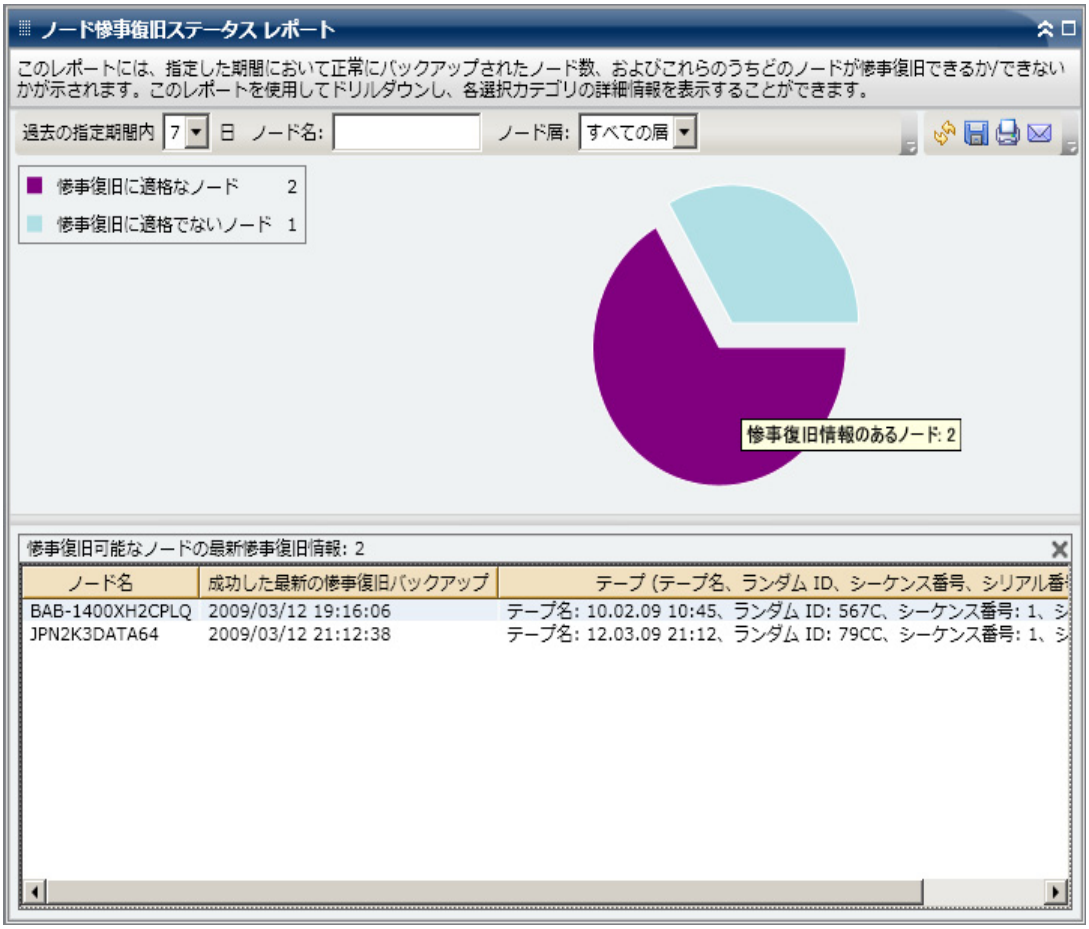
注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

- [惨事復旧に適格でないノード]カテゴリをドリルダウンした場合には、対応する表には、そのノードの最新のバックアップジョブのジョブ番号、ジョブ名、および最新のバックアップ ジョブがフル バックアップだったかどうかも表示されます。



- ［惨事復旧に適格なノード］カテゴリをドリルダウンした場合、対応する表には、成功した DR バックアップの最新の日時、テープ情報（名前、ランダム ID、シーケンス番号、およびシリアル番号）、DR 情報の場所、および DR 情報のバックアップに使用した方式（CA ARCserve Backup によるバックアップまたは CA ARCserve Backup XOsoft によるレプリケート）も表示されます。

  注： 特定のノードの場合、ノード復旧ポイント レポートに惨事復旧が利用できないと表示されているのに、ノード惨事復旧ステータス レポートに惨事復旧が利用可能であると表示される場合があります。これは、情報がレポートされた方法の違いによります。 ノード復旧ポイント レポートでは、前回の復旧ポイントに関連する DR 情報が表示されますが、ノード惨事復旧ステータス レポートでは、指定された期間内に使用可能な DR セッションが少なくとも 1 つある場合に情報が表示されます。



ノード暗号化ステータス レポート

ノード暗号化レポートには、指定した期間にテープにバックアップされたノードで、暗号化されたバックアップ セッションがあるノード、および暗号化セッションのないノードの数が表示されます。 このレポートによって、ノード上の機密データが適切に保護されているかどうかを判定することができ、バックアップに関して問題の可能性がある領域をすばやく特定して対処するための手段となります。

レポートの利点

ノード暗号化ステータス レポートは、どのノードが適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。 データの暗号化は、セキュリティ維持の面でも、企業のコンプライアンス遵守の面でも非常に重要です。 このレポートの表示は、各ノードに割り当てられた層カテゴリでフィルタすることができます。層 1 は高優先度ノードに、層 3 は低優先度ノードに設定されています。 ノード層の設定の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

このレポートによって、暗号化されていないノードに機密データが存在して、セキュリティリスクにさらされているということがないかどうかをすばやく調べることができます。

たとえば、このレポートによって、暗号化されていない層 1 ノードがないかどうかがすぐにわかります。 暗号化されていない層 1 ノードがあり、このノードに機密データが存在する場合は、データが適切に保護されていないことがただちに把握できます。 問題が発生しないうちに、バックアップ戦略を評価し直す必要があります。

同様に、このレポートによって、暗号化されているノード上に機密でないデータがあるかどうかを調べることで、貴重なリソース(時間と費用)を浪費しているだけでなく、バックアップの労力まで無駄にしている事態がないかどうかを把握することができます。

たとえば、このレポートによって、機密データがない層 3 ノードのデータが暗号化されたままであることがわかれば、バックアップ戦略を評価し直し、リソースと時間を適切に使用されるようにする必要があります。

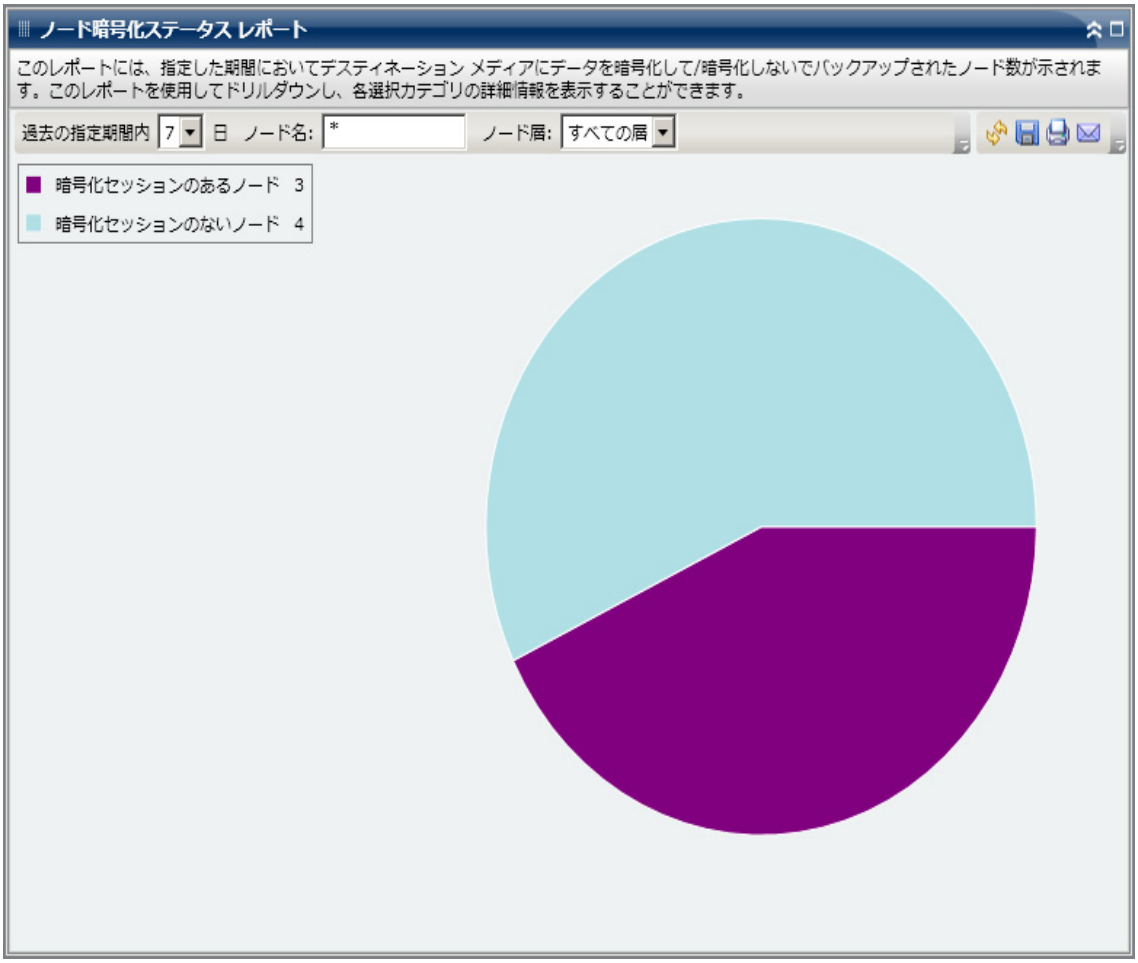
また、特定のノード上のデータがすべて暗号化されているかどうかをチェックして、適切なセキュリティおよびリソースの使用が実践されているかどうかを確認できます。

たとえば、社内の部門 A の機密データが存在するのと同じノード上に、部門 B の機密でないデータが存在するとします。 このレポートから、特定のノード上のデータは、すべてが暗号化されているわけではないことがすぐにわかります。 バックアップ ステータスを調査して、部門 A のデータが暗号化されているか、部門 B のデータが暗号化されていないかを判定でき、必要に応じてバックアップ戦略を再評価できます。

レポート ビュー

ノード暗号化ステータス レポートは円グラフ形式で表示され、指定期間内における、暗号化セッションのあるバックアップ済みノードの数(およびパーセント)および暗号化セッションのないバックアップ済みノードの数を表します。 表示は層カテゴリでフィルタすることができます。層 1 は高優先度ノードを、層 3 は低優先度ノードを表しています。

- 暗号化セッションのあるノードの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションを 1 つ以上含むノードです。
- 暗号化セッションのないノードの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションをまったく含まないノードです。



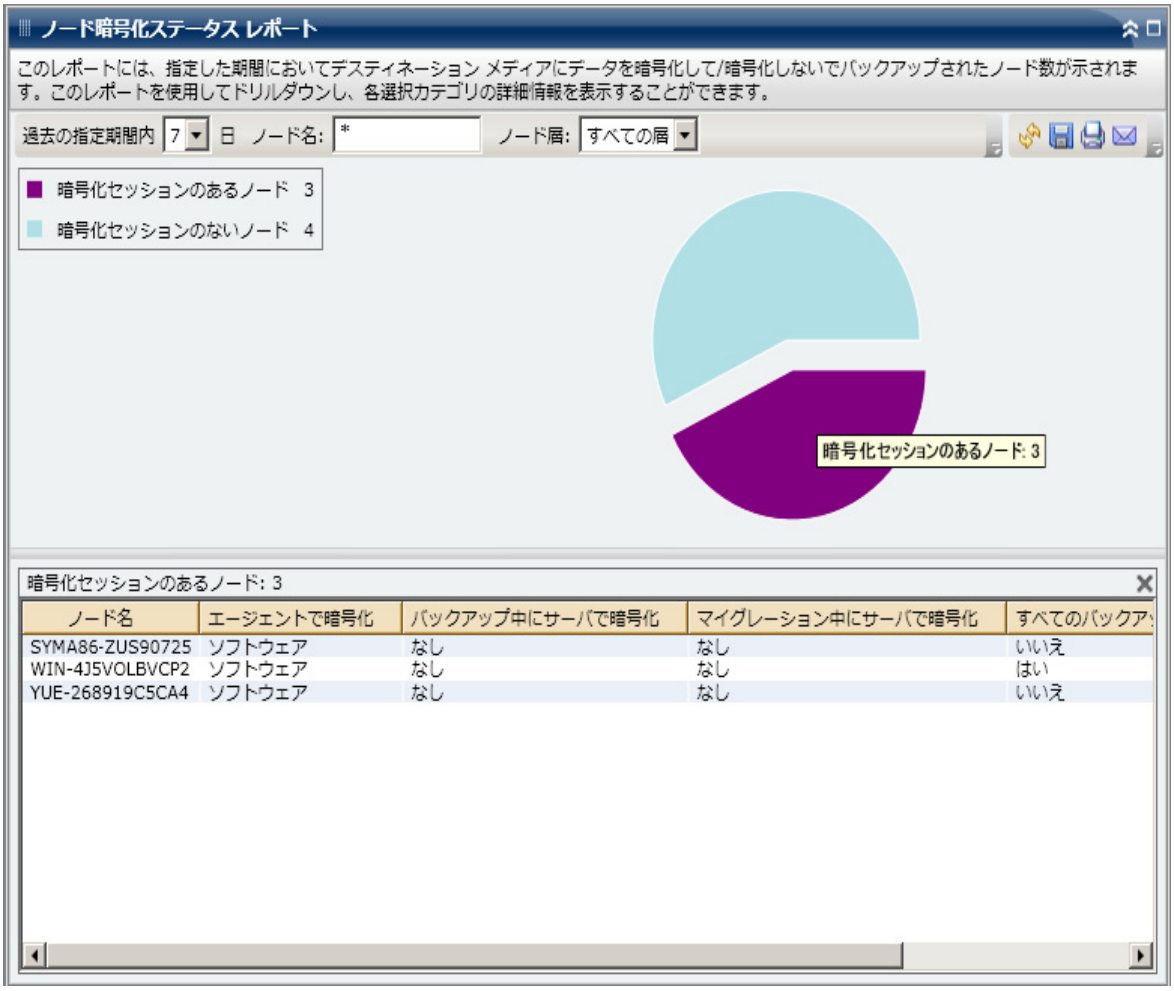
ドリルダウン レポート

ノード暗号化ステータス レポートでは、円グラフ ビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 2 つのカテゴリのどちらかをクリックすると、過去の指定期間内のそのカテゴリに関連したすべてのノードが詳細な一覧で表示されます。 このドリルダウン レポートには、ノード名と共に、各カテゴリに関連した暗号化関連情報が表示されます。

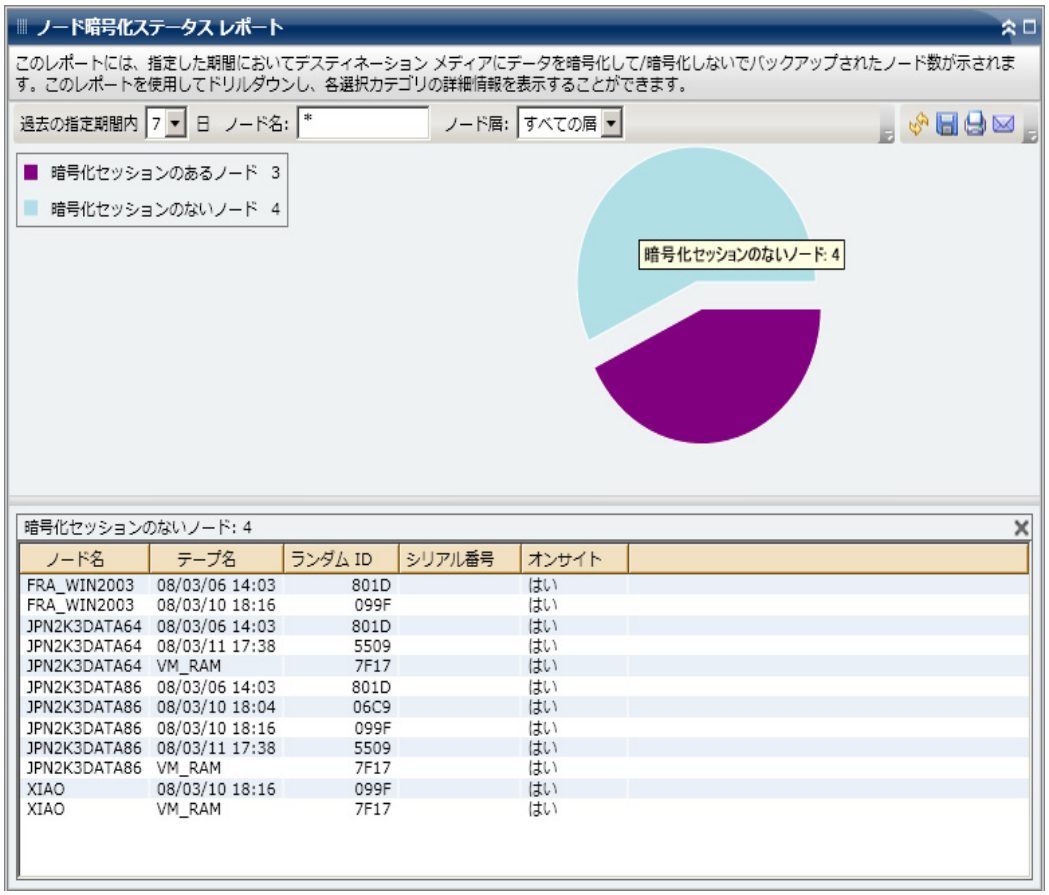
注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

- [暗号化セッションのあるノード]カテゴリをドリルダウンした場合、対応する表には、暗号化の種類(ハードウェア、ソフトウェア、またはなし)および暗号化を行う場所(エージェントで、バックアップ中にサーバで、またはマイグレーション中にサーバで)も表示されます。 また、このレポートには、すべてのバックアップ セッションが暗号化されたかどうか、および暗号化パスワードが CA ARCserve Backup データベース内に記録、格納されているかどうかが表示されます。

  注: データ暗号化の種類の詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。


ノード暗号化ステータス レポート
このレポートには、指定した期間においてデスティネーション メディアにデータを暗号化して/暗号化しないでバックアップされたノード数が示されます。このレポートを使用してドリルダウンし、各選択カテゴリの詳細情報を表示することができます。
過去の指定期間内 7 日 ノード名: * ノード層: すべての層
暗号化セッションのあるノード 3
暗号化セッションのないノード 4
暗号化セッションのあるノード: 3
暗号化セッションのあるノード: 3
ノード名 エージェントで暗号化 バックアップ中にサーバで暗号化 マイグレーション中にサーバで暗号化 すべてのバックア
SYMA86-ZUS90725 ソフトウェア なし なし いいえ
WIN-4J5VOLBVCP2 ソフトウェア なし なし はい
YUE-268919C5CA4 ソフトウェア なし なし いいえ

- ［暗号化セッションのないノード］カテゴリをドリルダウンした場合には、対応する表には、テープ名と共に、テープのランダム ID、およびテープがオンサイトにあるかどうかが表示されます。



ノード復旧ポイント レポート

ノード復旧ポイント レポートには、指定した期間の各ノードの復旧ポイントが一覧表示されます。 ノード復旧ポイントとは、ノードのバックアップが[成功]した時点、または[未完了]になったポイントです。 このレポートでは、適切な復旧ポイントを、ジョブ ステータスではなくノード ステータスによって判断します。 このレポートは、すべてのノードに対して指定した復旧ポイントの数に基づいてフィルタ(次より大きい、または次より小さい)できます。

レポートの利点

ノード復旧ポイント レポートは、どのノードが復旧に対して適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。 あるノードの復旧ポイントの数に問題がある場合、パターンを調べて、バックアップ復旧ポイントが足りない、または多すぎる原因を特定できます。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

通常、特定のノードに高優先度のデータ(層 1)が含まれている場合は、必要な場合にすばやく完全な復旧ができるだけの復旧ポイントがあるかどうかを確認する必要があります。

> たとえば、高優先度データを含むノードを適切に保護するには、5 つの復旧ポイントが必要となります。 このレポートによって、特定の高優先度ノードに 2 つしか復旧ポイントがないことがわかった場合、原因を調査し、必要に応じてバックアップ スケジュールを変更して、適切な復旧保護を確保する必要があります。 また、ノードごとにデータを復旧できる最新時刻を特定して、DR オプションによって各ノードの復旧が可能かどうかを判断することができます。

同じように、あるノードに低優先度のデータ(層 3)が含まれている場合には、不要なバックアップ ポイントが含まれすぎていないことを確認する必要があります。

> たとえば、通常、低優先度データを含むノードを適切に保護するには、2 つの復旧ポイントが必要となります。 このレポートによって、特定の低優先度ノードに 5 つ復旧ポイントがあることがわかった場合、原因を調査し、必要に応じてバックアップスケジュールを変更して、貴重なリソースと時間を浪費しないようにする必要があります。

復旧ポイントが適切であること、およびデータの復旧が保証されていることを確認するために、このレポートをメディア検証レポートと共に検証することをお勧めします。

レポート ビュー

ノード復旧ポイント レポートは表形式で表示され、指定した期間内の利用可能な復旧ポイントが、指定した数より多いまたは少ないノードをすべて一覧表示します。 レポートの一覧には、ノード名と共に、対応する復旧ポイントの数、最新の復旧ポイントの時刻、保護された復旧の種類(フルまたは部分)、および惨事復旧(DR)が可能かどうかが表示されます。

惨事復旧が可能かどうかは、CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option がプライマリ サーバにインストールされ、ライセンスが取得されているかどうか、またそうである場合には、バックアップ時にこのオプションを使用するよう設定されているかどうかに基づきます。 特定のノードが CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option によって適切に保護されているかどうかを判定するには、「ノード惨事復旧ステータス レポート」(88 ページ)を使用してください。

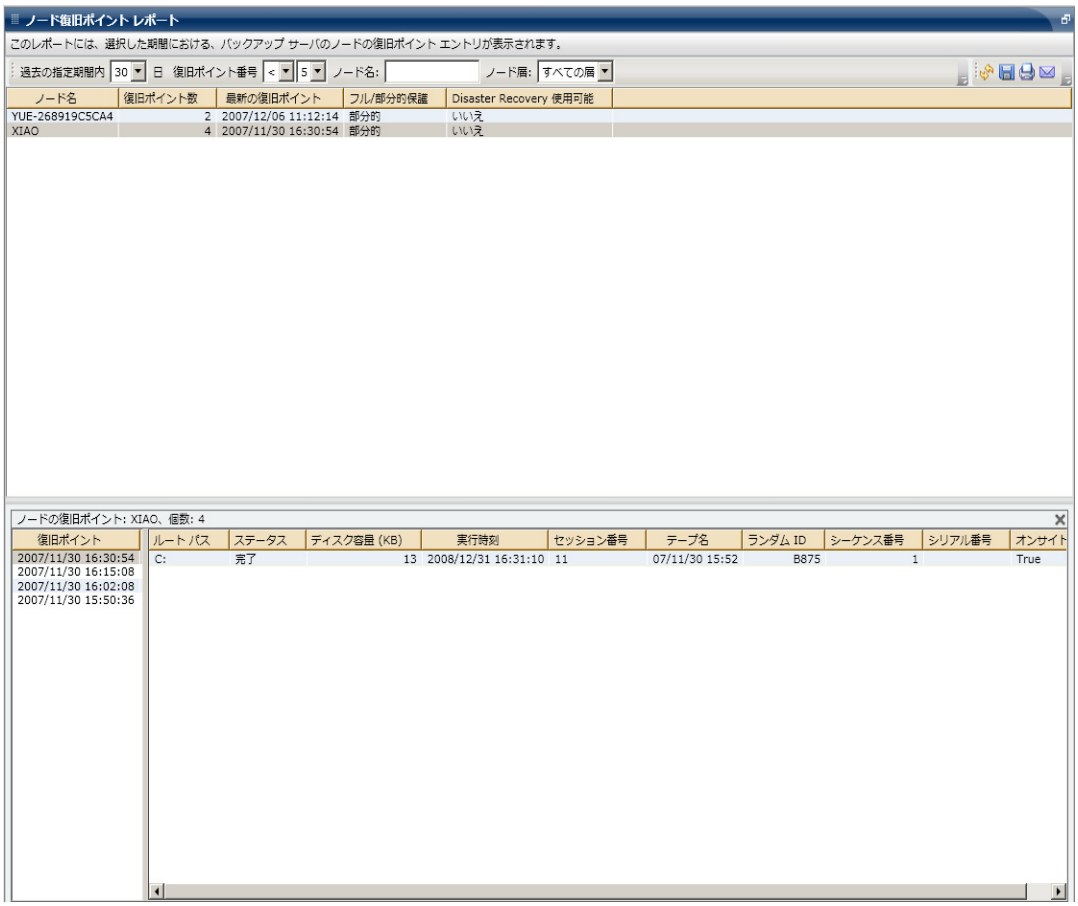
注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

ノード復旧ポイント レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 一覧表示されたノードのいずれかをクリックすると、過去の指定期間におけるそのノードの利用可能な復旧ポイントの詳細が一覧で表示されます。 さらに、表示された復旧ポイントのいずれかをクリックして、その復旧ポイントに対応するすべてのセッションの詳細を追加で表示することができます。

注: 復旧ポイントは、正常に実行されたノードのバックアップ ジョブの最新の開始時刻に基づいて決定されます。

注: 特定のノードの場合、ノード復旧ポイント レポートに惨事復旧が利用できないと表示されているのに、ノード惨事復旧ステータス レポートに惨事復旧が利用可能であると表示される場合があります。これは、情報がレポートされた方法の違いによります。 ノード復旧ポイント レポートでは、前回の復旧ポイントに関連する DR 情報が表示されますが、ノード惨事復旧ステータス レポートでは、指定された期間内に使用可能な DR セッションが少なくとも 1 つある場合に情報が表示されます。



ノード サマリ レポート

ノード サマリ レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、バックアップされるすべての Windows ノードのサマリを一覧表示します。 このレポートによって、環境内にあるノードの全体像がわかります。

レポートの利点

ノード サマリ レポートによって、環境内にあるノードの全体像がわかります。 このデータから、バックアップ ジョブに対してどのノードが最も効率が良く、どのノードに問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

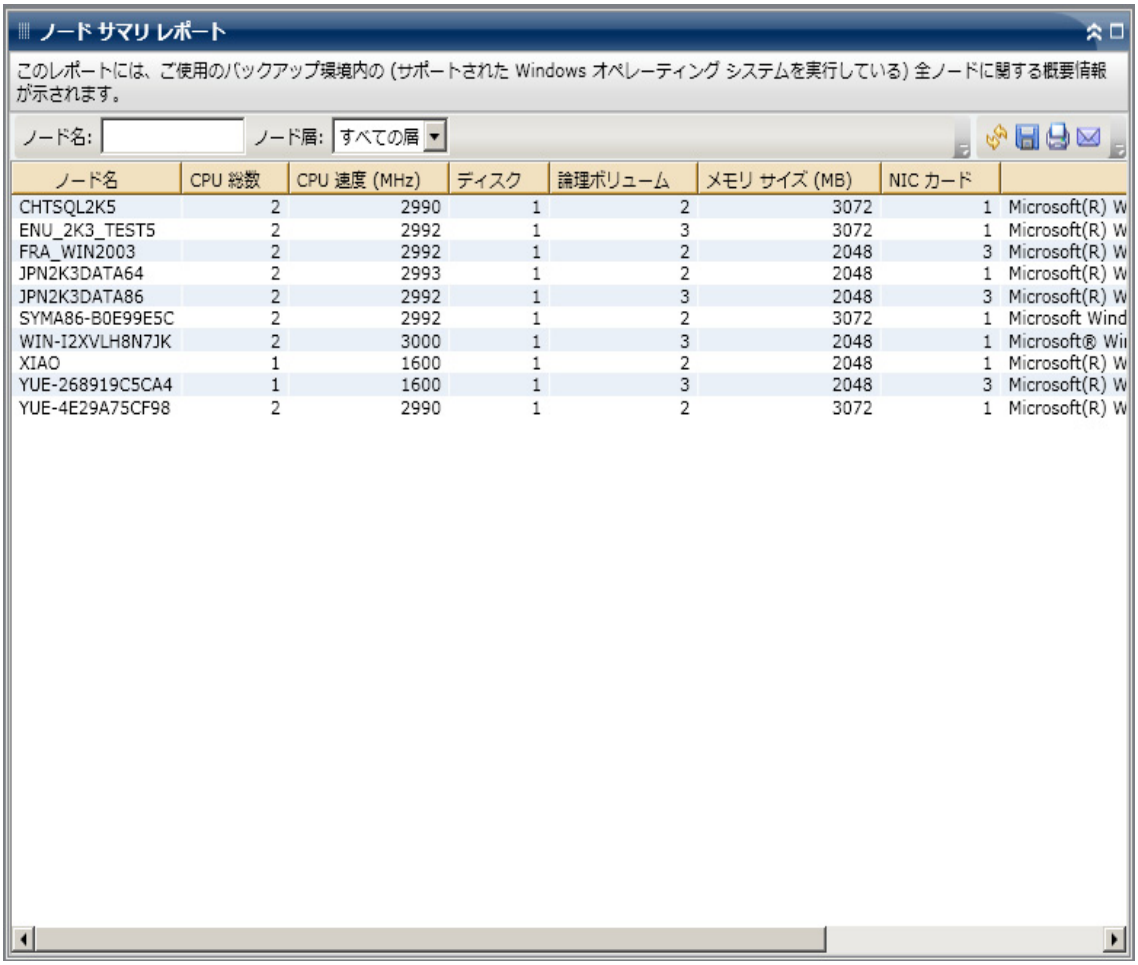
たとえば、あるノードのスループット値が低いことがわかった場合、このレポートで遅いノードの動作パターンを特定することができます。 最も速いスループット値を基準として使用し、そのノードのパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。遅いノードと速いノードを比較して、実際に問題があるのかどうか、または両方の値が似ているかどうかを特定することができます。遅いノードはパフォーマンスが悪いわけではない可能性があります。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるノードを特定し、同じノードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

ノード サマリ レポートには、ノード名、物理 CPU、CPU 速度、ディスク、論理ボリューム、メモリ サイズ、NIC カード、および OS が表形式で一覧表示されます。 ドロップダウン メニューでノード名を指定したりノード層を選択して、表示されるデータをフィルタできます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。



ノード名	CPU 総数	CPU 速度 (MHz)	ディスク	論理ボリューム	メモリ サイズ (MB)	NIC カード	
CHTSQL2K5	2	2990	1	2	3072	1	Microsoft(R) W
ENU_2K3_TEST5	2	2992	1	3	3072	1	Microsoft(R) W
FRA_WIN2003	2	2992	1	2	2048	3	Microsoft(R) W
JPN2K3DATA64	2	2993	1	2	2048	1	Microsoft(R) W
JPN2K3DATA86	2	2992	1	3	2048	3	Microsoft(R) W
SYMA86-B0E99E5C	2	2992	1	2	3072	1	Microsoft Wind
WIN-I2XVLH8N7JK	2	3000	1	3	2048	1	Microsoft® Wi
XIAO	1	1600	1	2	2048	1	Microsoft(R) W
YUE-268919C5CA4	1	1600	1	3	2048	3	Microsoft(R) W
YUE-4E29A75CF98	2	2990	1	2	3072	1	Microsoft(R) W

ノード層レポート

ノード層レポートには、各優先度層のノード数が表示されます。 ノード層は、高優先度ノードを表す層 1 と低優先度ノードを表す層 3 が設定されています。 デフォルトでは、層 1 にはすべての CA ARCserve Backup サーバ(プライマリおよびメンバ)、およびアプリケーション エージェント(Oracle、Microsoft Exchange、Microsoft SQL Server、Microsoft Sharepoint など)がインストールされたすべてのノードが含まれるように自動的に設定されます。また、層 3 には上記以外のすべてのノード(ファイル システム エージェントを含む)が自動的に設定されます (デフォルトでは、層 2 にはノードが含まれておらず、ユーザによるカスタマイズが可能です)。

各層に対するノード割り当ては、[ノード層の設定]ダイアログ ボックスを使用して、個別のニーズにあわせて再構成またはカスタマイズできます。[ノード層の設定]ダイアログ ボックスは、CA ARCserve Backup サーバ管理またはバックアップ マネージャからアクセスできます。

注: ノード層の設定の詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

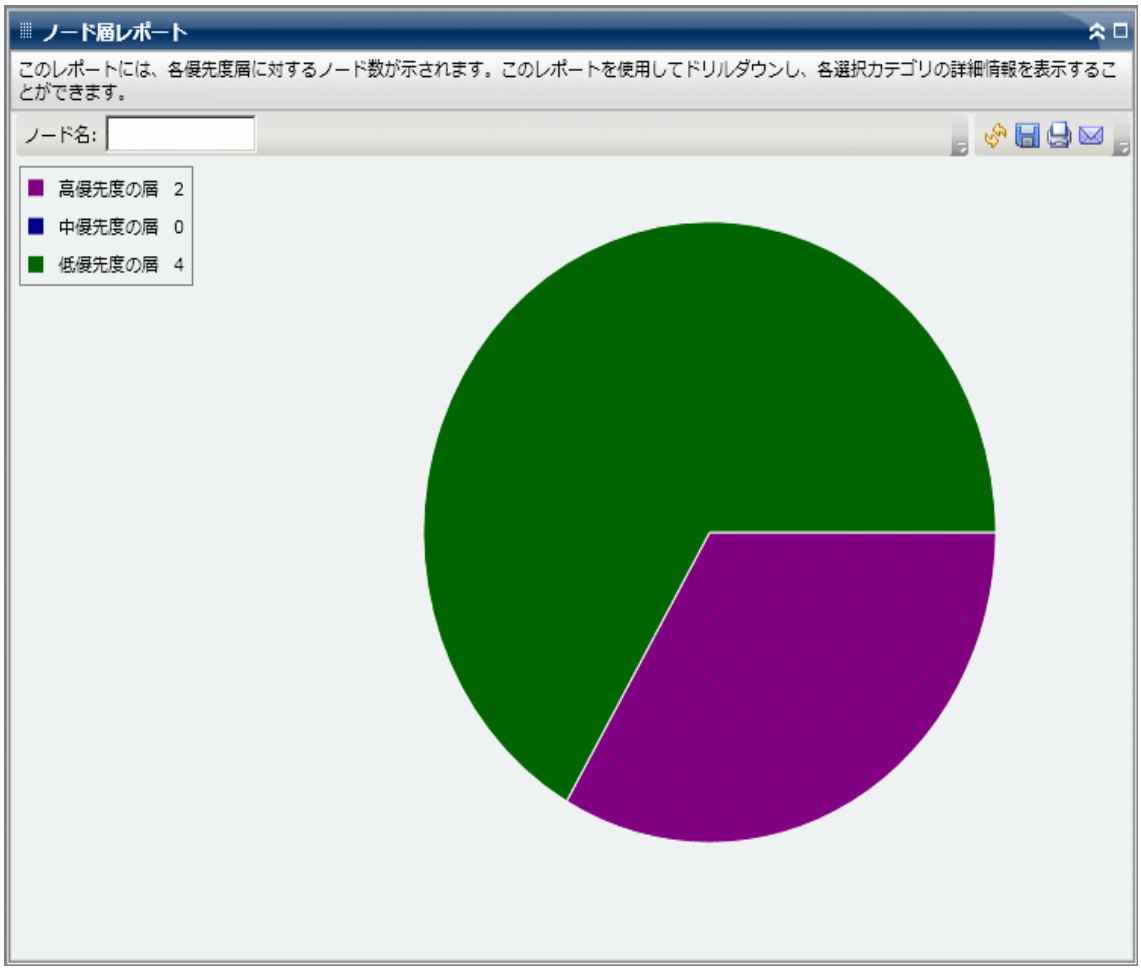
レポートの利点

ノード層レポートを使用して、各優先度層にどのノードが含まれているかをすばやく特定でき、すべてのノードが適切に保護されているかどうかを確認するのに役立ちます。

たとえば、あるノードに優先度の高いデータがあることがわかっていて、このレポートからそのノードが層 3 カテゴリに含まれていることがわかれば、CA ARCserve Backup サーバ管理または CA ARCserve Backup マネージャを通して、このノードを層 1 に割り当てし直す必要があります。

レポート ビュー

ノード層レポートは円グラフ形式で表示され、各優先度層のノード数を表します。



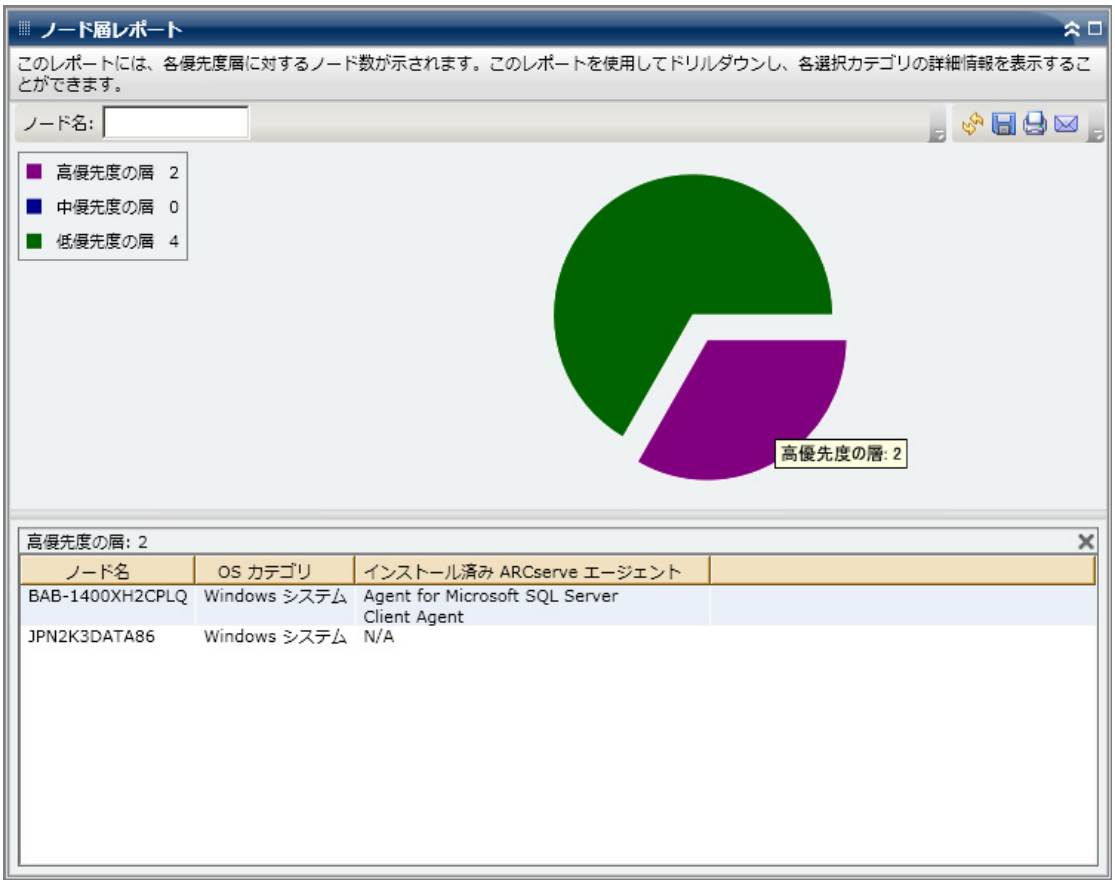
ドリルダウン レポート

ノード層レポートでは、円グラフ ビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 円グラフをクリックしてドリルダウンし、特定の層のノードの一覧を表形式で表示できます。この表には、ノード名、OS、カテゴリ、およびインストールされている ARCserve エージェントの各列が含まれます。

［OS カテゴリ］列には、バックアップ マネージャのソース ツリーに表示されているサポートされたノード カテゴリのみが含まれます。 この列に表示される OS カテゴリは、NAS サーバ、Mac OS X システム、UNIX/Linux システム、Windows システム、CA XOsoft シナリオ、VMware VCB システム、および Microsoft Hyper-V システムです。

インストールされている ARCserve エージェントの列には、ノードにインストールされているすべての CA ARCserve Backup エージェントが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。



最近のバックアップに失敗したノード レポート

最近のバックアップに失敗したノード レポートでは、指定した期間内で前回または最新のバックアップに失敗したノードが一覧表示されます。 このレポートによって、データが適切に保護されているかどうかを判定することができ、バックアップに関して問題の可能性がある領域をすばやく特定して対処するための手段となります。 一覧にノードが表示されず、バックアップがすべて成功している状態が理想です。

レポートの利点

最近のバックアップに失敗したノード　レポートは、バックアップのスケジュールが設定されているノードのうち、どのノードが適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。 あるノードの最近のバックアップの失敗に問題がある場合、パターンを調べて、最新のバックアップに失敗した日付が、データ保護が危険にさらされていることを意味するのかどうかを判断できます。

たとえば、バックアップジョブのスケジュールが、日単位の増分バックアップ、週単位のフル バックアップ、および月単位のフル バックアップに設定されているノードがあり、このレポートから、最新の週単位および月単位のフル バックアップ ジョブが失敗していることがわかれば、最近成功したバックアップがないためにデータが適切に保護されていないことを意味しています。 ただし、最新の失敗が日単位のバックアップに発生していて、前回のバックアップの成功以降に日があまり経過していない場合は、日単位のデータ保護は欠けていますが、先週のフル バックアップが利用できるので、その時点までのデータを復旧できる可能性があります。

必要に応じて、ドリルダウンしてアクティビティ ログを表示し、ページをスクロールして、各ノードおよび各ジョブに関する情報をさらに参照することができます。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

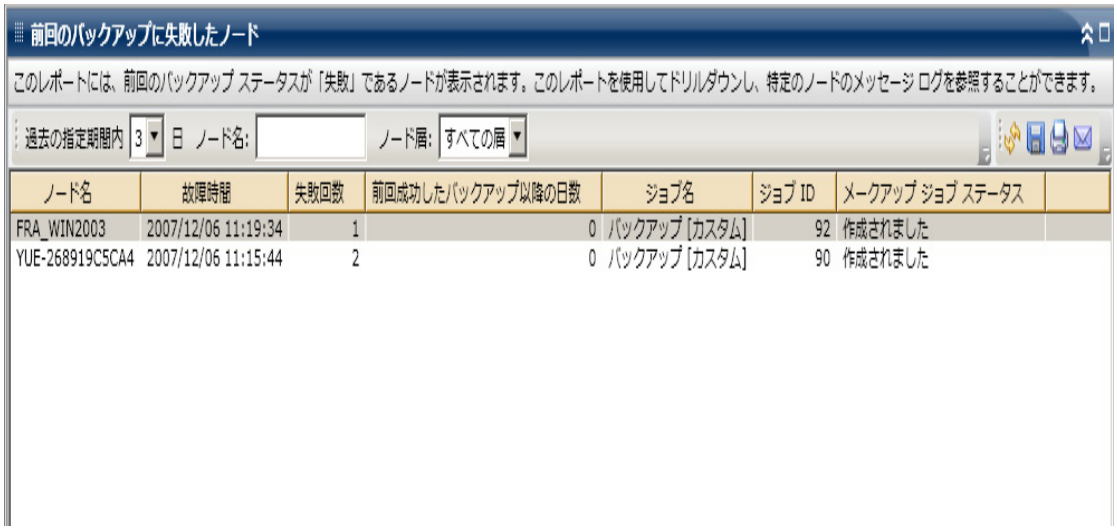
レポート ビュー

最近のバックアップに失敗したノード レポートは表形式で表示され、指定した期間内で最近のバックアップに失敗したノードが一覧表示されます。 レポートには、ノード名と共に、最新の失敗したバックアップの時刻、ノードのスループット（速度）、指定した期間内の失敗回数、最近の成功したバックアップ以降の日数、および関連するジョブ情報（名前、ID およびステータス）が表示されます。

注： ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」（38 ページ）を参照してください。

また、このレポートには、関連するすべてのメークアップ ジョブのステータスも表示されます。 メークアップ ジョブ ステータスは、[作成されました]、[作成されませんでした]、[アクティブ]、[完了]のいずれかです。

- 作成されました - メークアップ ジョブが作成され、ジョブ キュー内でレディ状態ですが、まだ実行されていません。
- 作成されませんでした - 最初のバックアップ ジョブが失敗した後、メークアップ ジョブは作成されていません。 失敗した場合にメークアップ ジョブを作成するようジョブが正しく設定されていることを確認する必要があります。
- アクティブ - メークアップ ジョブが作成され、実行中です。 メークアップ ジョブのステータスは、まだ不明です。
- 終了 - 最初のバックアップ ジョブが失敗した後に、メークアップ ジョブが作成され、実行が完了しています。

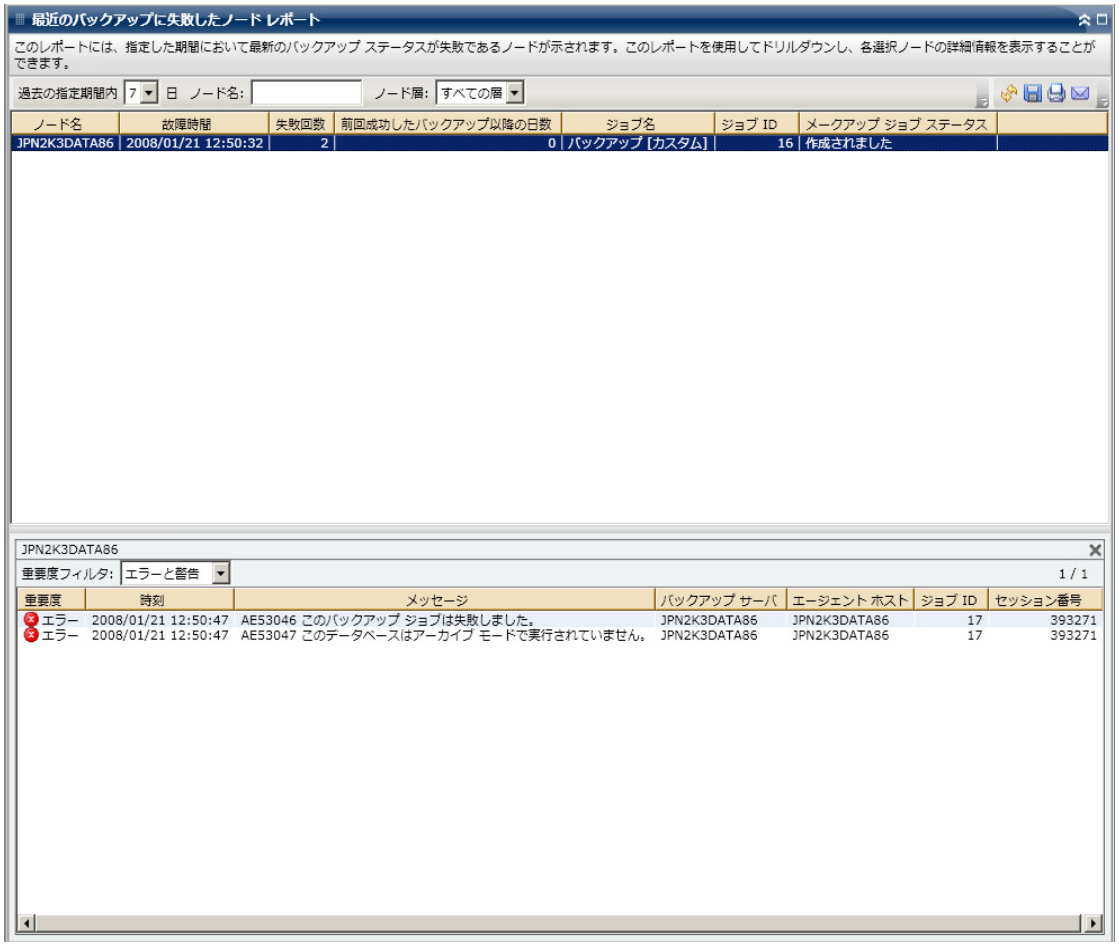


ドリルダウン レポート

前回のバックアップに失敗したノードでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 一覧表示されたノードのどれかをクリックすると、選択したノード対するすべてのジョブが詳細な一覧で表示されます。 重要度のレベルによって、表示された情報をフィルタできます。 このドリルダウン レポートには、失敗したノードの情報(バックアップ サーバ、エージェント ホスト、ジョブ ID およびセッション番号)および失敗に関する状況(失敗した時刻と対応するメッセージ)が表示されます。

注: Dashboard では、ログ メッセージを 1 ページに 100 個まで表示します。 それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ]ボタンをクリックします。

注: このドリルダウン レポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプ トピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。



OS レポート

OS レポートは SRM タイプのレポートで、CA ARCserve Backup ドメイン内のすべての Windows ノードでサポートされている OS 情報が表示されます。 このレポートをフィルタして、指定した OS 情報でノードを分類して表示することができます。

レポートの利点

OS レポートは、OS に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。 この全体像から、バックアップ ジョブに対してどの OS が最も効率が良く、どの OS に問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、このレポートをバックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポートに関連付けて、ノードの OS に適用された前回のサービス パックにより、スループットが遅くなる可能性を識別することができます。 また、このレポートを使用して、環境内のノードで実行されている OS のバージョンとサービス パックのレベルを確認することができます。 その後、環境内のノードの OS に最新のパッチやアップグレードを適用する際にこの情報が活用できます。 また、このレポートを使用して、OS のインストール ディレクトリおよびローカライズされたバックアップ環境で OS の言語に関する情報を取得することもできます。

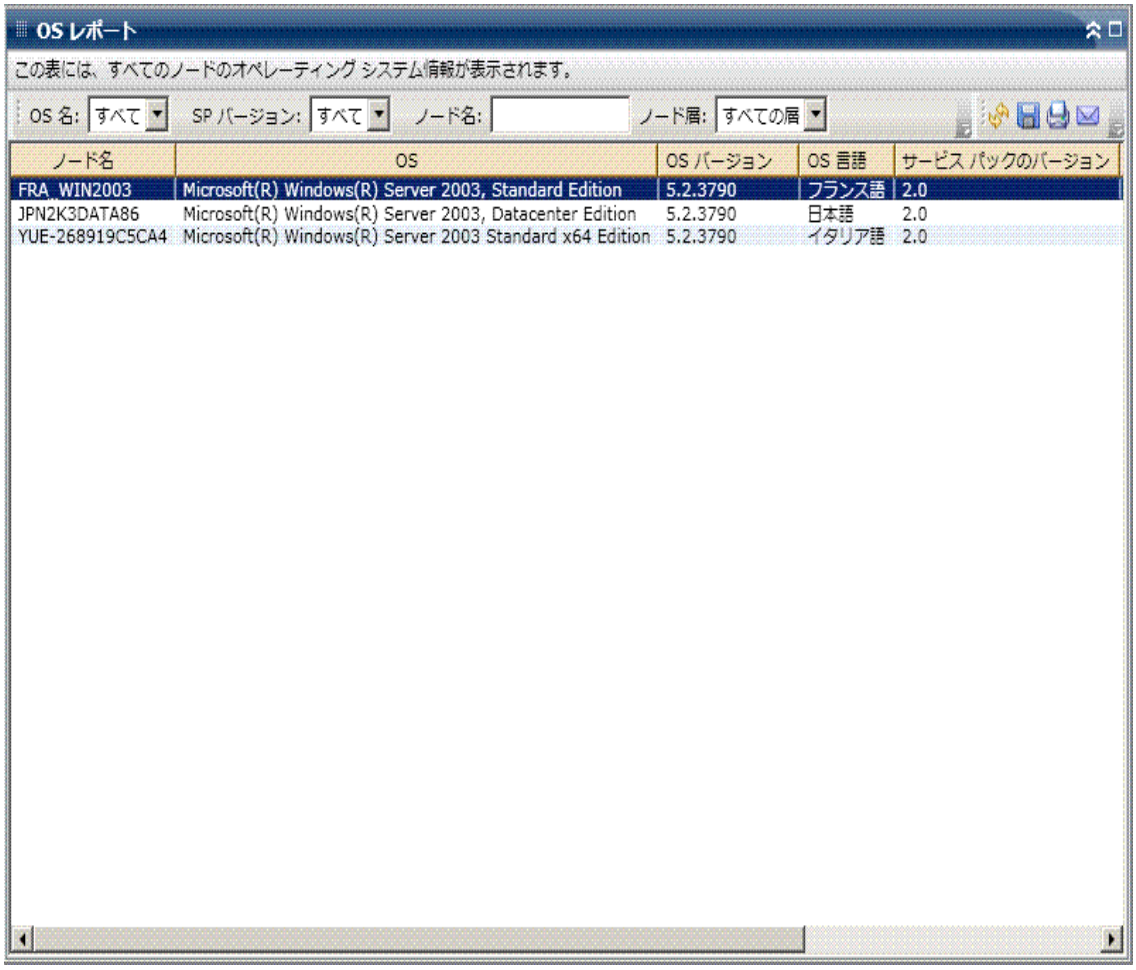
問題が潜在している OS を特定し、同じ OS が実行されているノードに頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

OS レポートには、各ノードのノード名、関連する OS、OS バージョン、OS 言語、サービス パックのバージョン、システム ディレクトリ、システム デバイス、および OS メーカーが表形式で一覧表示されます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

テーブルの表示をフィルタするには、ノート名を指定するか、ドロップダウン メニューから OS 名、SP バージョン(サービス パック)、またはノード層を選択します。



RPO（Recovery Point Objective、目標復旧ポイント）レポート

RPO レポートは棒グラフ形式で表示され、各日、各場所のバックアップ ノード数を表します。 このレポートを使用して、任意の日のノード バックアップの場所を分析し、必要になった場合の最適の復旧手段を判断することができます。

RPO レポートでは、ノードのバック アップが、レプリケート、ディスク、オンサイト テープ、オフサイト テープの 4 つに分類されます。 棒グラフをクリックすると、対応するカテゴリ内の選択したノードで利用できる復旧ポイントが表示されます。

レプリケート

CA XOSoft を使用してレプリケートされたノード、および CA ARCserve Backup を使用して XOSoft シナリオとしてバックアップされたノード。 レプリケートされたノードは、通常、数分で復旧できます。

ディスク

ディスク（FSD、VTL、デデュプリケーション デバイスを含む）にバックアップされたノード。 ディスク バックアップは、通常、復旧に数時間かかります。

オンサイト:

オンサイトのテープにバックアップされたノード。 オンサイト テープ バックアップは、通常、復旧に 1 日かかります。

オフサイト:

オフサイトのテープにバックアップされたノード。 オフサイト テープ バックアップは、通常、復旧に数日かかります。

レポートの利点

RPO レポートはバックアップ データの場所レポートに似ていますが、さらなる利点として、指定した日の復旧ポイントの数とバックアップ データの場所が表示されます。 このレポートは、復旧戦略の速度と効果を計画したり、（必要に応じて）実証したりするのに役立ちます。

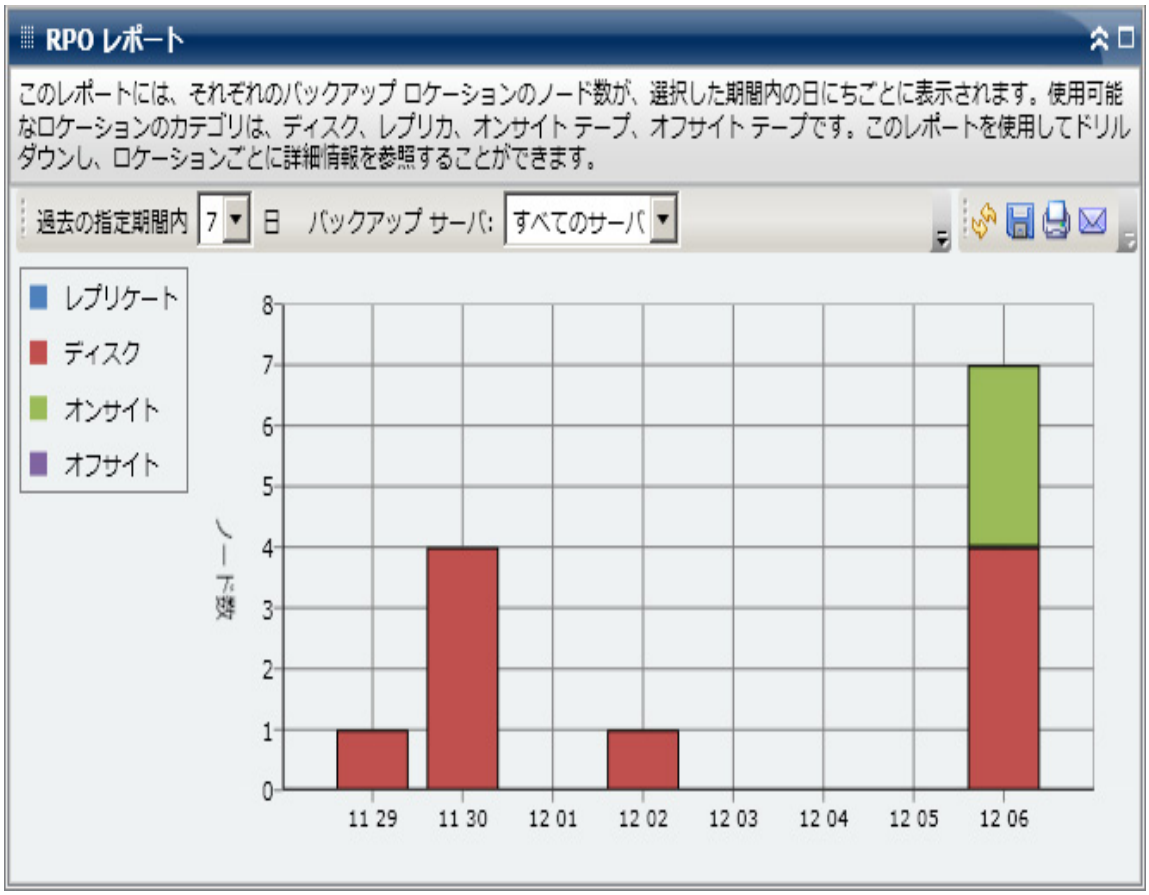
通常、このレポートを使用して、データ復旧の速さや取得できる復旧ポイント（バックアップ）の数を把握できます。

たとえば、社内で、部門 A が重要なデータや高優先度のデータをバックアップしており、場合によっては数分でこのデータを復旧する必要があるとします。 また、部門 B が重要でないデータを A とは別にバックアップしており、場合によっては 1 日以内でこのデータを復旧する必要があるとします。 このようなニーズに基づくなら、部門 A のデータはレプリケートして、すぐに復旧できるようにしておく必要があり、一方部門 B のデータは日単位でバックアップを行い、オンサイトテープに保存しておけば、復旧要件を満たすことができます。

こうして、このレポートを使用し、保存されたデータの復旧ポイントの数と場所を参照して、このような各種ニーズを満たしているかを判定することができます。 また、各部門に対して、個々の要件がどのように満たされているかを実証したり、必要に応じて各種要件を満たすようにバックアップ戦略を変更（取得する復旧ポイント/バックアップを変更、または保存したデータの復旧場所/速度を変更）することができます。

レポート ビュー

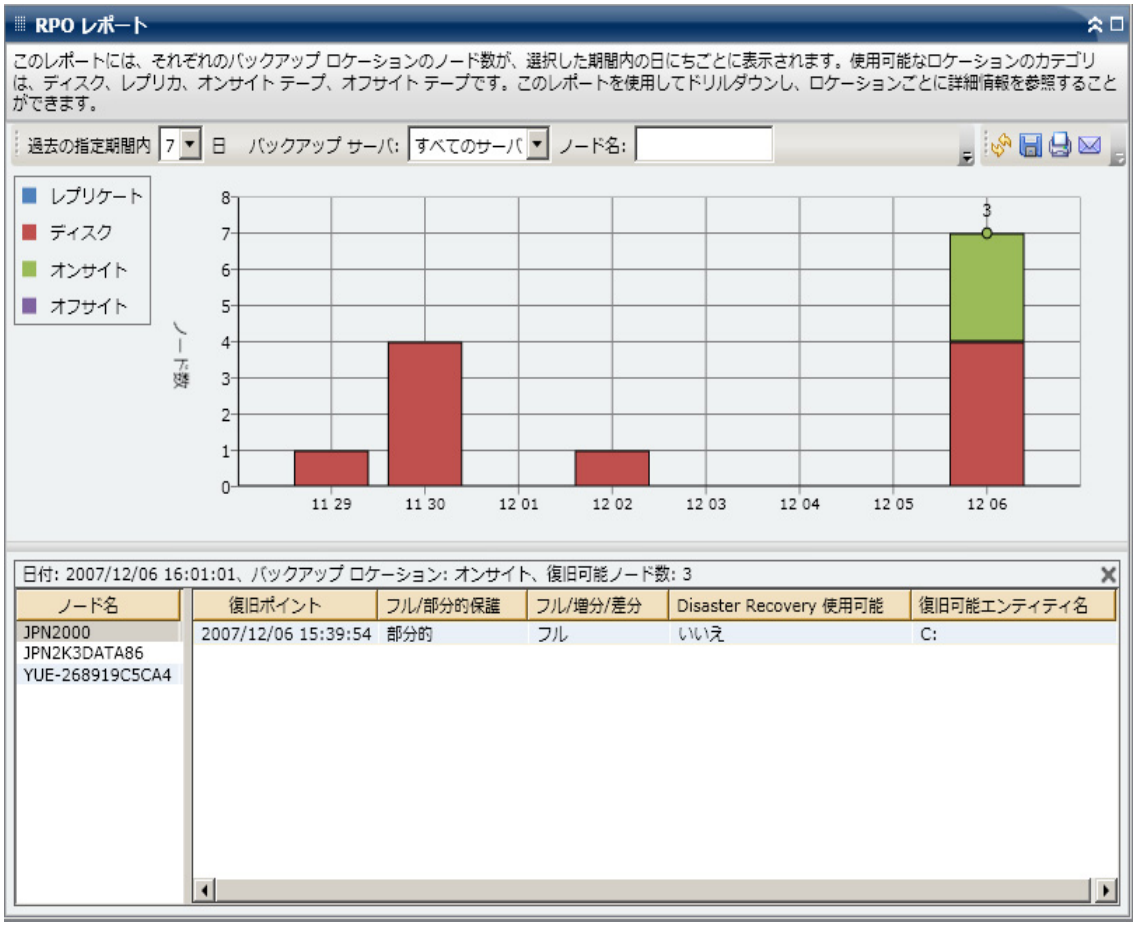
RPO レポートは棒グラフの形式で表示され、指定した期間に各復旧ポイントの場所にバックアップされたノードの数を表示します。 棒グラフは、期間内の各日に、指定したサーバにバックアップされたノードの詳細なレベルのビューを提供します。 棒グラフに表示されたステータス カテゴリは、各復旧場所（レプリケート、ディスク、オンサイト テープ、オフサイト テープ）にバックアップされたノードの数を日単位で示します。



ドリルダウン レポート

RPO レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 棒グラフのカテゴリのいずれかをクリックすると、選択された日に、対応する復旧場所にバックアップされたものがすべて詳細な一覧で表示されます。 このドリルダウン レポートには、ノード名と共に、対応する最新の復旧ポイント（バックアップ時間）、復旧ポイントの数、保護された復旧の種類（フルまたは部分）、使用されたバックアップ方式（フル、増分、または差分）、惨事復旧（DR）が可能かどうか、および復旧可能エンティティ名（復旧ポイントのルート セッション パス）が表示されます。

注： ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」（38 ページ）を参照してください。



SCSI/ファイバ カード レポート

SCSI/ファイバ カード レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、環境内のすべての Windows ノードの SCSI（Small Computer System Interface）カードおよびファイバカードの情報を、メーカー別に分類して表示します。

レポートの利点

SCSI/ファイバ カード レポートは、SCSI カードまたはファイバ カードに基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。 この全体像から、バックアップ ジョブに対してどの SCSI カードやファイバ カードが最も効率が良く、どの SCSI カードやファイバカードに問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、このレポートによって、ある SCSI カードやファイバ カード ノードのスループット値が低いことがわかった場合に、原因を特定できます。 遅い SCSI カードやファイバ カードまたは同じメーカー製の SCSI カードやファイバ カードの動作パターンは常に調べておいてください。 最も速いスループット値を基準として使用し、その SCSI カードやファイバ カードのパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。 遅い SCSI カードやファイバ カードと速い SCSI カードやファイバ カードを比較して、 SCSI カードやファイバ カード自体に問題があるのかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅い SCSI カードやファイバ カードのパフォーマンスが悪いわけではない可能性があります。

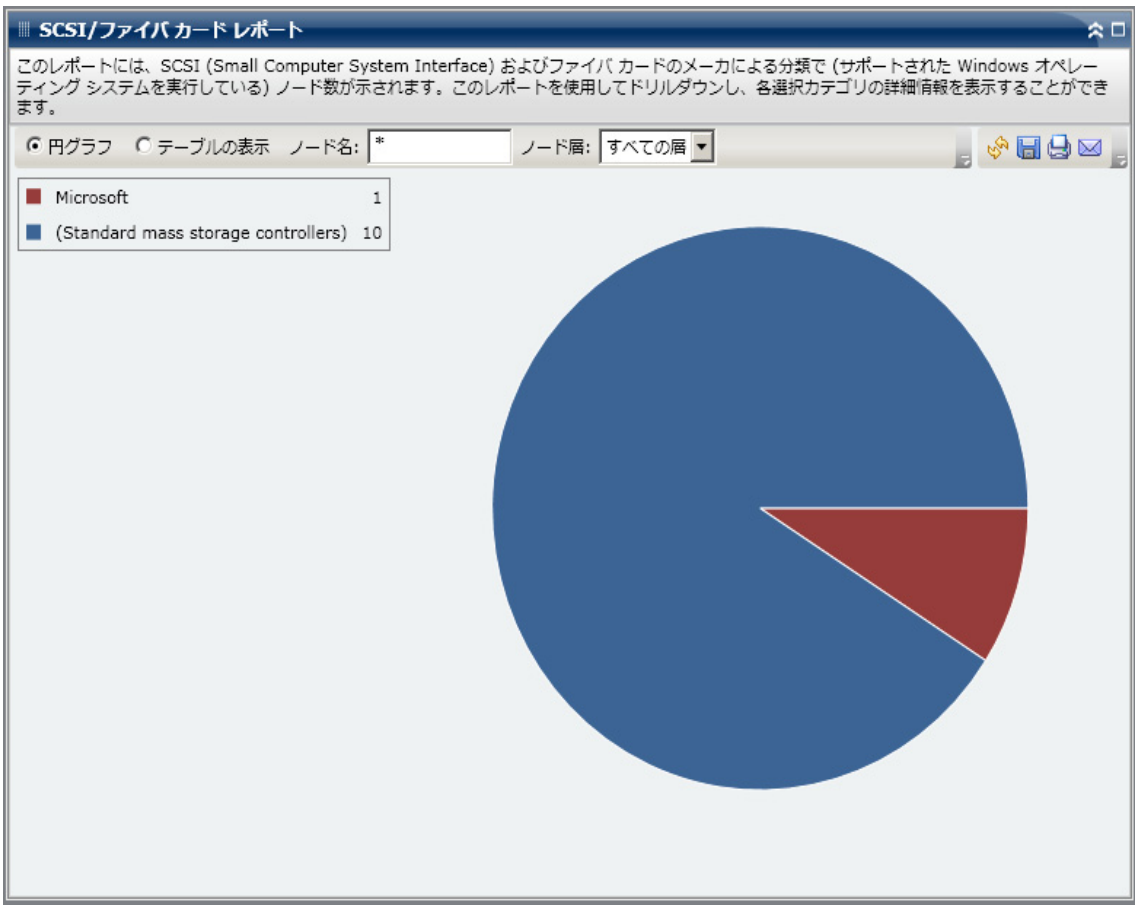
常に動作のパターンを探して問題の可能性のある SCSI カードやファイバ カードを特定し、同じ SCSI カードやファイバ カードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

SCSI/ファイバ カード レポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。

円グラフ

円グラフには、すべての既知のノードの SCSI カードおよびファイバ カードの情報が表示されます。



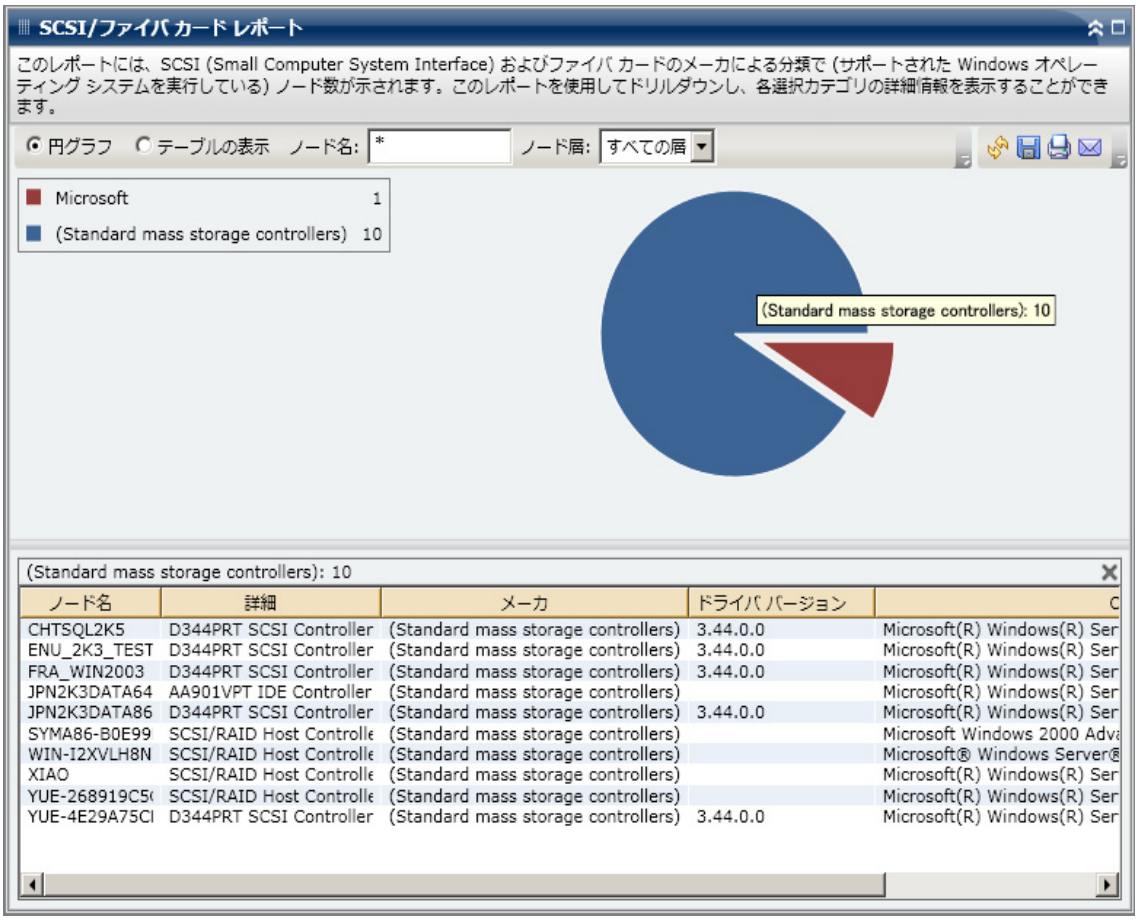
テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、SCSI/ファイバ カード レポートには、すべてのカテゴリについて、詳しい情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、詳細、メーカー、ドライバ バージョンなどが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

SCSI/ファイバ カード レポートでは、円グラフ ビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 サマリ情報のレポートで、列をクリックして、特定の SCSI カードやファイバ カードに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。



テープ暗号化ステータス レポート

テープ暗号化ステータス レポートには、指定した期間において、暗号化されたバックアップ セッションがあるテープおよびないテープの数が表示されます。 データの暗号化は、コンプライアンス遵守だけでなく、データのセキュリティ維持にとっても重要です。多くの企業で、バックアップ テープが惨事復旧に備えてオフサイトの場所へ移送されます。 セキュリティ確保された施設を離れると、データは公にさらされ、紛失や盗難の可能性が生じるため、移送にはセキュリティ リスクがつきものです。 バックアップ テープを暗号化すれば、データはどこにあっても保護されます。

このレポートによって、機密データが適切に保護されているかどうかを判定することができ、バックアップに関して問題の可能性がある領域をすばやく特定して対処するための手段となります。

レポートの利点

テープ暗号化ステータス レポートは、どのテープが適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。 データの暗号化は、セキュリティ維持の面でも、企業のコンプライアンス遵守の面でも非常に重要です。

このレポートによって、暗号化されていないテープに機密データが存在して、セキュリティ リスクにさらされていることがないかどうかをすばやく調べることができます。

> たとえば、暗号化データがどのテープに含まれ、どのテープに含まれていないかをすばやく参照できます。 また、このレポートによって、これらの暗号化テープおよび非暗号化テープの場所(オンサイトまたはオフサイト)も確認できます。暗号化されていないテープがあり、このテープに機密データが存在し、オフサイトの場所にそのデータがあることがわかった場合は、データが適切に保護されていないことがただちに把握できます。 問題が発生しないうちに、バックアップ戦略を評価し直す必要があります。

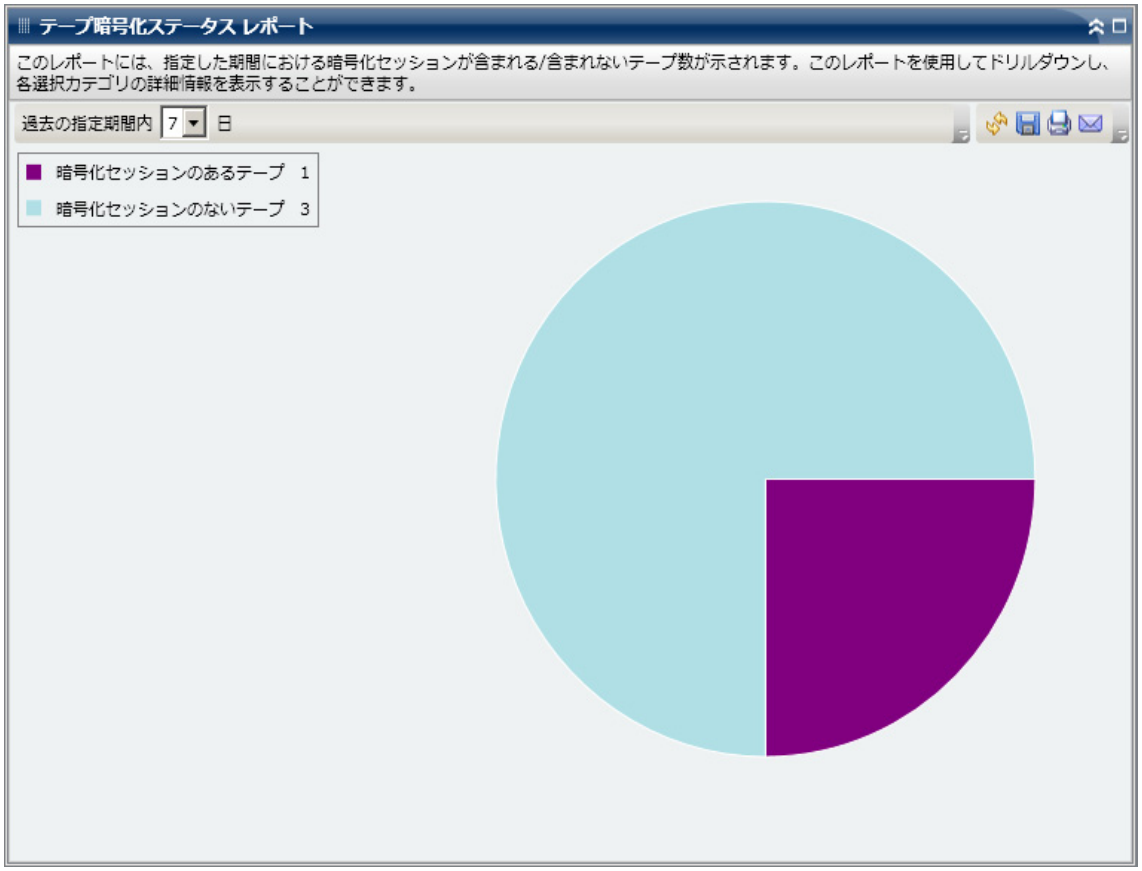
同様に、このレポートによって、機密でないデータが暗号化されているかどうかを調べることで、貴重なリソース(時間と費用)を浪費しているだけでなく、バックアップの労力まで無駄にしている事態がないかどうかを把握することができます。

> たとえば、このレポートによって、機密データがないテープのデータが暗号化されたままであることがわかれば、バックアップ戦略を評価し直し、リソースと時間を適切に使用されるようにする必要があります。

レポート ビュー

テープ暗号化ステータス レポートは円グラフ形式で表示され、暗号化セッションのあるバックアップ済みテープの数(およびパーセント)および暗号化セッションのないバックアップ済みテープの数を表します。

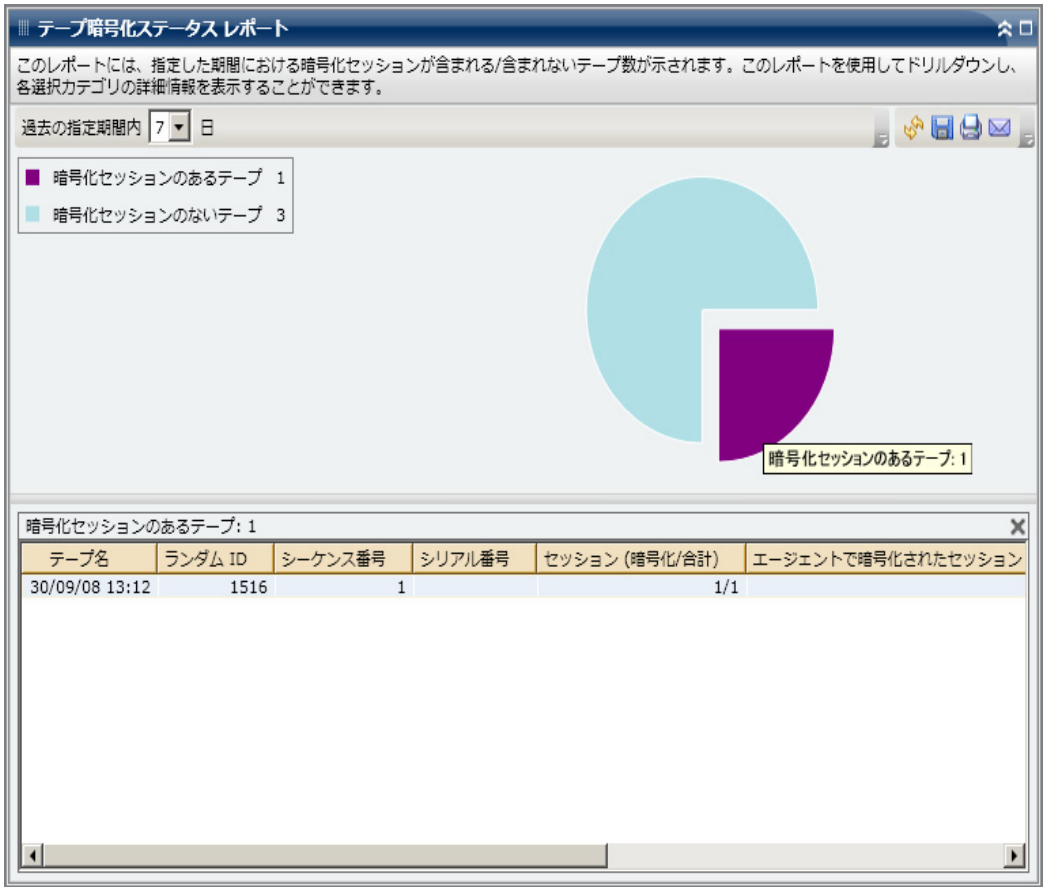
- 暗号化セッションのあるテープの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションを 1 つ以上含むテープです。
- 暗号化セッションのないテープの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションをまったく含まないテープです。



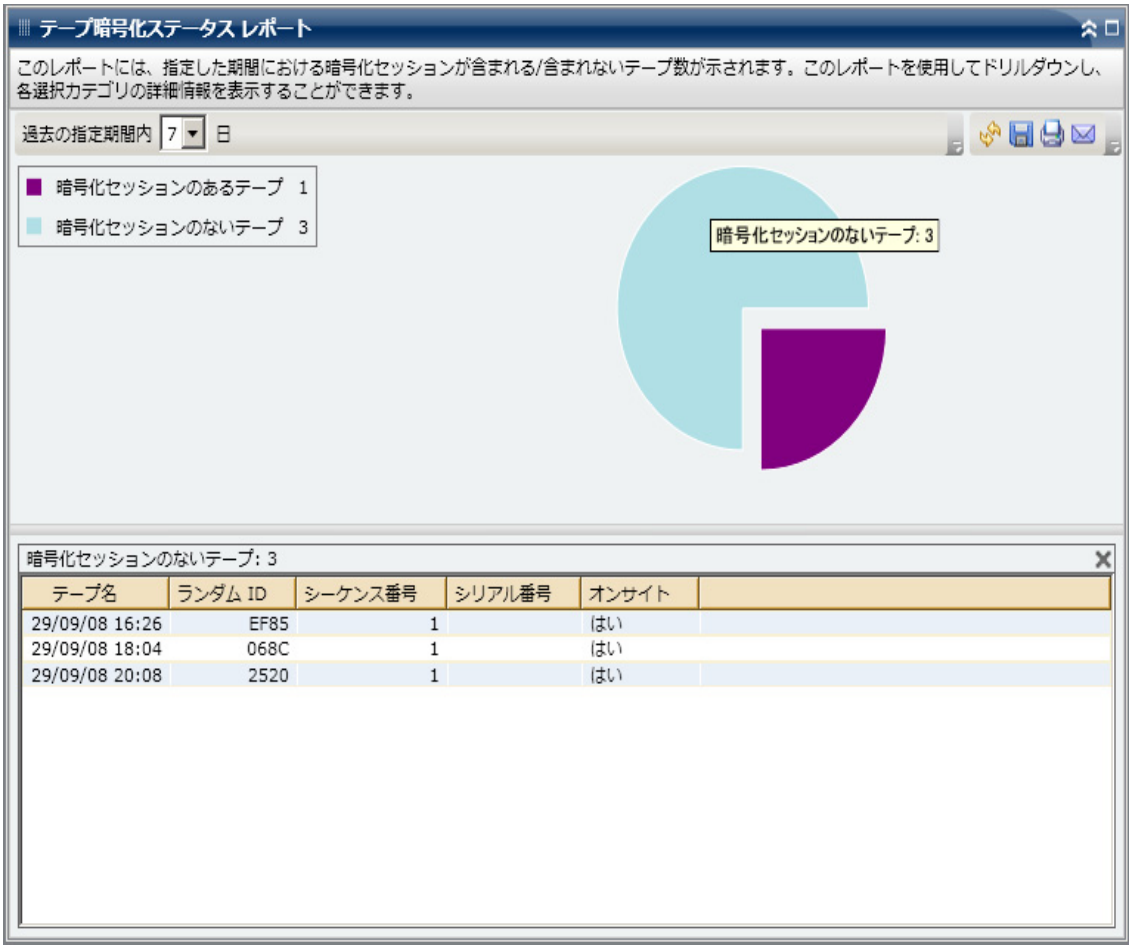
ドリルダウン レポート

テープ暗号化ステータス レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 2 つのカテゴリのどちらかをクリックすると、過去の指定期間内のそのカテゴリに関連したすべてのテープが詳細な一覧で表示されます。 このドリルダウン レポートには、テープ名と共に、各カテゴリに関連した暗号化関連情報が表示されます。

- ［暗号化セッションのあるテープ］カテゴリでドリル ダウンすると、このレポートには各テープのセッション数が表示されます。 セッション数は、連続する 4 つのカテゴリで構成されます。
  - **セッション（複合化/合計）** - テープの暗号化済みセッションのカウントおよびセッション総数。
  - **エージェントで暗号化されたセッション** - テープのエージェント側で暗号化されたセッションのカウント。
  - **サーバで暗号化されたセッション（SW/HW）** - CA ARCserve Backup サーバで暗号化されたセッションのカウント（ソフトウェアの暗号化およびハードウェアの暗号化を使用）。
  - **パスワードのみ** - テープ上のセッション情報は、セッション パスワードによって保護されています。



- ［暗号化セッションのないテープ］カテゴリでドリル ダウンすると、対応する表にも対応するテープの情報が表示されます。



バックアップに失敗したノード レポート

バックアップに失敗したノード レポートは、過去の指定日数の間に、バックアップ ジョブ（フル、増分、差分）が失敗したノードを上位から指定した数だけリストします。

レポートの利点

このレポートを使用して、最も失敗回数の多いノードに焦点を当て、失敗の原因の特定を試みることができます。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

たとえば、失敗の回数だけに注目すると、それは問題の領域を示すものとしては誤りである可能性があります。あるノードの失敗が 3 回で成功が 30 回だった場合（失敗率は 10%）、失敗は 2 回だけでも成功が 3 回しかなかった（失敗率は 40%）ノードよりも問題は小さいかもしれないからです。

さらに、最後に成功したバックアップからの日数は、それが最近の失敗のパターンを示している場合には、問題の領域を示すものである可能性があります。

たとえば、あるノードの失敗が 10 回でも最後に成功したバックアップが 1 日前である場合、失敗は 5 回でも最後に成功したバックアップは 7 日前であるノードよりも問題は小さいかもしれません。

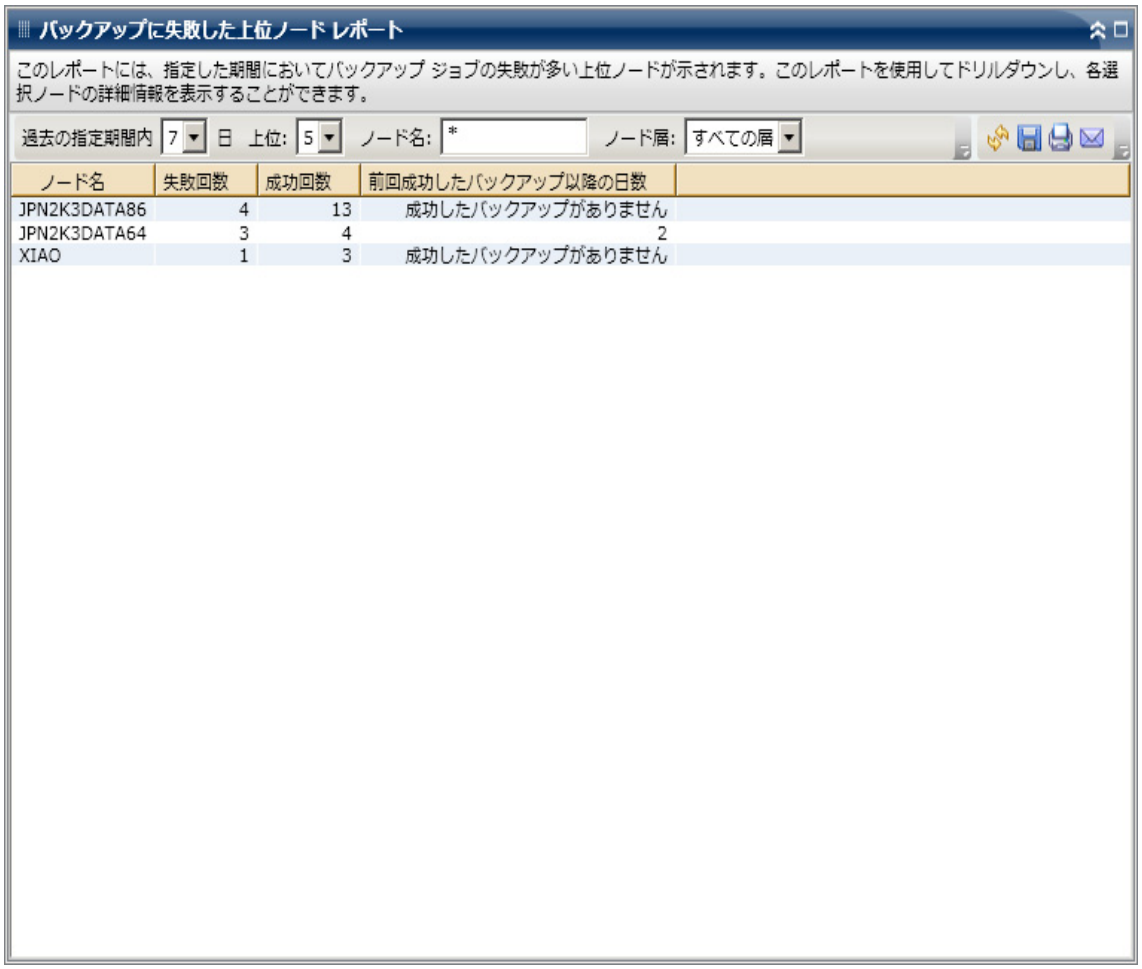
注: 「なし」がこのフィールドに表示された場合、このデータは適用されないことを示し、指定した期間にこのノードのバックアップが成功していないことを意味します。

レポート ビュー

バックアップに失敗したノード レポートは表形式で表示され、バックアップの失敗回数が最も多いノードをリストします。

注: デフォルトでは、CA ARCserve Backup はアクティビティ ログの情報を 14 日間保存します。 CA ARCserve Backup Dashboard に 14 日間以上のアクティビティ ログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティ ログ廃棄間隔]オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。 アクティビティ ログの設定の変更の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

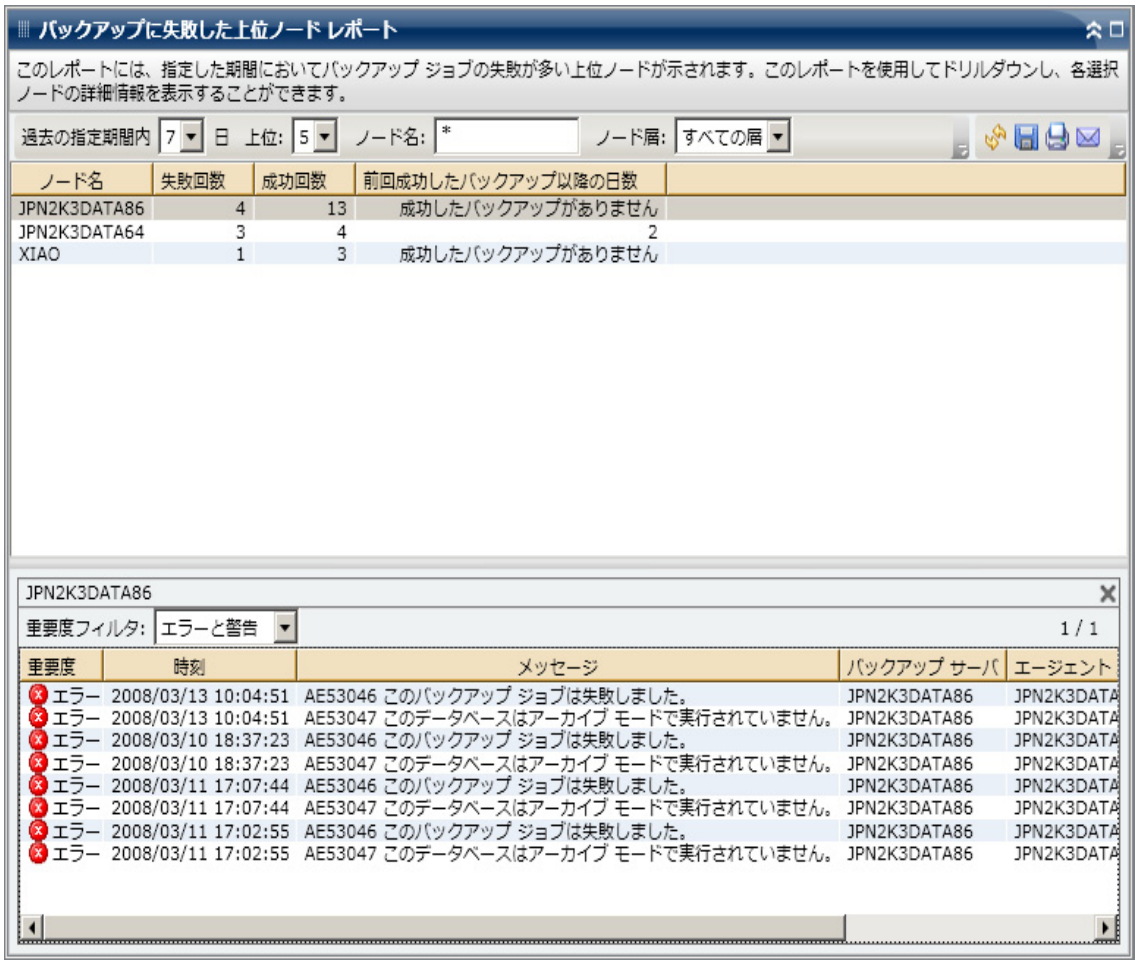


ドリルダウン レポート

バックアップに失敗したノード レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 任意のノードをクリックして、そのノードに関連するすべてのログ メッセージの詳細なリストを表示することができます。 表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指定してリストをフィルタすることもできます。

注: Dashboard では、ログ メッセージを 1 ページに 100 個まで表示します。 それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ]ボタンをクリックします。

注: このドリルダウン レポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプ トピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。



バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポート

バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポートは、過去の指定日数の間で、バックアップ スループットの値が最も速い/遅いノードを上位から指定した数だけリストします。 各ノードに対し、スループットは過去の指定日数の間で、そのノードに対するすべてのバックアップ ジョブ（フル、増分、差分）ごとの、バックアップされたデータの合計と所要時間の割合（MB/分）として計算されます。

レポートの利点

バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポートは、どのノードのバックアップ ジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。 一般的にこのレポートから、スループットの最も遅いノードに注目し、その原因を特定することを試みます。 原因はネットワークの問題や、遅いドライブ、実行中のバックアップ ジョブのタイプであるかもしれません。 遅いノードの中で動作のパターンを探します。 最も速いスループット値を基準として使用して、そのノードがうまく実行している理由を分析することもできます。 遅いノードと速いノードを比較して、実際に問題があるのかどうか、または両方の設定値が同じかどうかを特定することができます。もしかすると遅いノードは不適切に実行しているわけではないかもしれません。 問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

たとえば、最も遅いノード（最も低いスループット値）だけに注目すると、それは問題の領域を示すものとしては誤りである可能性があります。移動されるデータの量や実行されるバックアップのタイプの分析も必要だからです。

レポート ビュー

バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポートは表形式で表示され、最も速いまたは最も遅いスループット値(MB/分)を持つノードをリストします。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

仮想マシン復旧ポイント レポート

仮想マシン復旧ポイント レポートには、VCB（VMware Consolidated Backup）テクノロジまたは Microsoft Hyper-V を使用してバックアップした各仮想マシン（VM）で利用可能な復旧ポイントの詳細が一覧表示されます。

レポートの利点

仮想マシン復旧ポイント レポートは保護された VM データ環境の効果を分析し判定するのに役立ちます。 このレポートから、VM バックアップ インフラストラクチャ全体のスナップショット ビューを取得し、データが適切に保護されているかどうかを判断することができます。 このレポートには、指定した日の復旧ポイントの数とバックアップ データの場所が表示され、仮想マシンの復旧戦略の速度と効果を計画したり、（必要に応じて）実証したりするのに役立ちます。

通常、特定の VM に高優先度のデータが含まれている場合は、必要な場合にすばやく完全な復旧ができるだけの復旧ポイントがあるかどうかを確認する必要があります。

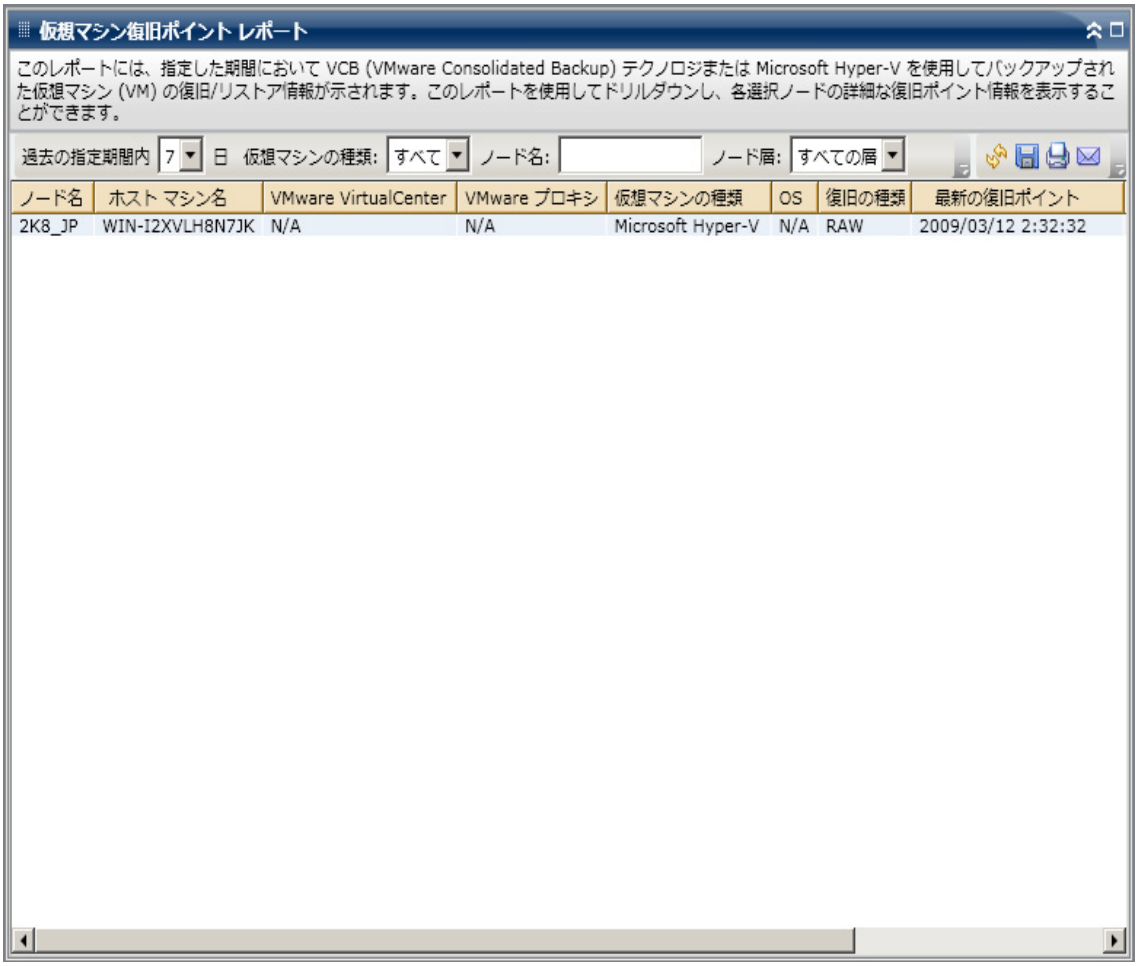
たとえば、高優先度データを含む VM を適切に保護するには、5 つの復旧ポイントが必要となります。 このレポートによって、特定の高優先度 VM に 2 つしか復旧ポイントがないことがわかった場合、原因を調査し、必要に応じてバックアップ スケジュールを変更して、適切な復旧保護を確保する必要があります。 また、最新の復旧ポイントを特定し、VM ごとにデータを復旧できる最新時刻を特定して、各ノードの復旧が raw レベル復旧、ファイル レベル復旧、またはその両方で可能かどうかを判断することができます。

レポート ビュー

仮想マシン復旧ポイント レポートには、選択されたノードの詳細情報の一覧が表形式で表示されます。

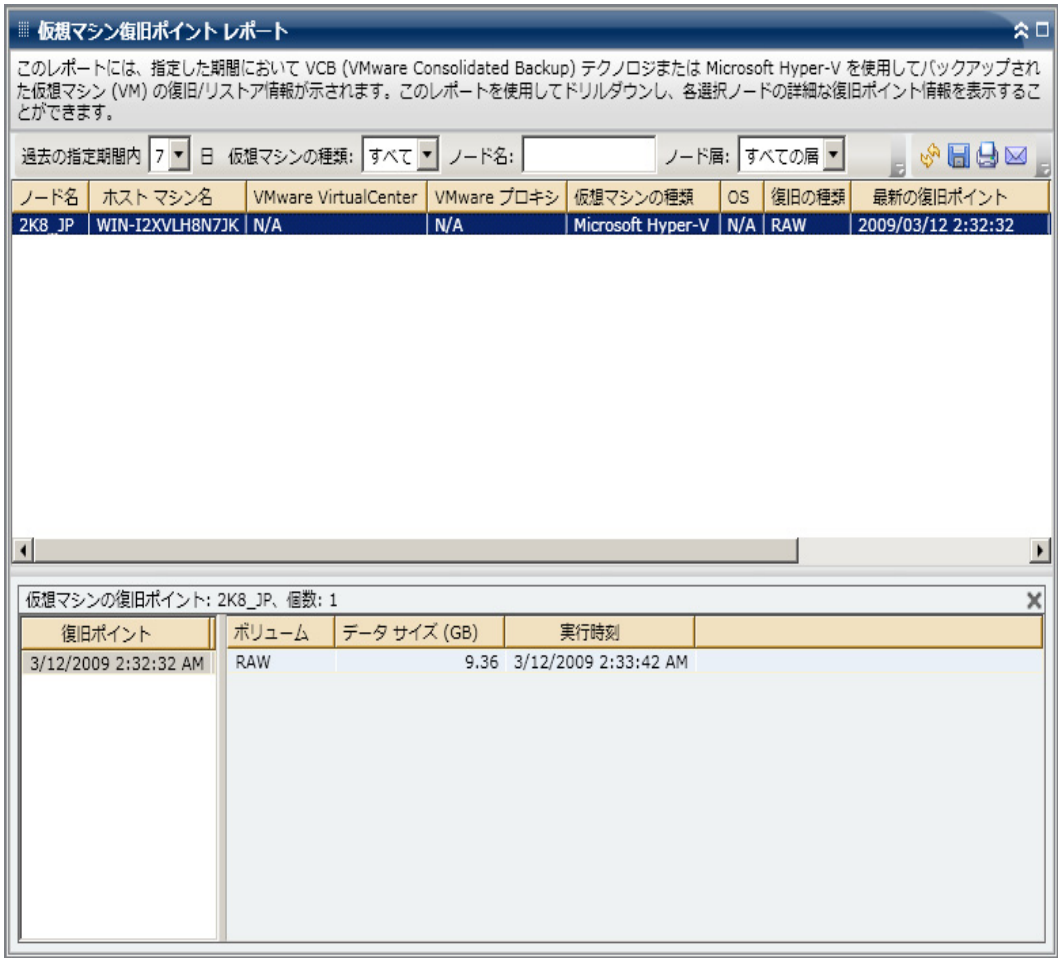
注: このレポートには、少なくとも 1 回バックアップが正常に行われた仮想マシンのみが表示されます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。



ドリルダウン レポート

仮想マシン復旧ポイント レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。 サマリ情報レポートで、列をクリックして、特定の復旧ポイントに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。



ドリルダウン レポート ビューは、復旧ポイントとボリュームの 2 つの表で構成されます。

復旧ポイント テーブル

復旧ポイント テーブルには、選択した仮想マシンで利用可能な復旧ポイントが表示され、復旧ポイントの日付/時刻が一覧表示されます。

ボリューム テーブル

ボリューム テーブルには、選択した復旧ポイントに含まれているバックアップされたボリュームがすべて表示されます。

仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート

仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポートには、VCB（VMware Consolidated Backup）テクノロジまたは Microsoft Hyper-V を使用してバックアップした各仮想マシン（VM）の最新のバックアップ ステータスが一覧表示されます。

レポートの利点

仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポートは、どの VM のバックアップ ジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、VM の最新のバックアップのステータスをチェックすることができます。 前日からのバックアップ ステータスがすべて緑（成功）の場合、正常にバックアップされたことがわかります。 しかし、バックアップ ステータスが赤（失敗）の場合、この VM のノード バックアップ ステータス レポートのドリルダウン レポートにあるアクティビティ ログと結果を相互に比較して、問題の領域を特定し、遅延なく修正することができます。 また、成功した VM バックアップの場合には、各 VM で利用可能な復旧の種類（raw、ファイル、またはその両方）を特定できます。

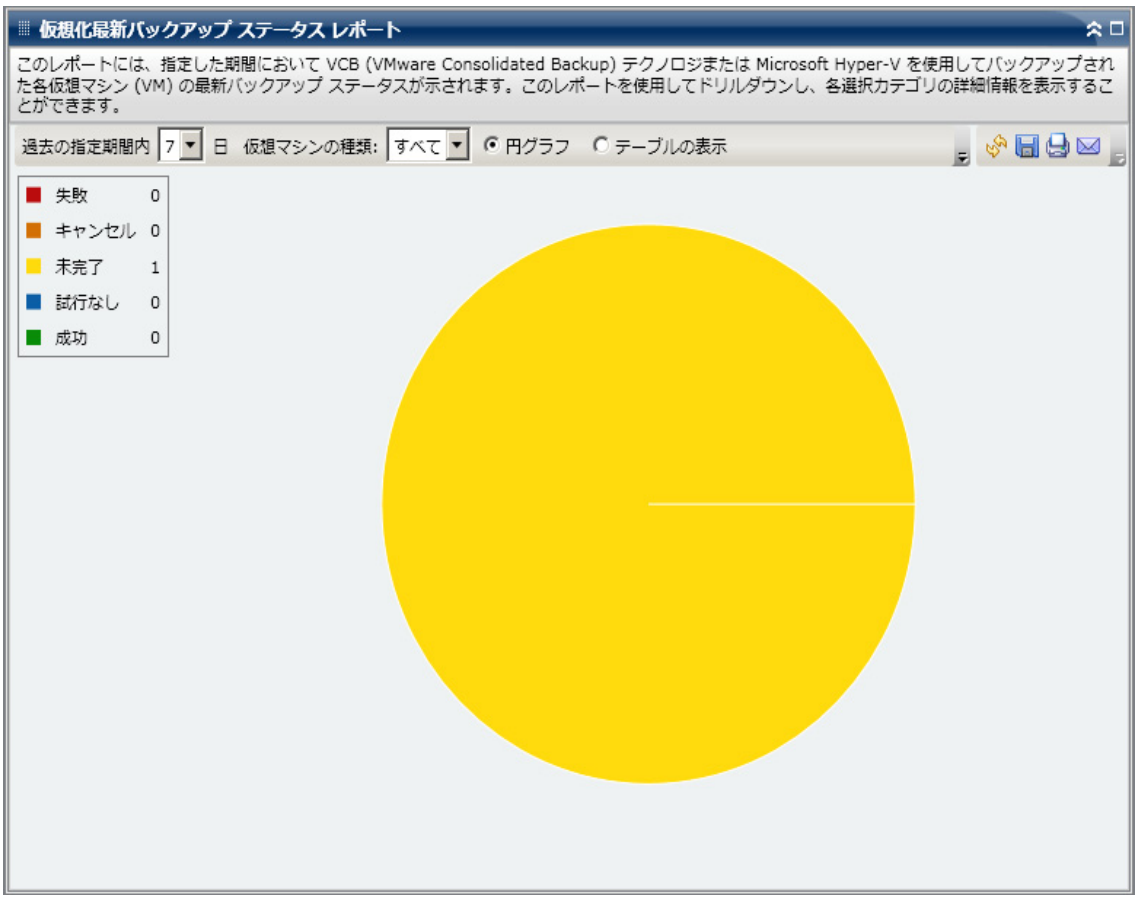
常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるジョブを特定し、同じジョブが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。 問題のバックアップ ジョブの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。

円グラフ

円グラフには、仮想マシンの最新のバック アップステータスが表示されます。



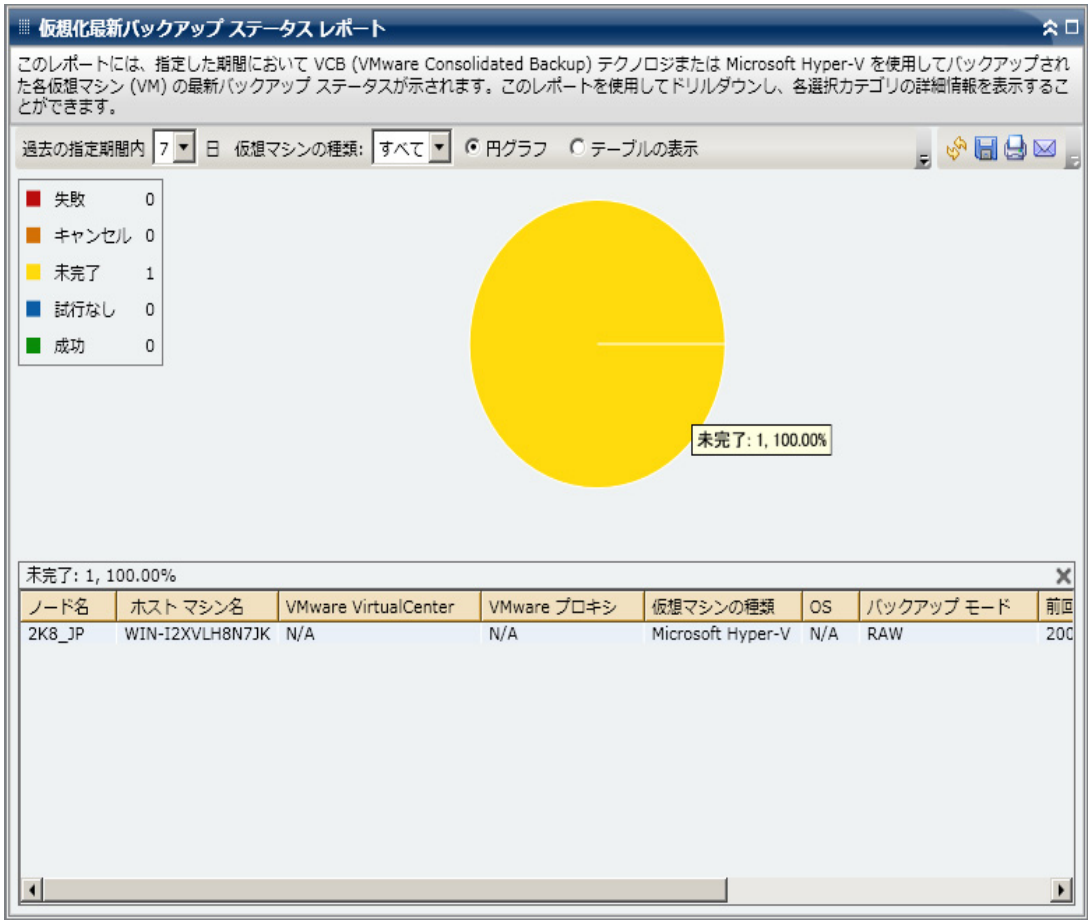
テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポートには、すべてのバックアップ ステータス カテゴリの詳しい情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、ホスト マシン名、VMware Virtual Center、VMware プロキシ、仮想マシンなどが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポートの円グラフ ビューを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を含むドリルダウン レポートを表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



ボリューム レポート

ボリューム レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、環境内のすべての Windows ノードのボリューム情報を表示します。 このレポートでは、使用されているボリューム容量(パーセント)によってノードが分類されます。 割り当て領域の容量はディスク レポートに表示されます。

レポートの利点

ボリューム レポートは、利用できる空き容量に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。 この全体像から、どのノードに空き容量がほとんどなく、問題を生じる可能性があるかを分析して特定することができます。 このレポートによって、空き容量がなくなる危険のあるノードや全容量が使用されているノードも特定できます。 さらに、デフラグの必要なボリュームがあるノードを特定することもできます。

このレポートをディスク レポートと共に使用すれば、割り当て容量を使用容量と比較しながら分析することができます。

たとえば、このレポートによって、あるボリュームに空き容量がほとんどないことがわかった場合は、ディスク レポートをチェックして、割り当て領域と使用されている領域の容量を比較する必要があります。 割り当て領域が少なく、使用領域が多い場合は、割り当てられていない領域の原因を調査し、可能であれば、利用できる領域を有効活用するためにボリュームを新規作成する必要があります。

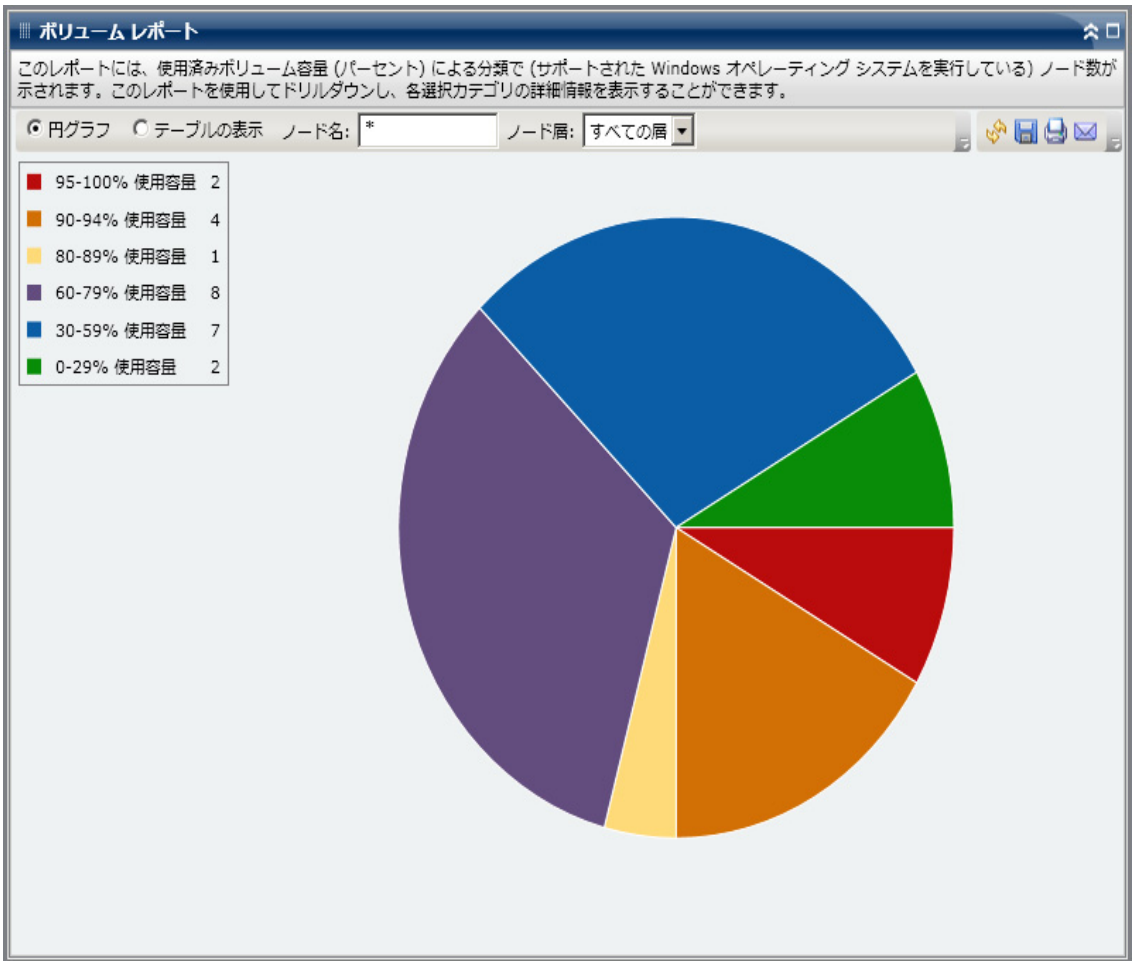
問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

レポート ビュー

ボリューム レポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。

円グラフ

円グラフには、事前に定義したパーセント カテゴリでボリューム容量が表示されます。



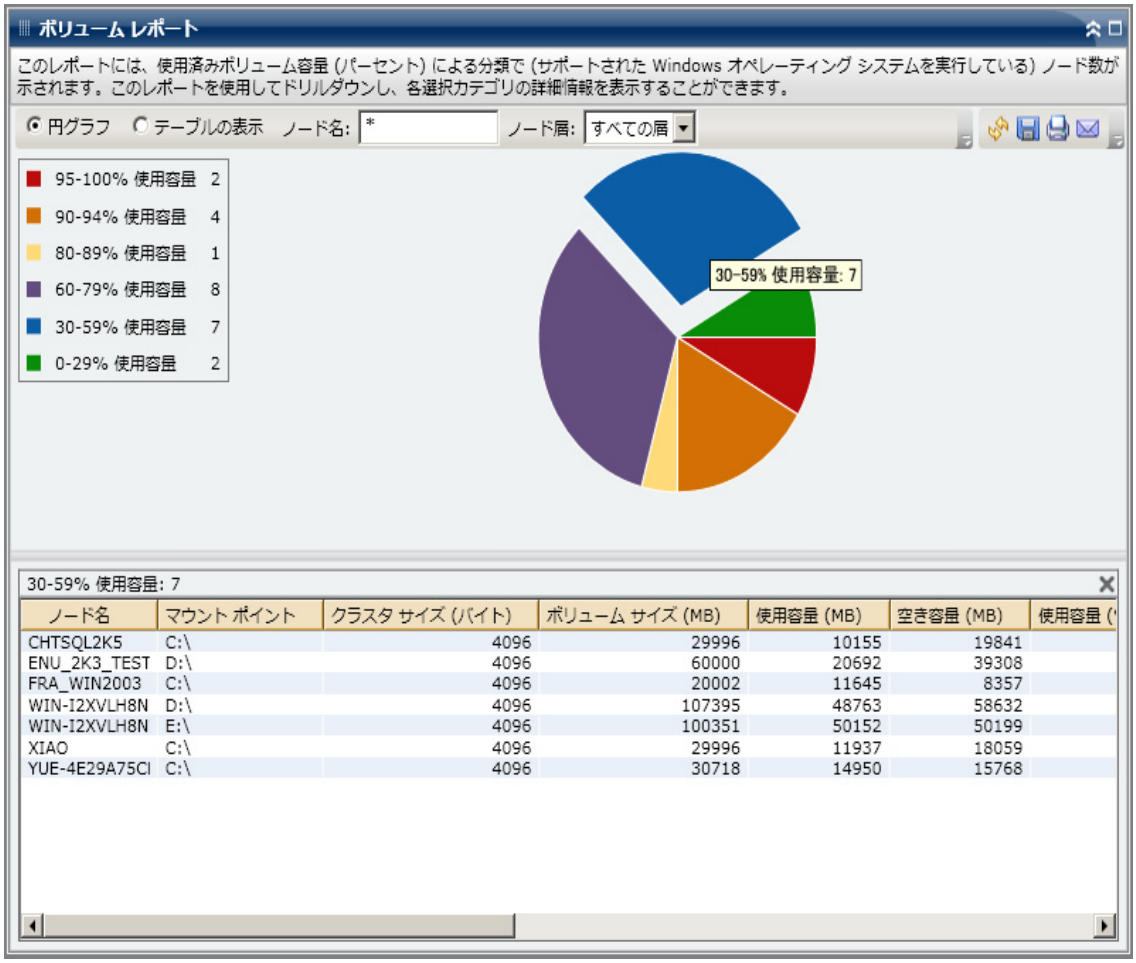
テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、ボリューム レポートには、すべてのカテゴリの詳しい情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、マウント ポイント、クラスタ サイズ、ボリューム サイズ、空き容量、空き容量(%)、ボリュームの種類、ディスク名、圧縮済み、ファイル システムの種類、総フラグメンテーションなどが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。 詳細については、「ノード情報」(38 ページ)を参照してください。

ドリルダウン レポート

ボリューム レポートを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を含むドリルダウン レポートを表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



第 4 章: トラブルシューティング

このセクションでは、CA ARCserve Backup Dashboard の典型的な問題と、その原因および解決策について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

電子メール通知が送信されない(138 ページ)
Dashboard にデータが表示されない(139 ページ)
以前の CA ARCserve Backup データベースをリストアした後、Dashboard にデータが表示されない(140 ページ)
コマンド ラインを使ってバックアップしたノードのデータが Dashboard に表示されない(141 ページ)
Dashboard の起動時に空の画面が表示される(141 ページ)
Dashboard の起動時に未処理例外の警告が表示される(142 ページ)
SRM データ プローブが実行されない(142 ページ)
SRM データ プローブのパフォーマンスに問題がある(143 ページ)
SRM プローブの画面に「サービスの準備ができていません」というメッセージが表示される(144 ページ)

電子メール通知が送信されない

スケジュールされた電子メール通知が送信されない場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

1. CA ARCserve Backup サービスが実行されていることを確認し、必要に応じて再起動します。 CA ARCserve Backup サービスの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。
2. Dashboard 電子メール通知設定が正しく適用されているかを確認します。 詳細については、「電子メール レポートの設定」(20 ページ)を参照してください。
3. 電子メール スケジュールのログ メッセージを以下の手順で確認します。
   a. グローバル オプション ツールバーで[電子メールのスケジュール]アイコンをクリックし、スケジュール マネージャのダイアログ ボックスを開きます。
   b. このダイアログ ボックスで、[ログ メッセージの表示]ボタンをクリックしてログ メッセージ ウィンドウを表示し、実行されたスケジュールのログ メッセージを確認します。
      - ログ メッセージにより、電子メール サーバにアクセスできないことが示された場合は、接続を確立するためマシンに対して PING を実行します。 それでもマシンにアクセスできない場合は、CA テクニカル サポート(http://ca.com/jp/support/)までお問い合わせください。
      - ログ メッセージにより、電子メール設定が正しくないことが示された場合は、Alert マネージャの適切な通知設定が適用されていることを確認します。 Alert マネージャの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

Dashboard にデータが表示されない

CA ARCserve Backup Dashboard に何もデータが表示されない場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

注: Dashboard では、r12.5 以降の CA ARCserve Backup エージェントがインストールされているノードに関してのみモニタおよびレポートが可能です。

1. Dashboard 用のデータが収集されていることを確認します。
   - SRM タイプのレポートの場合、各ノードまで移動および展開し、SRM プローブを実行してデータを収集します。

     SRM プローブは手動で開始できます。その場合は、[SRM プロービング]ダイアログ ボックスを開いて[今すぐプローブ実行]ボタンをクリックします。または次の自動プローブが開始される時刻(午後 2 時)まで待ちます。
   - バックアップ環境タイプのレポートの場合、CA ARCserve Backup r12.5 エージェントのバックアップを実行します。
2. CA ARCserve Backup サービスが実行されていることを確認し、必要に応じて再起動します。 CA ARCserve Backup サービスの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。
3. レポートを更新します。
4. それでも問題が解決しない場合は、CA.ARCserve.CommunicationFoundation.WindowsServices.exe.config ファイルを開き、対応する CACF.svclog 情報を強化する必要があります。

   設定ファイルは、以下のディレクトリにあります。

   ```
   X:¥Program Files¥CA¥ARCServe Backup
   ```

   a. 設定ファイルで、以下の文字列を確認します。

      ```
      source name="CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Trace"
      ```

   b. 値をデフォルトの「情報(Information)」から「詳細(Verbose)」に変更します。こうすることによって、より詳細な情報がログ ファイルに出力されるようになり、CA による問題のトラブルシューティングに役立ちます。

   c. CA ARCserve Backup サービスを再起動します。

   d. Dashboard レポートを更新します。

   e. 以下のディレクトリにある CACF.svclog ファイルを確認します。

      ```
      X:¥Program Files¥CA¥ARCServe Backup¥LOG
      ```

   f. CACF.svclog ファイルを調査のため CA テクニカル サポートに送信します。

      技術的サポートが必要な場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト(http://www.ca.com/jp/support/)をご覧ください。

以前の CA ARCserve Backup データベースをリストアした後、Dashboard にデータが表示されない

以前の CA ARCserve Backup データベースをリストアした後、Dashboard にデータが表示されない場合、次のトラブルシューティング手順を実行します。

1. CA ARCserve Backup データベースをリストアしていない場合は、この問題を避けるために次のように[現在の ARCserve ドメイン メンバシップを残しておく]オプションを指定していることを確認してください。

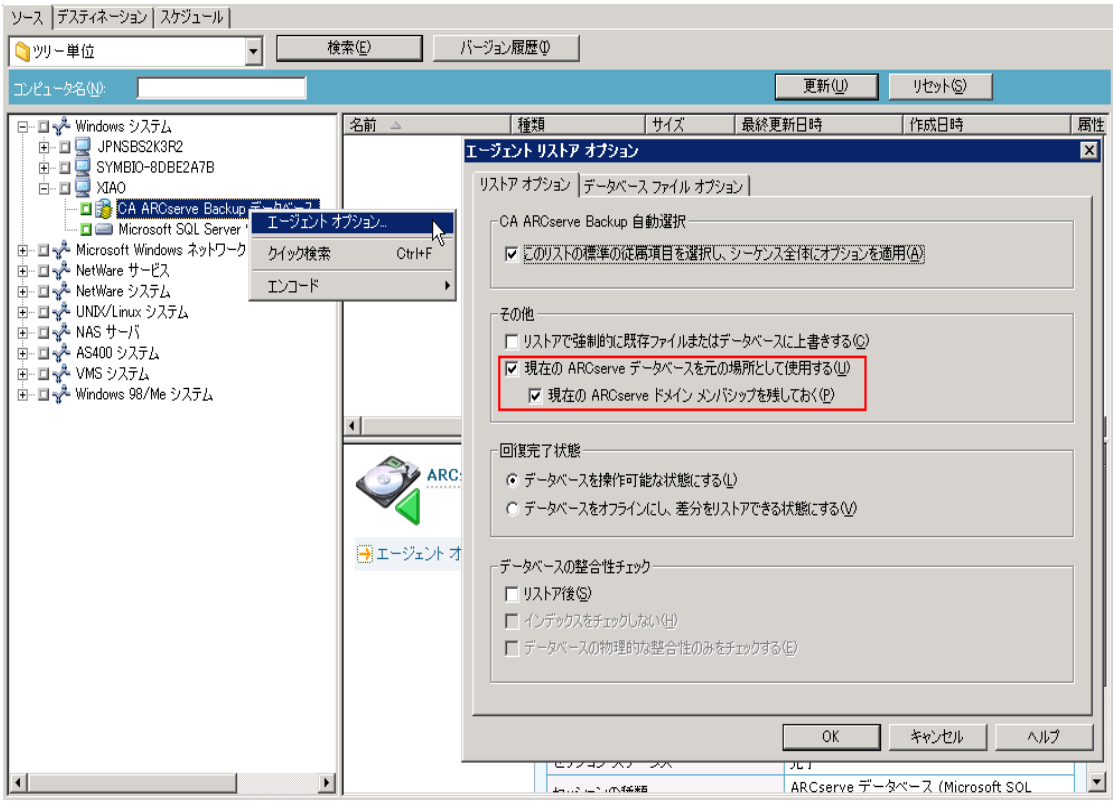
   a. リストア マネージャから、リストアする CA ARCserve Backup データベースを選択します。

   b. 右クリックして、ポップアップ メニューから[エージェント オプション]を選択します。

      [エージェント リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。

   c. 右クリックして、ポップアップ メニューから[エージェント オプション]を選択します。

   d. [リストア オプション]タブで、[現在の ARCserve データベースを元の場所として使用する]を選択し、さらに関連する[現在の ARCserve ドメイン メンバシップを残しておく]オプションを選択します。



2. CA ARCserve Backup データベースをすでにリストアしている場合(および[現在の ARCserve ドメイン メンバシップを残しておく]オプションが選択されていない場合)、以下のようにサーバ環境設定ウィザードを使って、CA ARCserve Backup データベース認証情報を入力する必要があります。

   a. 新しいプライマリ サーバ上の CA ARCserve Backup マネージャを閉じます。

   b. サーバ環境設定ウィザードを起動し、[データベースの選択]オプションを選択します。

   c. [SQL データベース システム アカウント]画面が表示されるまで、表示される画面に必要な情報を入力します。「DB の上書き」を警告するメッセージが表示される場合は、[OK]をクリックします。

   d. 以前のデータを残すには、[既存の "ARCSERVE_DB" インスタンスを上書きします。]のチェック マークをオフにし、[次へ]をクリックします。

   e. [サーバ環境設定ウィザード]が更新を完了したら、[完了]をクリックします。

   f. サーバ環境設定ウィザードを閉じ、CA ARCserve Backup マネージャを開いて Dashboard を起動します。

コマンド ラインを使ってバックアップしたノードのデータが Dashboard に表示されない

コマンド ライン(ca_backup)を使ってバックアップしたノードのデータが Dashboard に表示されない場合、次のトラブルシューティング手順を実行します。

1. Windows システム オブジェクトを右クリックし、ポップアップ メニューから[マシン/オブジェクトの追加]を選択してバックアップ マネージャ GUI に同じノードを追加します。

2. 管理者、またはそれと同等のユーザの認証情報を指定して、ソース ディレクトリ ツリーでノードを展開します。

   これで、Dashboard レポートにノードのデータが表示されるようになります。

Dashboard の起動時に空の画面が表示される

この問題が発生した場合、CA ARCserve Backup のインストール後にマシンを再起動していない可能性があります。 CA ARCserve Backup のインストール時には、.NET Framework 3.5 SP1 もインストールされるため、.NET Framework によってマシンの再起動が必要とされます。 Dashboard に空の画面が表示された場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

1. マシンを再起動します。

2. 問題が解決しない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト (http://www.ca.com/jp/support/)をご覧ください。

Dashboard の起動時に未処理例外の警告が表示される

この問題が発生した場合、CA ARCserve Backup のインストール後にマシンを再起動していない可能性があります。 CA ARCserve Backup のインストール時には、.NET Framework 3.5 SP1 もインストールされるため、.NET Framework によってマシンの再起動が必要とされます。 Dashboard に警告画面が表示された場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

1. マシンを再起動します。
2. 問題が解決しない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト (http://www.ca.com/jp/support/)をご覧ください。

SRM データ プローブが実行されない

SRM データ プローブが実行されない場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

1. [SRM プロービング]ダイアログ ボックスを開き、[今すぐプローブ実行]ボタンをクリックして SRM プローブを手動で開始します。
2. レポートを更新します。
3. AgIfProb.exe.log ファイルを開いて詳細を確認します。 AgIfProb.exe.log ファイルは、以下のディレクトリにあります。

   ```
   X:¥Program Files¥CA¥ARCServe Backup¥LOG
   ```

4. AgIfProb.exe.log ファイルで、以下を確認します。
   a. ノードが有効なノード名で表示されているかどうかを確認します。 これにより、CA ARCserve Backup がノードの存在を認識しているかどうかがわかります。
   b. CA ARCserve Backup のデータベースに、ノードにアクセスするためのユーザのログイン認証情報が含まれているかどうかを確認します。

      ログにより、このノードに関するユーザ情報が何もデータベースに存在しないことがわかった場合は、バックアップ マネージャにアクセスし、ノード名まで移動および展開して適切なセキュリティ認証情報(ユーザ名およびパスワード)を指定します。

c. CA ARCserve Backup がノードに接続できているかどうかを確認します。 ログにより、ノードへの接続に失敗していることがわかった場合は、接続を確立するためノードに対して PING を実行します。 これにより、ノード上のクライアントエージェントが機能しているかどうかがわかります。

5. それでも問題が解決しない場合は、AgIfProb.exe.log ファイルを調査のため CA テクニカル サポートに送信してください。

   技術的サポートが必要な場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト（http://www.ca.com/jp/support/）をご覧ください。

SRM データ プローブのパフォーマンスに問題がある

SRM プローブのパフォーマンスにおいて、時間がかかり過ぎているまたは過剰なシステム リソースが使われているなどの問題がある場合は、同時接続（並列スレッド）の数を設定して、このパフォーマンスを改善します。 SRM データ収集プロセスのパフォーマンスを変更するには、新しいレジストリ キーを追加して、該当する並列スレッドの値をニーズにあわせて変更します。

SRM プローブ スレッド数をレジストリ エディタで設定する方法

1. レジストリ エディタを開きます。
2. レジストリ エディタのツリーで、以下のノードまで展開します。

   HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ComputerAssociates¥CA ARCServe Backup¥Base¥Task¥Common

3. 新規キーを追加し（まだ存在していない場合）、「SRMReportTime」と名前を付けます。
4. 新しい DWORD 値を追加して「ThreadCount」という名前を付けます。
5. Thread Count オプションをダブルクリックして［DWORD 値の編集］ダイアログ ボックスを開きます。 このダイアログ ボックスで DWORD 設定を変更します。

   CA ARCserve Backup では、新規キーを追加しない限り、デフォルトでこの SRM データ収集の値が 16 スレッドに設定されています。 設定可能な最小値は 1（1 つのスレッドを使用して SRM データを収集）、最大値は 32 です。 32 より大きい数値を入力した場合は無視され、最大値である 32 並列スレッドが適用されます。

   - 並列スレッドの数を増やした場合、SRM プローブにかかる全体の時間は短縮されますが、システム リソースに対する影響は大きくなります。
   - 並列スレッドの数を減らした場合、バックアップ サーバに対する影響は軽減されますが、SRM プローブにかかる全体の時間は長くなります。

6. SRM プローブのスレッド数（Thread Count）オプションの設定が完了したら、レジストリ エディタを閉じて CA ARCserve Backup サーバ上でデータベース エンジンサービスを再起動します。

SRM プローブの画面に「サービスの準備ができていません」というメッセージが表示される

この問題は、SRM プローブ ユーティリティが SRM 関連情報をノードから収集できないために発生します。 問題の原因となっているノードを特定するには、AgIfProb.exe.log ファイルで詳細を確認します。 AgIfProb.exe.log ファイルは、以下のディレクトリにあります。

X:¥Program Files¥CA¥ARCServe Backup¥LOG

ログ ファイルで、「Receive xml size tli header failed, error number=183」というエントリがノードに記録されている場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

1. データベース エンジン サービスを再起動して SRM プローブを再度実行します。
2. 問題が解決しない場合は、弊社テクニカル サポートの Web サイト (http://www.ca.com/jp/support/)をご覧ください。

索引

C

CA ARCserve Backup Dashboard
- GUI - 14
- 概要 - 11
- グラフ表示 - 15
- グループ - 33
- グローバル オプション - 18
- 電子メール レポート - 20
- レポート - 41
- レポート タイプ - 41
- レポート特有のオプション - 27

CPU レポート - 54
- ドリルダウン レポート - 56
- レポートの利点 - 54
- レポート ビュー - 55

D

Dashboard グループ - 33
- 削除 - 37
- 追加 - 35
- 変更 - 36

Dashboard グループの削除 - 37
Dashboard グループの追加 - 35
Dashboard グループの変更 - 36

G

GUI - 14

N

NIC レポート - 81
- ドリルダウン レポート - 83
- レポートの利点 - 81
- レポート ビュー - 82

O

OS レポート - 109
- レポートの利点 - 109
- レポート ビュー - 110

R

RPO（Recovery Point Objective、目標復旧ポイント）レポート - 111
- ドリルダウン レポート - 114
- レポートの利点 - 112
- レポート ビュー - 113

S

SCSI/ファイバ カード レポート - 115
- ドリルダウン レポート - 117
- レポートの利点 - 115
- レポート ビュー - 116

SRM の環境設定 - 29
SRM プローブ - 29
SRM レポート - 42

あ

エージェント更新の警告 - 39
エージェント分布レポート - 44
- ドリルダウン レポート - 46
- レポートの利点 - 44
- レポート ビュー - 45

円グラフ表示 - 15
オプション - 27

か

カーソル概要 - 15
概要 - 11
仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート - 130
- ドリルダウン レポート - 132
- レポートの利点 - 130
- レポート ビュー - 131

仮想マシン復旧ポイント レポート - 127
- ドリルダウン レポート - 129
- レポートの利点 - 127
- レポート ビュー - 128

機能 - 13
グラフ表示 - 15
グローバル オプション - 18

さ

最近のバックアップに失敗したノード レポート - 106
ドリルダウン レポート - 107
レポートの利点 - 106
レポート ビュー - 106
ジョブ バックアップ ステータス レポート - 68
ドリルダウン レポート - 71
レポートの利点 - 68
レポート ビュー - 69
新規電子メール スケジュールの追加 - 22
スループット - 126

た

ディスク レポート - 65
ドリルダウン レポート - 67
レポートの利点 - 65
レポート ビュー - 65
データのエクスポート - 123
データのソート - 123
テープ暗号化ステータス レポート - 119
ドリルダウン レポート - 119
レポートの利点 - 118
レポート ビュー - 119
デデュプリケーション効果推定レポート - 60
レポートの利点 - 60
レポート ビュー - 61
デデュプリケーション ステータス レポート - 62
ドリルダウン レポート - 64
レポートの利点 - 62
レポート ビュー - 63
電子メール スケジュール ステータス - 26
電子メール スケジュール ステータスのトラッキング - 26
電子メールのスケジュール設定 - 18, 20
電子メールのスケジューリング - 18, 20
電子メール レポートの設定 - 20
ドリルダウン レポート - 43
CPU レポート - 56
NIC レポート - 83
RPO（Recovery Point Objective、目標復旧ポイント）レポート - 114
SCSI/ファイバ カード レポート - 117
エージェント分布レポート - 46
仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート - 132
仮想マシン復旧ポイント レポート - 129
最近のバックアップに失敗したノード レポート - 107
ジョブ バックアップ ステータス レポート - 71
ディスク レポート - 67
テープ暗号化ステータス レポート - 119
デデュプリケーション ステータス レポート - 64
ノード暗号化ステータス レポート - 95
ノード惨事復旧レポート - 91
ノード層レポート - 105
ノード バックアップ ステータス レポート - 87
ノード復旧ポイント レポート - 100
バックアップ データの場所レポート - 50
バックアップに失敗したノード レポート - 124
ボリューム レポート - 135
メディア検証レポート - 77
メディアのデータ分布レポート - 59
メモリ レポート - 80

な

ノード暗号化ステータス レポート - 93
ドリルダウン レポート - 95
レポートの利点 - 93
レポート ビュー - 94
ノード サマリ レポート - 101
レポートの利点 - 101
レポート ビュー - 102
ノード情報ウィンドウ - 38
ノード層 - 38
ノード層レポート - 103
ドリルダウン レポート - 105
レポートの利点 - 103
レポート ビュー - 104
ノード バックアップ ステータス レポート - 84
ドリルダウン レポート - 87
レポートの利点 - 84
レポート ビュー - 84
ノード復旧ポイント レポート - 98
ドリルダウン レポート - 100
レポートの利点 - 98
レポート ビュー - 99

は

バックアップ サーバ負荷分散レポート - 51
レポート ビュー - 51

バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポート - 125
レポートの利点 - 125
レポート ビュー - 126
バックアップ データの場所レポート - 48
ドリルダウン レポート - 50
レポートの利点 - 48
レポート ビュー - 49
バックアップに失敗したノード - 123
バックアップに失敗したノード レポート - 122
ドリルダウン レポート - 124
レポートの利点 - 122
レポート ビュー - 123
棒グラフ概要 - 15
ボリューム レポート - 133
ドリルダウン レポート - 135
レポートの利点 - 133
レポート ビュー - 133

ま

メディア検証レポート - 75
ドリルダウン レポート - 77
レポートの利点 - 75
レポート ビュー - 76
メディアのデータ分布レポート - 57
ドリルダウン レポート - 59
レポートの利点 - 57
レポート ビュー - 58
メモリ レポート - 78
ドリルダウン レポート - 80
レポートの利点 - 78
レポート ビュー - 79
最も遅いバックアップ ノード - 126
最も速いバックアップ ノード - 126

ら

ライセンス レポート - 73
レポートの利点 - 74
レポート ビュー - 74
レポート - 41
CPU レポート - 54
NIC レポート - 81
OS レポート - 109
RPO（Recovery Point Objective、目標復旧ポイント）レポート - 111
エージェント分布レポート - 44
仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート - 130
仮想マシン復旧ポイント レポート - 127
最近のバックアップに失敗したノード レポート - 106
種類 - 41
ジョブ バックアップ ステータス レポート - 68
テープ暗号化ステータス レポート - 118
デデュプリケーション効果推定レポート - 60
デデュプリケーション ステータス レポート - 62
ノード暗号化ステータス レポート - 93
ノード サマリ レポート - 101
ノード層レポート - 103
ノード バックアップ ステータス レポート - 84
ノード復旧ポイント レポート - 98
バックアップ サーバ負荷分散レポート - 51
バックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポート - 125
バックアップ データの場所レポート - 48
バックアップに失敗したノード レポート - 122
ファイバ カード レポート - 115
ボリューム レポート - 133
メディア検証レポート - 75
メディアのデータ分布レポート - 57
メモリ レポート - 78
ライセンス レポート - 73
レポート、ディスク レポート - 65
レポートの折りたたみ表示 - 13
レポートの展開表示 - 13
レポート タイプ - 41
SRM - 42
ドリル ダウン - 43
バックアップ環境 - 42
レポートの折りたたみ表示 - 15
レポートのカスタマイズ - 18
レポートの展開表示 - 15
ログ メッセージ - 20